

東江曲遺跡

新川川河川災害復旧助成事業に伴う東江曲遺跡発掘調査報告書

2003年 2月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

東江曲遺跡

新川河川災害復旧助成事業に伴う東江曲遺跡発掘調査報告書

2003年 2月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

この度、春野町の東江曲遺跡の発掘調査報告書を刊行することができました。この遺跡のある春野町は、吾南平野と呼ばれ西分増井遺跡や山根遺跡など弥生時代や古墳時代の集落関係の遺跡が数多く分布しており先史・古代における高知平野西部の中心舞台となるところです。東江曲遺跡は、今回初めて発見された遺跡ですが、弥生時代後期の竪穴住居や後期中葉の一括遺物を得ることができました。

この地域は、東部の物部川流域とは異なった特徴をもった地域文化の形成のあることが指摘されていましたが、これまでは必ずしも良好な資料に恵まれておらず、具体的な資料を用いての両地域の比較検討をすることができませんでした。今回の調査成果は、それを一歩前進させることが出来たと思います。

新川川とその支流を含む流域一帯は、大規模な河川改修工事によって大きく変貌しつつあります。このような中で、吾南平野に生きた先人によって刻まれた遺跡が明らかとなり記録されたことは、地域の歴史を復元する上で、或いは地域を理解し正しく未来を展望するためにも有意義なことであると思います。本書が地域の歴史資料として、また斯学の向上と寄与することができれば、この上ない喜びであります。

今後とも埋蔵文化財に対しまして一層のご理解とご協力を頂けますようお願い申し上げます。最後に、炎天下、現場作業に従事して下さいました方々、ならびに調査に全面的な協力を頂きました高知県伊野土木事務所の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成15年 2月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所 長 島 内 靖

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
第Ⅱ章 周辺の歴史・地理的環境	2
第Ⅲ章 調査の概要	6
(1)調査の方法	
(2)調査の概要	
第Ⅳ章 I・II区調査成果	9
(1)基本層序	
(2)検出遺構・遺物	
Ⅲ区調査成果	
(1)基本層序	
(2)検出遺構・遺物	
第Ⅴ章 考察	44
第Ⅵ章 まとめ	51

挿図目次

- Fig. 1 : 東江曲遺跡位置図
Fig. 2 : 周辺の遺跡分布図
Fig. 3 : 遺跡周辺の地形
Fig. 4 : 調査区位置図 1
Fig. 5 : 調査区位置図 2
Fig. 6 : I・II区検出遺構全体図及び基本層序位置図
Fig. 7 : I区基本層序
Fig. 8 : II区基本層序
Fig. 9 : ST 2・3 平面、エレベーション図
Fig.10 : ST 2 出土遺物実測図
Fig.11 : ST 2・3 出土遺物実測図
Fig.12 : ST 4 平面・中央ピット平面、セクション図
Fig.13 : ST 4 出土遺物実測図 1
Fig.14 : ST 4 出土遺物実測図 2
Fig.15 : ST 4 出土遺物実測図 3
Fig.16 : SK 5～SK 8 平面、エレベーション図
Fig.17 : SK 5～SK 7 出土遺物実測図
Fig.18 : SD 3 平面・遺物出土状況・セクション図
Fig.19 : SD 3 出土遺物実測図 1
Fig.20 : SD 3 出土遺物実測図 2
Fig.21 : SD 3 出土遺物実測図 3
Fig.22 : SD 3 出土遺物実測図 4
Fig.23 : SD 3 出土遺物実測図 5
Fig.24 : SD 4 セクション及び遺物実測図
Fig.25 : I区遺物集中地点
Fig.26 : I区遺物集中地点出土状況
Fig.27 : I区遺物集中地点出土遺物実測図 1
Fig.28 : I区遺物集中地点出土遺物実測図 2
Fig.29 : I区遺物集中地点出土遺物実測図 3
Fig.30 : I区遺物集中地点及び遺物包含層出土遺物実測図
Fig.31 : I区遺物集中地点及び遺物包含層出土遺物実測図
Fig.32 : I区遺物包含層出土遺物実測図
Fig.33 : ST 1 平面・セクション及びエレベーション図

- Fig.34：ST 1 出土遺物実測図 1
 Fig.35：ST 1 出土遺物実測図 2
 Fig.36：ST 1 出土遺物実測図 3
 Fig.37：ST 1 出土遺物実測図 4
 Fig.38：SK 1・2・9 平面、エレベーション図
 Fig.39：SK 1・9 出土遺物実測図
 Fig.40：Ⅲ区検出遺構全体図及び基本層序位置図
 Fig.41：Ⅲ区基本層序
 Fig.42：SK 3・4、SD 1・2 平面、セクション及びエレベーション図
 Fig.43：SD 1・2 出土遺物実測図
 Fig.44：Ⅲ区遺物集中地点出土遺物実測図 1
 Fig.45：Ⅲ区遺物集中地点出土遺物実測図 2
 Fig.46：北高田遺跡、田村遺跡未通し地区出土土器実測図
 Fig.47：北高田遺跡出土土器実測図

図版目次

- PL 1：I・II区発掘調査前全景(東より)、I区全体完掘状況(南より)
 PL 2：ST 2 遺物出土状況、ST 3・4 完掘状況(東より)
 PL 3：I区土器集中地点出土状況
 PL 4：I区土器集中地点出土状況
 PL 5：SD 3 土器出土状況
 PL 6：II区全体完掘状況(西より)、ST 1・SK 1・2 完掘状況(東より)
 PL 7：ST 1 遺物出土状況
 PL 8：Ⅲ区発掘調査前(西より)、同完掘状況(南より)
 PL 9：SD 1 遺物出土状況
 PL10：ST 2・4、SD 3 出土土器
 PL11：SD 3 出土土器
 PL12：SD 3、I区土器集中地点出土土器
 PL13：I区土器集中地点出土土器
 PL14：I区土器集中地点出土土器
 PL15：I区土器集中地点、ST 1、SD 1 出土土器
 PL16：ST 1・4 出土石器
 PL17：ST 1・2・3・4 出土叩石

第 I 章 調査に至る経過

1998年9月24日高知県中央部は、集中豪雨(高知豪雨)による甚大な被害を被った。特に春野町の新川川やその支流の浸水被害は大きく、氾濫水は流域のほとんど全域で堤防を越えて、家屋や田畑を泥土の海と化してしまった。家屋の床上浸水290棟、床下浸水411棟、氾濫面積703ha、一般被害額170億円にのぼった。新川川流域は河口付近の低平な地形や河口での滞留、戦後実施せられてきた圃場整備事業等によって川幅が狭められ、流下能力が低下していることなどから度々浸水被害を繰り返していた地域であったが、今回のような被害は空前のものであった。

新川川及び北山川などその支流域においては、治水効果を高めるための河川災害復旧等関連緊急事業が採択され、1999年から2001年度に事業が実施されることとなった。新川川流域にはすでに幾つかの埋蔵文化財包蔵地が確認されており、その中には山根遺跡や西分増井遺跡のように高知平野西部の歴史を知る上で重要な位置付けのなされている遺跡もある。未発見の遺跡の存在も予想されるところであった。高知県教育委員会は遺跡保護の立場から、事業主体となる高知県伊野土木事務所と協議を行い、沿線全域の踏査と試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが担当することとなり、北山川流域については、工事区間延長1450mに63個所の試掘グリッドを設定し、2000年10月31日から翌年3月8日まで試掘調査を実施した。その結果、春野町弘岡下字東江曲に設定した試掘グリッドNo.38・39・50から弥生後期土器約500点が出土した。当該期を中心とする集落址の可能性が考えられることから、新発見の遺跡として東江曲遺跡と命名した。そして改修工事によって削平される部分について、1100㎡を対象に記録保存のための本発掘調査を実施する必要性を認め、高知県伊野土木事務所と協議し本調査を実施することとした。本調査は埋蔵文化財センターが担当することとなり、2001年7月11日から開始した。

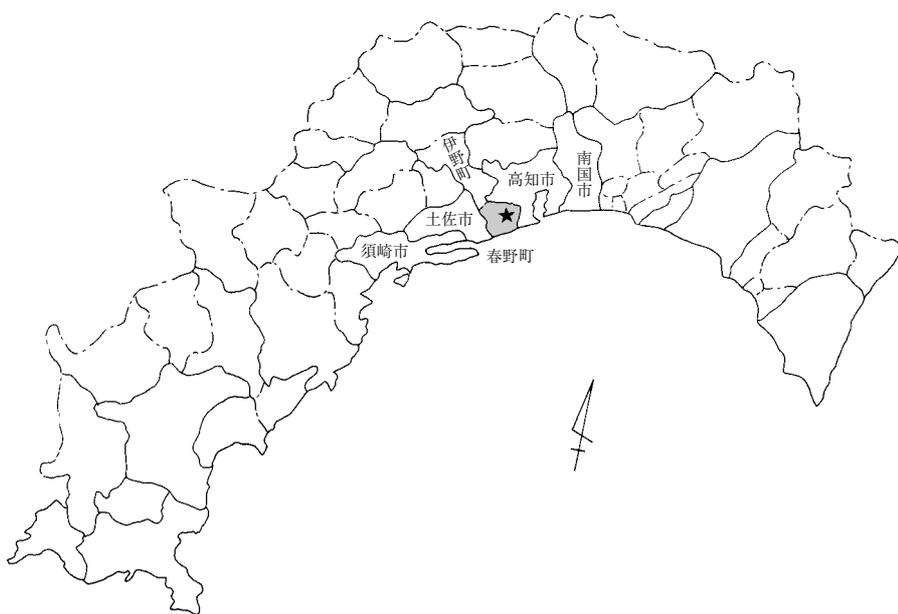


Fig.1 東江曲遺跡位置図

第Ⅱ章 周辺の地理・歴史的環境

1 地理的環境

東江曲遺跡のある吾川郡春野町は、県中央部に広がる高知平野の西部に位置し、県都高知市と境を接している。仁淀川以西の高東平野に対して吾南平野と呼ばれることもある。春野町の地形は、東西帯状に延びる北部山地と吾南平野を形成する中央低地、南部丘陵からなっている。北部山地は秩父帯と四万十帯とを隔する仏像構造線が走っていることで有名である。東江曲遺跡の立地する中央低地は、旧仁淀川の堆積物によるもので吾南平野の主要な生産の舞台となっている⁽¹⁾。

中央低地は微地形によって旧中州、自然堤防、後背湿地などに分かれるが、遺跡の周辺は北部の山塊から派生した山脚が随所に形成せられ、侵食谷と山脚の微高地が交互に展開する複雑な地形が見られる。微高地は集落の営まれるところとなっており、侵食谷の深い低湿地も現在では圃場整備によって盛土が置かれ園芸ハウスが広がるなど、かつての深田の痕跡は薄らいでいるが、長谷、根木谷、大谷などの字名に名残りを留めている。東江曲遺跡は、新川川の左岸に形成された微高地上に立地し標高4m前後を測るが、東方の久万部落が載っている丘陵から派生した微高地の西端部に位置することが試掘調査によって判明している。周囲には低湿地が広がっており、湿地に浮かぶ半島状の地形の先端部に形成された遺跡と言えよう。

2 歴史的環境

吾南平野で最も時代の遡る遺物は、山根遺跡から出土している縄文後期前葉の松ノ木式土器⁽²⁾と西分増井遺跡群出土の縁帯文成立期の土器を挙げることができる。続いて後期中葉には、西分増井遺跡群から比較的まとまった土器や石器、性格は不明であるが9基の土坑を確認している。後期中葉の土器は、胴部や口縁部に縄文を施した片粕式土器が主体で、後出する広瀬上層式土器も含まれる。石器は、石鏃を主体に打製石斧、磨製石斧、石錘、細片であるが石棒も見られる。高知平野の縄文遺跡の分布は少ないが、後期中葉に一つの画期があり沖積平野での展開が認められるようになり、西分増井遺跡群もそのような動向と軌を一にするものである。しかしほぼ同時期に展開する物部川流域の田村遺跡とは石器組成に大きな違いが見られることは興味深い⁽³⁾。晩期の資料は、中葉に属する資料が僅少なながら北川内遺跡から出土している⁽⁴⁾。

南四国における弥生時代社会は、高知平野東部を潤す物部川流域の田村遺跡とその周辺部が主要舞台となって展開する⁽⁵⁾が、近年は吾南平野においても注目すべき事実が明らかになりつつある。当地域の弥生時代は前期前葉から開始される。海岸部の仁ノ遺跡から出土した西見当1式がそのことを示している。この段階の土器の出土は県下でも僅少であり、しかもタイプサイトとなった西見当遺跡(田村遺跡群)以外の遺跡では晩期土器と伴うことを常としてきたが、ここでは純粋に出土している点で注目される。前期中葉には、西分増井遺跡群で竪穴住居が1棟確認されている。この住居址は、いわゆる松菊里型住居と呼ばれるもので、南四国では田村遺跡群以外での唯一の検出例である。その後西分増井遺跡群は、前期末葉の竪穴住居址3棟、山根遺跡らかも1棟確認されている。この他前期末葉の土器が出土している遺跡として、王子遺跡を挙げることができる。

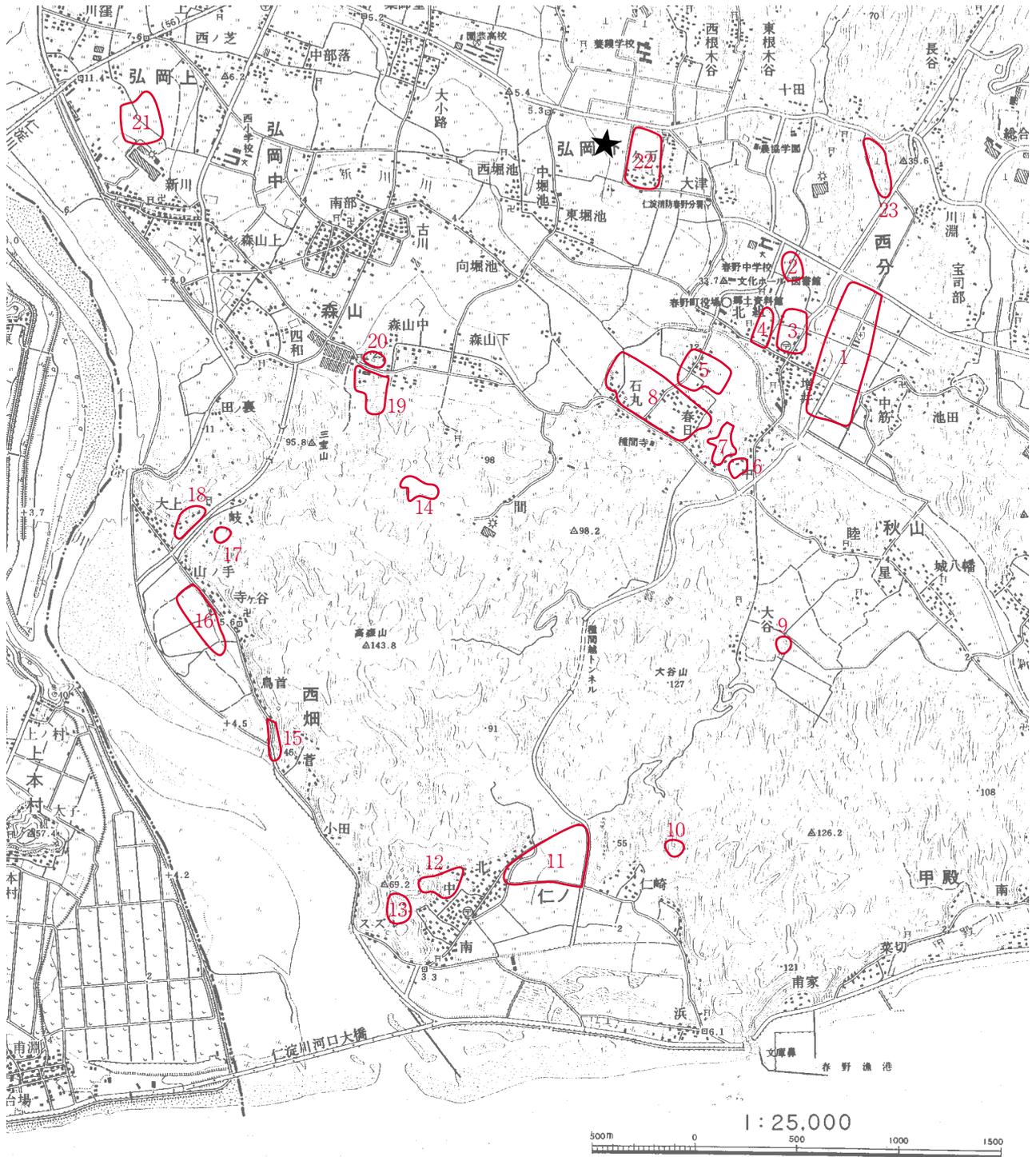


Fig.2 周辺の遺跡分布図

NO	遺跡名	時代	NO	遺跡名	時代	NO	遺跡名	時代
★	東江曲遺跡	弥生~古墳	8	和田遺跡	縄文~中世	16	西畑遺跡	弥生~古墳
1	西分増井遺跡	縄文~古代	9	大谷遺跡	古墳~古代	17	フケ遺跡	弥生
2	大用遺跡	弥生~中世	10	久保田遺跡	古代	18	大上遺跡	古代
3	馬場末遺跡	弥生~中世	11	仁ノ遺跡	弥生~古代	19	二ノ塚遺跡	弥生~中世
4	大寺廃寺跡	弥生~中世	12	寺見ヶ谷遺跡	古代~中世	20	森山城跡	中世
5	山根遺跡	弥生~中世	13	仁ノ城跡	中世	21	天皇遺跡	中世
6	小野遺跡	古墳~古代	14	森山南城跡	中世	22	久万遺跡	弥生~中世
7	秋山城跡	中世	15	西畑城跡	中世	23	木塚城跡	中世

東江曲遺跡周辺遺跡名一覧

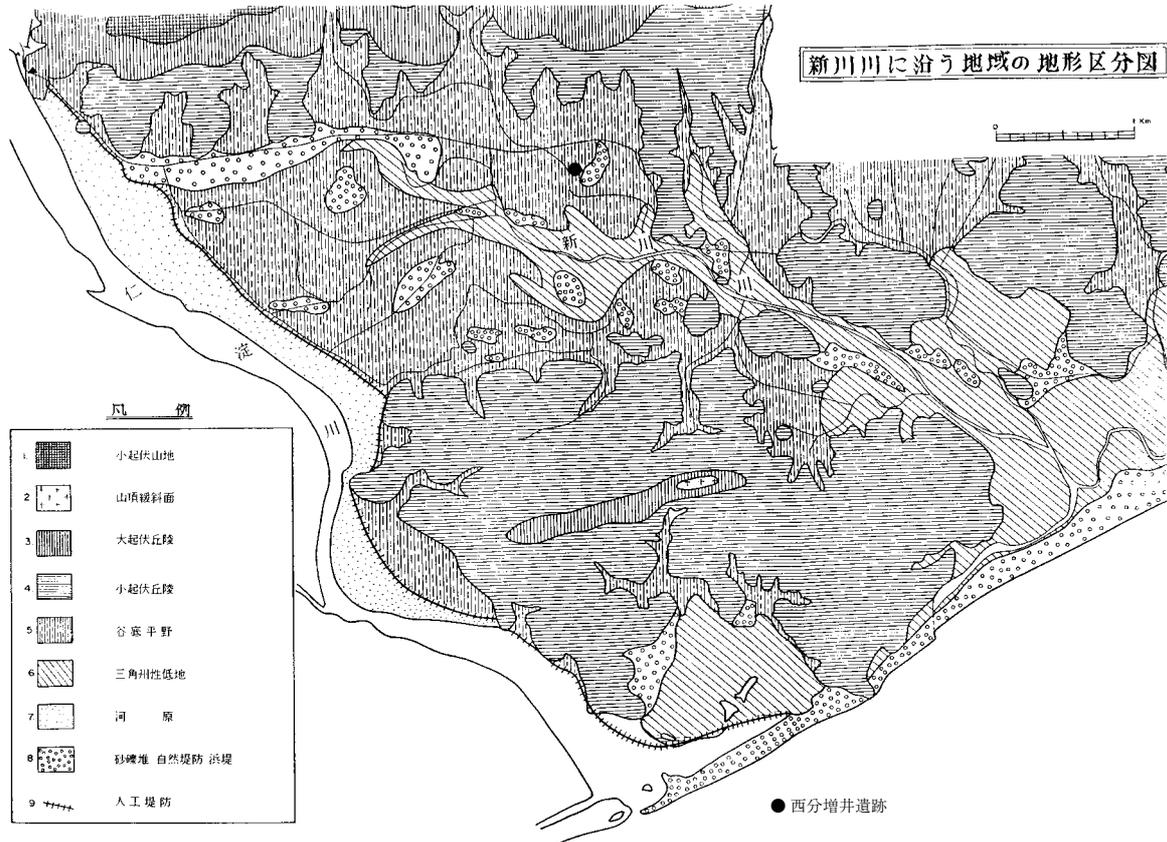


Fig.3 遺跡周辺の地形

南四国における弥生時代前期の集落は、高知平野東部の物部川下流域に展開する田村遺跡群において最もその具体像を捉えることができる。田村遺跡は、前期初頭に松菊里型住居5棟を含む10棟の竪穴住居址と18棟の掘立柱建物、土坑墓、壺棺墓等からなる集落が成立し、やがて環濠を有する集落へと変遷を遂げる⁶⁾。西分増井遺跡とその周辺の遺跡は前期初頭と前葉の段階を欠いているものの、田村遺跡群に次いで高知平野の前期集落の様相を知ることのできる地域である。

吾南平野においては、その後中期の資料を欠き後期前葉に至って再び西分増井遺跡群に竪穴住居が営まれるようになり、その後断続的に後期の集落が展開し、古墳時代前期へと続く。

青銅器については、2001年、2002年の西分増井遺跡の調査において注目すべき発見があった。後期前葉の竪穴住居址や土坑、遺物包含層から、中広型銅矛の袋部や脊部の破片点、扁平鈕式銅鐸の鈕の一部、広型銅戈の関部、銅釧、舶載鏡片3点以上、小型仿製鏡が相次いで検出されたのである。多種・多量の青銅器が集落遺跡から破片となって集中して出土したことは、当遺跡の性格や弥生時代の青銅器の評価にも直結する大きな課題を提示している。さらに、鉄器についても、注目すべき発見があった。後期末から古墳時代前期初頭の竪穴住居や包含層中から鉄鏃、ヤリガンナなどの製品と2000点近い鉄片が、数十点の砥石や叩き石、金床石などと共に出土している。これらの遺物は当遺跡での鉄器生産を窺わせるものである。詳細な位置付けについては青銅器と共に報告書の刊行を待たなければならないが、田村遺跡では認められなかった現象であり、当遺

跡の果たした役割を知る上で極めて重要なものである⁽⁷⁾。

西分増井遺跡は、弥生後期終末から古墳時代初頭に盛行期を迎え、現在竪穴住居が未報告分を含めて、20棟近く検出されている。この中の古墳時代初頭の1棟からは、吉備型甕、東阿波型土器、庄内式土器などの搬入品が集中して出土している⁽⁸⁾。このような搬入土器は、西隣の馬場末遺跡からも出土している⁽⁹⁾。西分増井遺跡とその周辺部は、吾南平野における先史時代の主要舞台として位置付けられよう。

南四国においては、古墳時代初頭を最後に一斉に集落址が見られなくなるという劇的な展開が進行するが、当地域においても例外ではなく、古墳時代前期・中期を通して遺物・遺構を確認することはほとんどできない。南浦遺跡⁽¹⁰⁾や王子遺跡⁽¹¹⁾で水辺の祭祀関連と考えられる土師器高坏・甕が少量出土しているだけである。古墳は、後期古墳も含めて明確に確認することはできない。『春野町史』⁽¹²⁾によれば、唯一、弘岡中横手に7世紀代の小円墳が存在し須恵器坏が出土したとの記載があるのみである。一方、7世紀には、西分増井遺跡西方に大寺廃寺が出現する。調査がなされていないために、伽藍配置などは不明であるが、周辺の畑地から瓦類が発見されている。その中には百済系の有稜線素弁八葉蓮花文鐙瓦が出土している。本県では数少ない白鳳期の瓦である。また大寺廃寺北の丘陵の大用遺跡からは、須恵器坏類の出土の伝えがあり当廃寺関連の窯跡の存在が考えられる。律令期に入ると、当地域は吾川郡仲村郷に編入される。山根石屋敷遺跡4次調査や馬場末遺跡の2001年度調査では、緑釉陶器が多く出土しており、西分増井遺跡からは8世紀代を中心とする土坑が数多く検出されている。律令期においても当地が吾南平野の中心的な位置を占めていたことが窺える。

註

- (1) 建設省高知工事事務所『建設省高知工事事務所40年史』1988年
- (2) 岡本健児・広田典夫『山根・石屋敷遺跡』春野町教育委員会1976年
- (3) 出原恵三『西分増井遺跡群発掘調査報告書』春野町教育委員会1990年
- (4) 小嶋満博『北川内遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2001年
- (5) 出原恵三「南四国における弥生集落の成立と展開」『黒潮』No.11高知大学黒潮圏研究所2001年
- (6) 出原恵三「初期農耕集落の成立」『考古学研究』第34巻3号考古学研究会1987年
- (7) (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター『西分増井遺跡現地説明会資料』2002年
- (8) 註(3)に同じ
- (9) 註(2)に同じ
- (10) 江戸秀輝『南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1993年
- (11) 山本哲也・曾我貴行・江戸秀輝『王子・西ノ芝遺跡の調査』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1992年
- (12) 春野町『春野町史』1976年

第Ⅲ章 調査の概要

1 調査区の概要

調査区は北山川左岸にあり、北山川にそって北西方向から南東方向に延びる幅10m前後、延長100mの細長い調査区である。南寄りの調査区をⅢ区(280m²)とし、北側は大きな現代攪乱坑を境に西側をⅠ区(250m²)、東側をⅡ区(270m²)に調査区を設定した。Ⅱ区とⅢ区との間の空白は、コンクリートの構造物があったことや、試掘の結果現代の攪乱のあることが分かった為に調査対象から除外した。

これらの調査区の標高は4m前後であり、北山川右岸の現水田地盤に比べると1m程高くなっている。右岸に広がる水田は、試掘調査によって後背湿地の上に2m前後の高上げの行われていることが判明している。したがって旧地形の比高差は、数メートルに及ぶものであったことは明らかである。調査区は、現在の集落のある久万地区東方の丘陵から派生した微高地上の高まりの端部に立地している。

先に述べたように、周辺部は北の山塊から八手状に派生した微地形が随所に形成されているが、本調査区もその一つである。また調査区の中でも、Ⅰ区がⅡ・Ⅲ区に比べて高かったことが、後述する基本層序から明らかである。

2 調査の方法

Ⅱ・Ⅲ区の調査は、元水田であり重機による表土剥ぎから開始できたが、Ⅰ区の南半分はコンクリート基礎や農道路盤の除去から行わなければならなかった。また調査区の随所に周辺のビニールハウスから延びた暗渠排水があり、その確保を行いながらの調査となった。

遺構の実測や遺物の取り上げは、高知県伊野土木事務所が設定した任意の座標を基準に東西向に西から東に向かって0・1・2・3……、南北方向に南から北に向かってA・B・C……を付した4m方眼を組んで行った。

3 調査成果の概要

各調査区より検出した主な遺構は、弥生時代後期を中心とする竪穴住居址4棟、土坑9基、溝3条、弥生時代後期終末から古墳時代前期初頭の集中遺物、古代の溝1条である。特に後期中葉の竪穴住居ST1、溝SD1出土の一括遺物は、高知平野西部の土器編年を組む上で基準資料となるものである。



Fig.4 調査区位置図 1

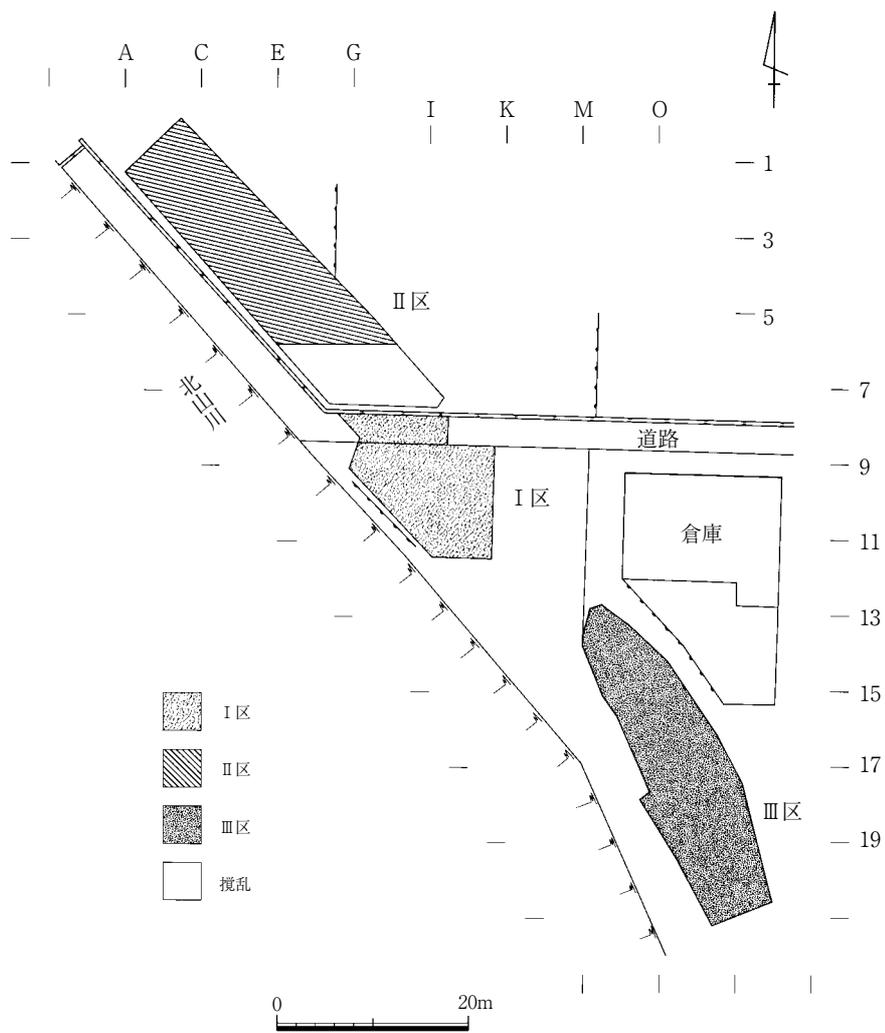


Fig.5 調査区位置図2

第Ⅳ章 調査の成果

1 I・II区の調査

(1) 基本層序(Fig.7・8)

① I区(東壁の層序)

I層：客土である。層厚30～40cm。圃場整備の際に置かれたものである。

II層：旧耕作土である。層厚20～30cm。

III層：にぶい黄褐色シルト層。層厚20～30cm。遺物を含まない。

IV層：褐色シルト層。層厚10～30cmで南に向かって厚さを増す。遺物を含まない。

V層：黄色～褐色シルト層。層厚10～20cmで弥生後期から古墳時代前期初頭の遺物を多く含んでいる。

VI層：褐色シルト層。層厚0～10cmで北部にのみ堆積する。弥生後期の土器を含んでいる。

VII～X層：弥生時代後期の遺構埋土である。

XI層：黄色シルト層。弥生後期の遺構検出面である。

② II区(北壁の層序)

I層：現耕作土である。

II a層：灰茶色粘土層である。層厚10～20cmを測り、弥生後期、古墳時代前期の遺物を含む。

II b層：淡茶色粘土層である。層厚10～20cmを測り、弥生後期、古墳時代前期の遺物を含む。

III層：明褐色のシルト層。弥生後期の遺構埋土である。

IV層：黄色シルト層。弥生後期の遺構検出面である。

V層：濃茶色粘土層である。

II区北壁のII a・II b層は、I区のV・VI層に対応し、IV層はXI層に対応する。

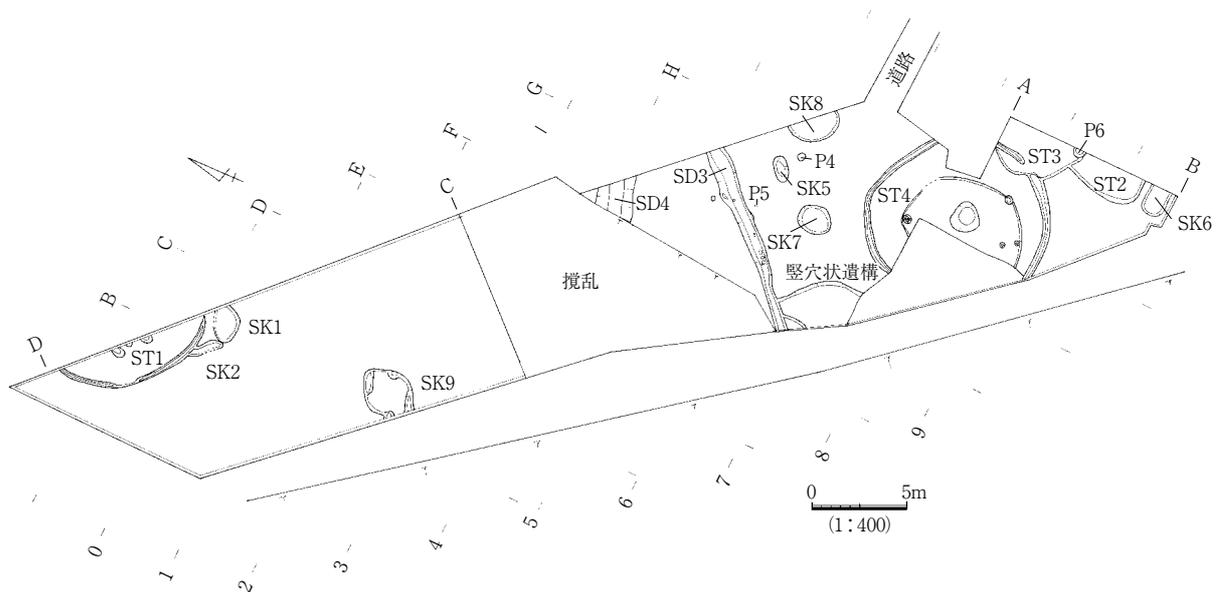


Fig.6 I・II区検出遺構全体図及び基本層序位置図

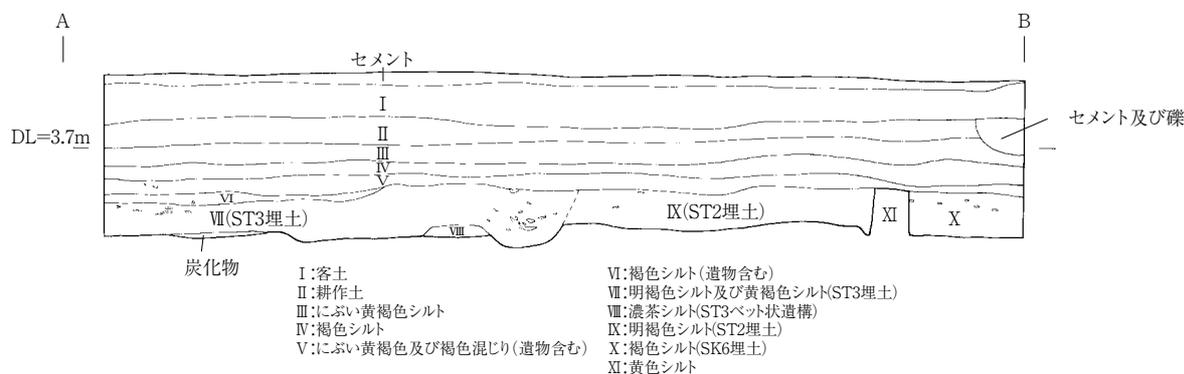


Fig.7 I区基本層序 (東壁)

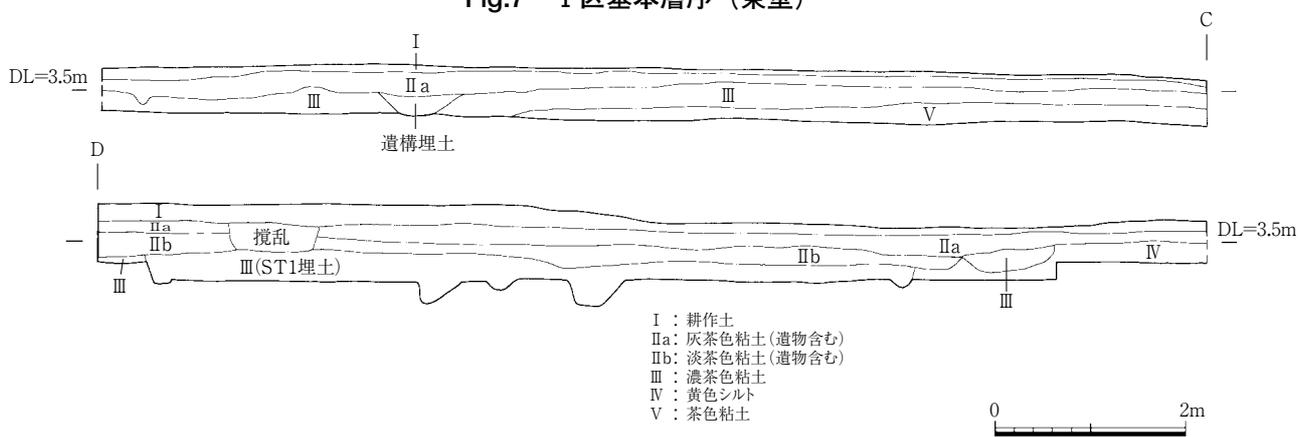


Fig.8 II区基本層序 (北壁)

(2) 1区の検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST 2 (Fig. 9 ~11)

大部分が調査区外に出ており北側をST 3 に切られているが、一辺 4 m 前後の隅丸方形プランを有する住居址と考えられる。深さは40cmを測り、埋土は明褐色シルト層である。埋土は人工層位で1・2回(上・下層)と掘り下げ、最後に床面の遺物を確認し取上げた。上層の遺物は少なく、図示し得たのは壺(3)と甕(7)である。下層からは壺(1)、甕(5・8)、高坏(11・12)、底部(10)が、床面からは、壺(2・6)、甕(9)が出土している。甕(9)は、図示したように床面西壁際から押し潰された状態で出土している。この他図示し得なかったが、上・下層より各1点ずつ高松平野からの搬入土器片が出土している。ST 2 は後期中葉に属する。

ST 3 (Fig. 9・11)

一辺4m前後の隅丸方形プランを有する住居址であるが、半分以上が調査区外に出ている。南部でST 2 を切っており、ST4と切り合っているが先後関係を明らかにすることはできなかった。立ち上がりは10cm未満で残りは良くない。埋土は明褐色シルト層である。調査区東壁のセクションでは、盛土によるベット状遺構(VIII層)の立ち上がりが認められたが平面では捉えることができなかった。南端のP6はST3に伴うピットと考えられる。

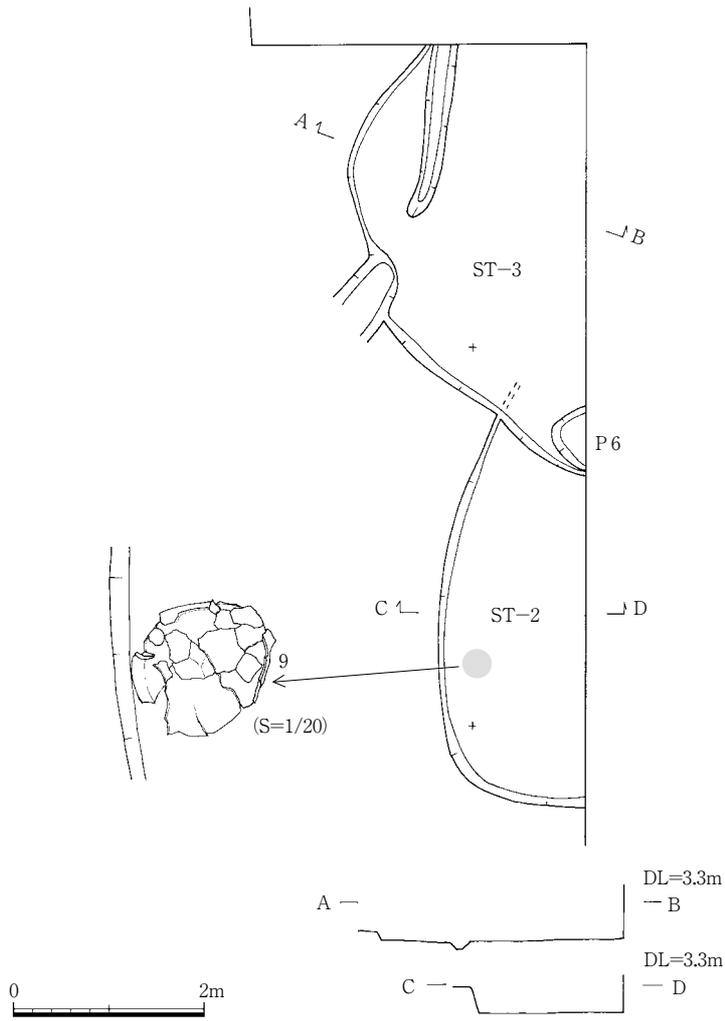


Fig.9 ST2・3平面、エレベーション図

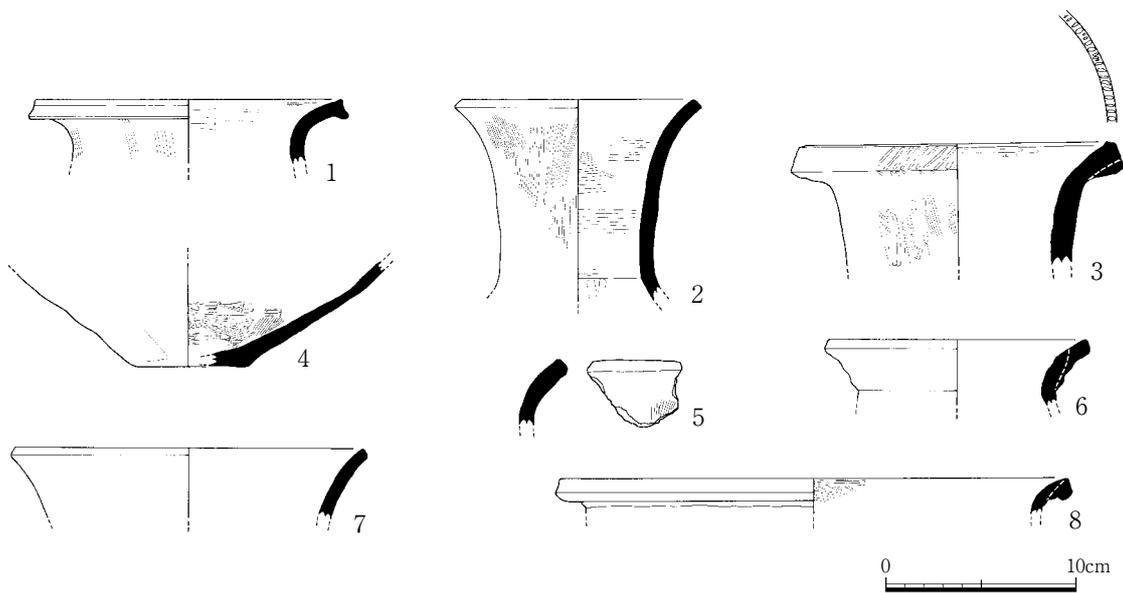


Fig.10 ST2出土土器実測図

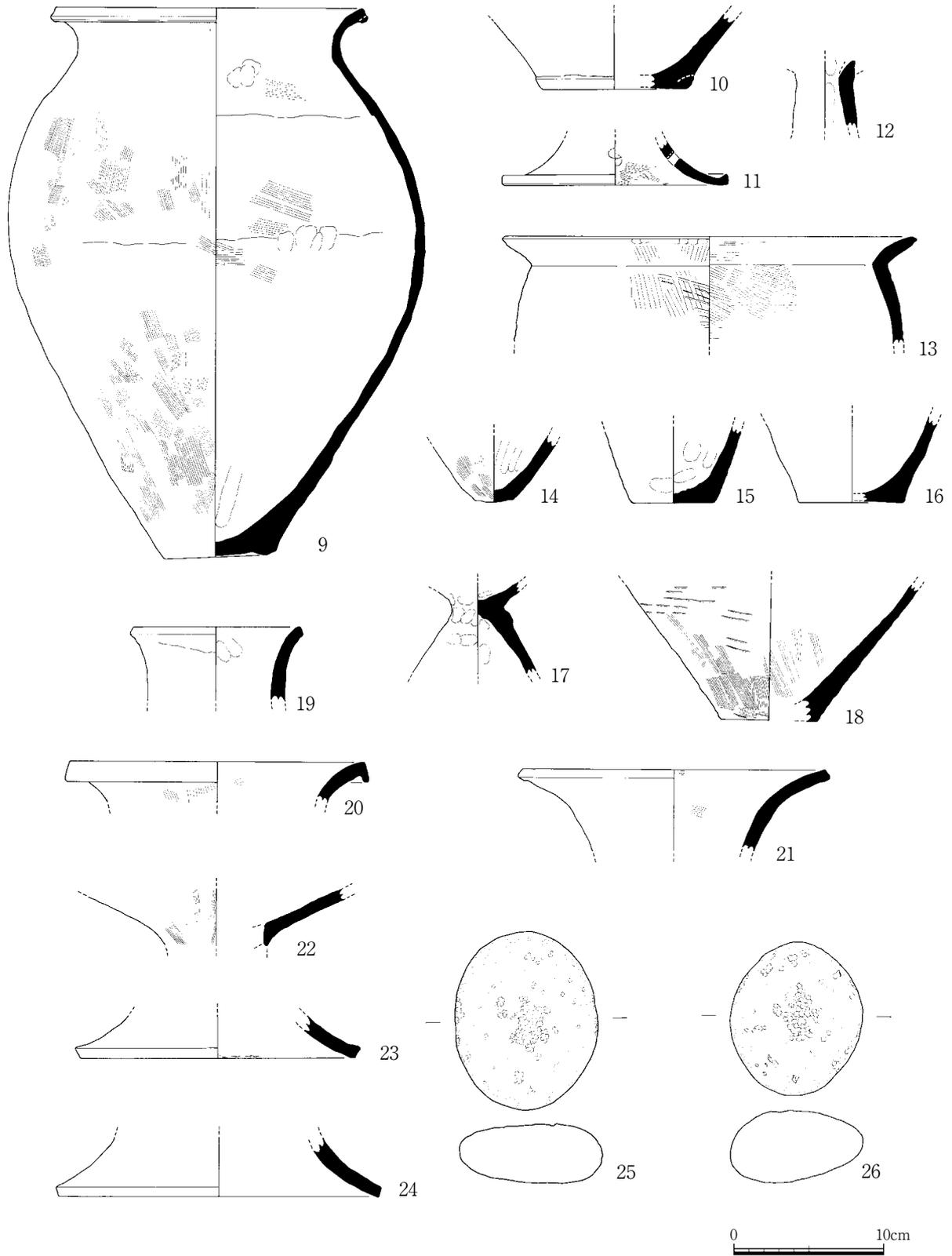


Fig.11 ST2 (9 ~ 12·25) · ST3 (13~24·26)出土遺物実測図

遺物は、高坏脚部(17)が床面、甕底部(18)がP6から出土している。他の遺物は埋土中出土である。ST3は後期中葉に属する。

ST4 (Fig.12~15)

西南部が大きく攪乱で切られ、東側の一部も調査区外に出ているが、一辺6.5m前後の隅丸方形の住居址である。南壁側は丸味を帯びたカーブを有し北壁側は直線的なラインを有する。埋土はI層：灰黄色褐色シルト(土器と炭化物を多く含む)、II層：にぶい黄褐色シルト(褐色粘質土が混入)が主体をなし、中央部には焼土(III層)や炭化物(V層)が互層に堆積している。立ち上がりは20~30cmである。壁溝がほぼ全周する。壁溝幅は20~40cm、深さ10cm前後を測り南東部で最も広くなっている。地山削り出しによるベッド状遺構が方形ないしは五角形状に巡る。高床部の幅は最も広い北部で90cm前後、狭い南部では40cm前後である。床面には中央ピットその他、P1・P2・P3など4個の小ピットが設けられている。中央ピットは、1.6×1.4mの隅丸方形プランを呈し、深さ40cm前後を測り断面舟底状をなす。埋土は炭化物を多く含んだ灰茶色粘土が下層(V層)に堆積しその上に茶色粘土(IV層)が堆積する。上層の窪みには住居址埋土I・II層が堆積している。IV層と埋土II層との間には焼土層(III層)が見られるが壁は焼けていない。中央ピット付近の床面には炭化物の広がりが見られる。P1は径30cm、深さ27cm、P2は径40cm、深さ10cmを測る。P3は径50cm、深さ35cmを測り径20cmの柱痕跡が見られる。

遺物は、埋土I層を中心に中央ピット、壁溝、ピットから出土しており床面出土遺物は僅少である。中央ピットからは、壺(31・36・48)、甕(38・39・40)、鉢(49・51)、高坏(54)が、床面直上からは壺(28・42)と石鍬(69)が、壁溝からは鉢(50)、石英粗面岩製の叩き石(64・65)が出土している。また石英粗面岩製の叩き石(66)はP1とP3の接合資料である。他は埋土出土であるが、多くは埋土I層からの出土である。器種別に見ると壺(27・29・30・32~35・41・42)、甕(37・44・45~47)、鉢(52)、高坏(53・55)、底部(57~63)、砥石(67)、軽石(68)である。広口壺(34)は搬入品であるが産地は特定できない。この他図示し得なかった土器を含めて、ST4出土の土器組成を口縁部点数から見ると壺23点、甕19点、高坏2点、鉢4点である。底部は全て平底である。壺・甕の口縁部には1割程度貼付口縁が見られ、甕には南四国型甕の系譜上に位置付けられるもの(39・44~46)が多く見られる。ST4も後期中葉に属する。

②土坑

SK5 (Fig.16・17)

調査区の北部に位置する。楕円形プランを呈し長軸1.4m、短軸0.66m、深さは30cm前後を測り、断面台形状をなす。埋土は灰黄色シルトである。埋土中より30数点の後期土器が出土したが、図示し得たのは壺(70)、甕(72)、底部(76)、高坏(80)の4点である。後期中葉に属する。

SK6 (Fig.16・17)

長さ1.5m以上、幅1.5m、深さ60cmを測る。断面は箱形を呈し、埋土は褐色シルトである。埋土中より200点近い後期土器細片が出土しているが、図示し得たものは甕(71)、底部(77)、高坏(81)の3点である。

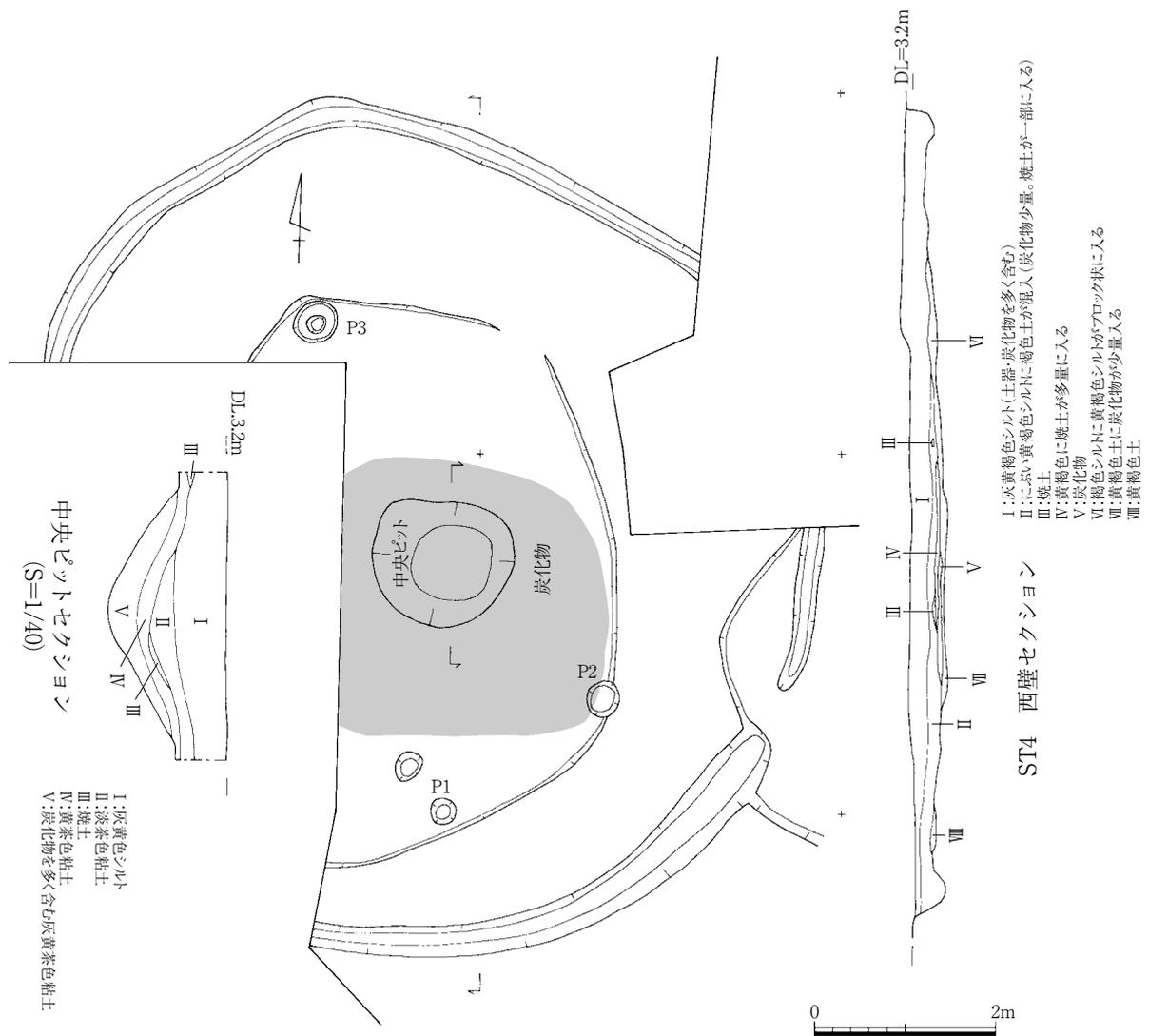


Fig.12 ST4平面・中央ピット平面、セクション図

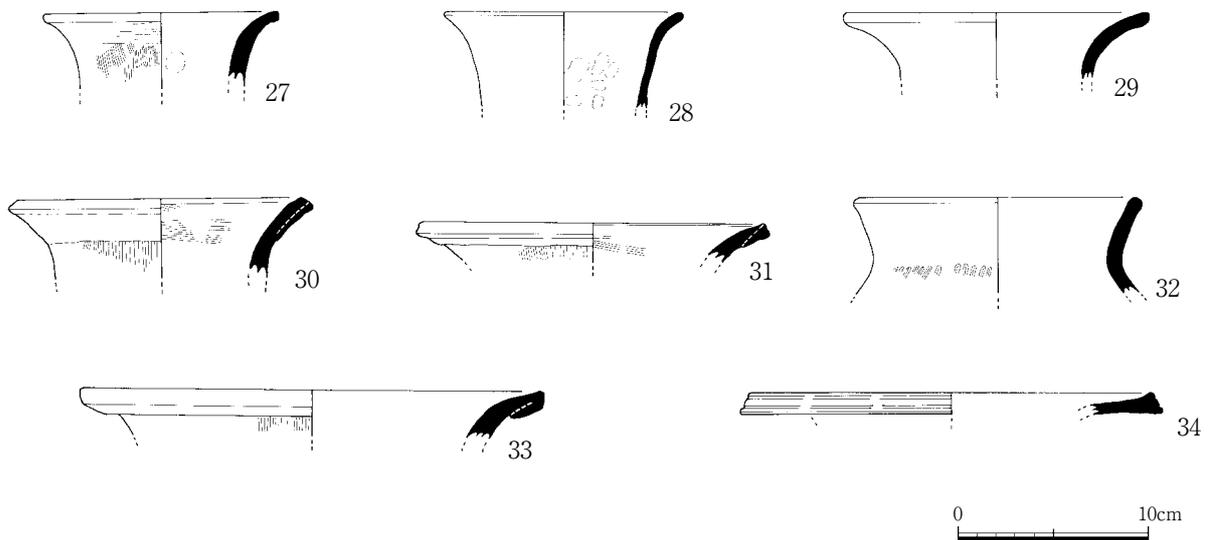


Fig.13 ST4出土遺物実測図1

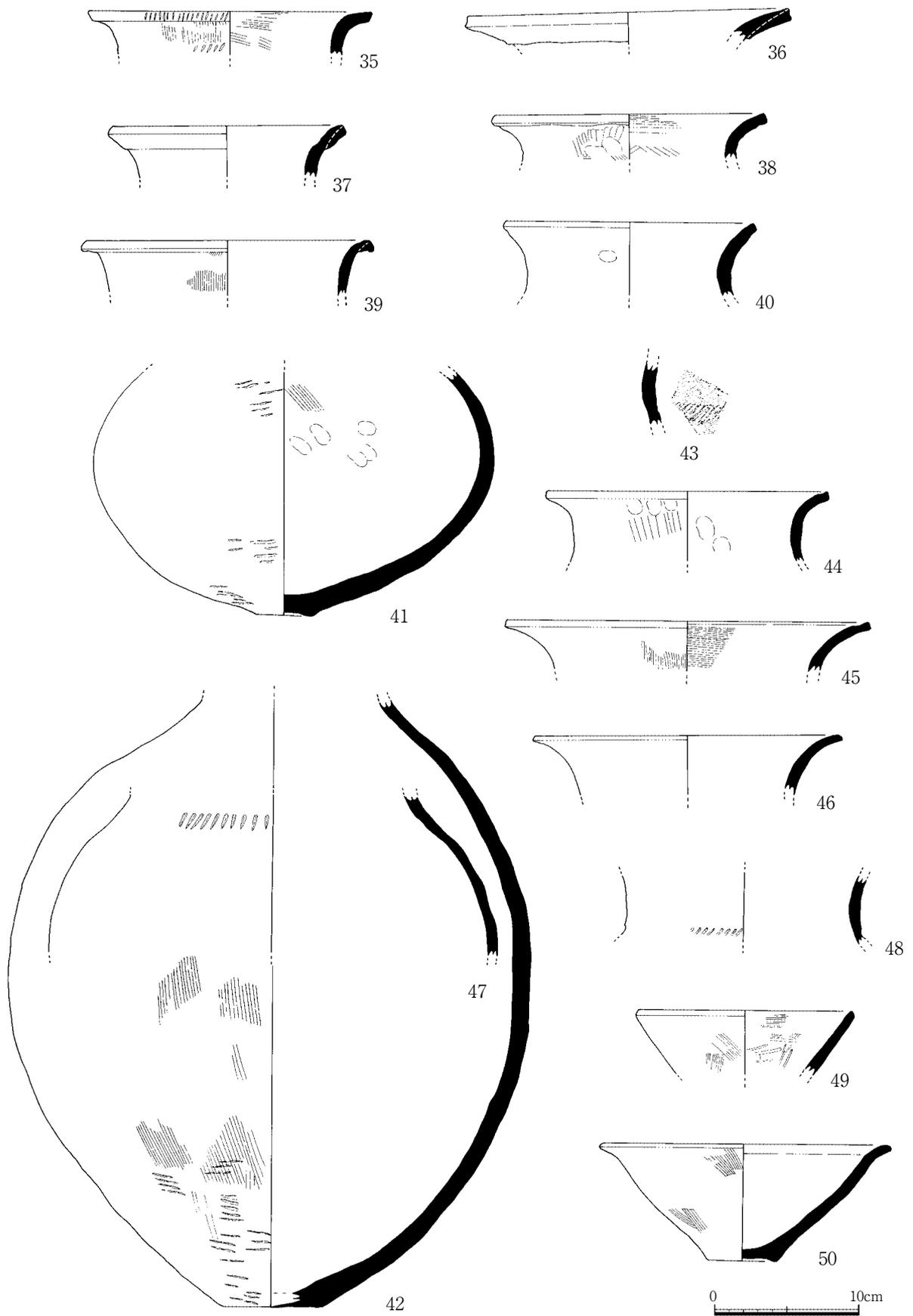


Fig.14 ST4出土遺物実測図2

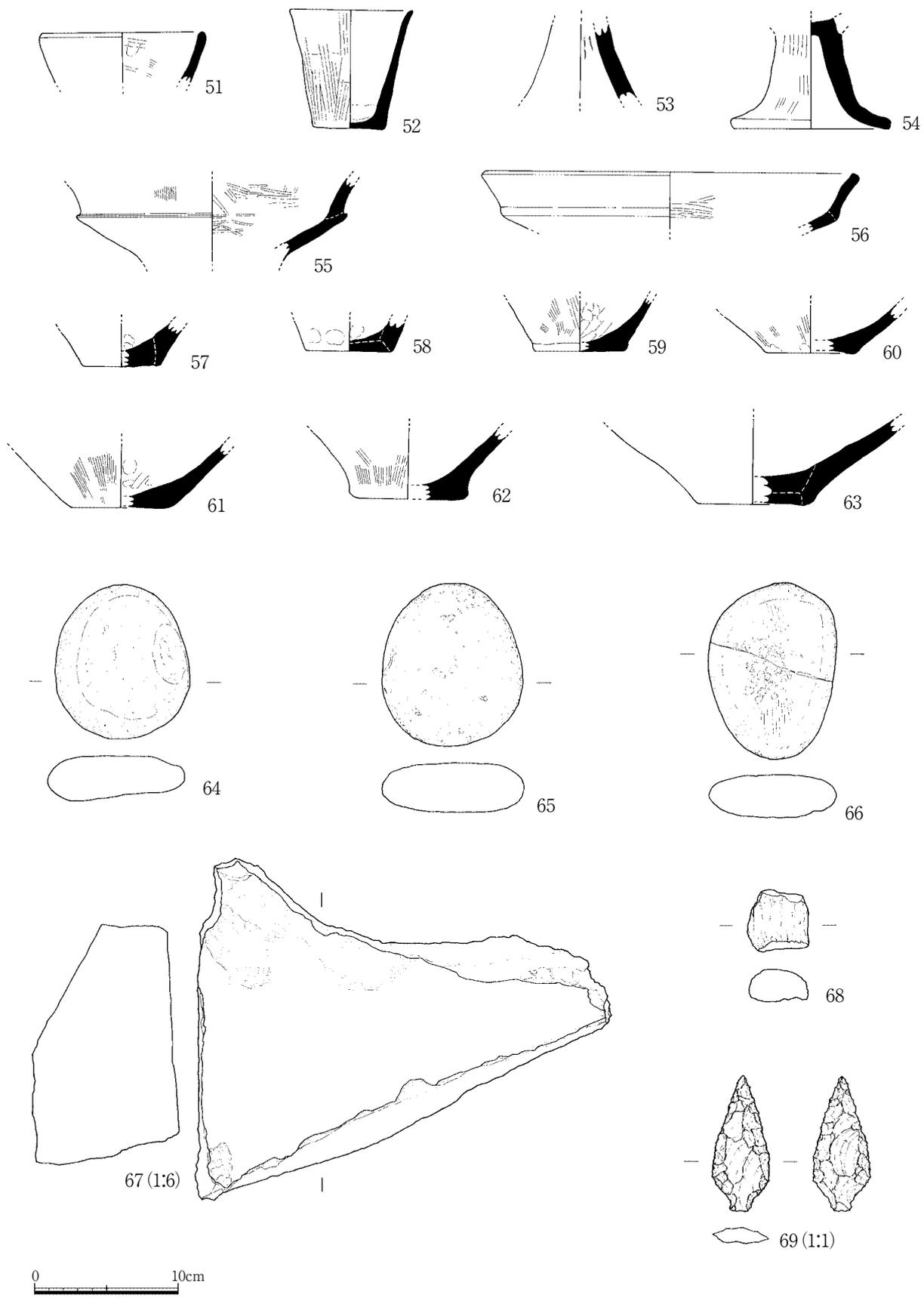


Fig.15 ST4出土遺物実測図3

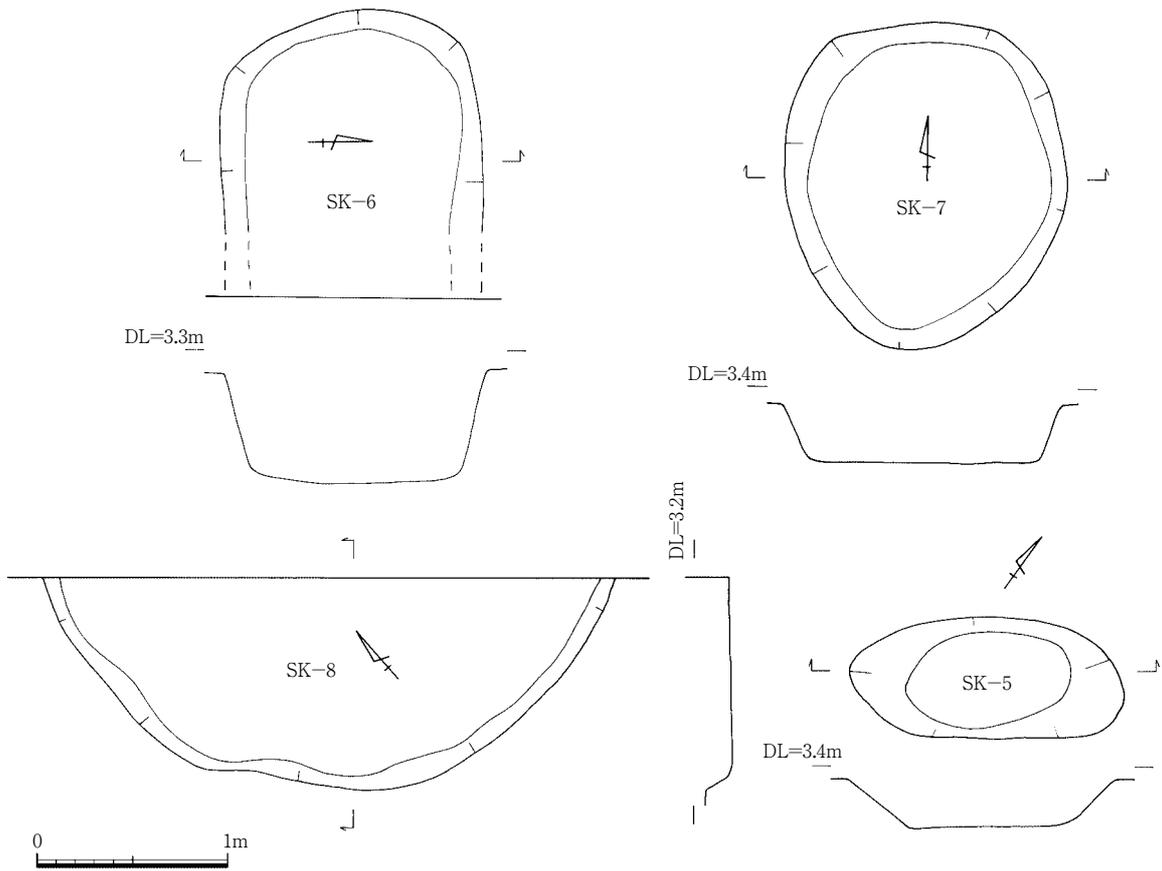


Fig.16 SK5~SK8平面・エレベーション図

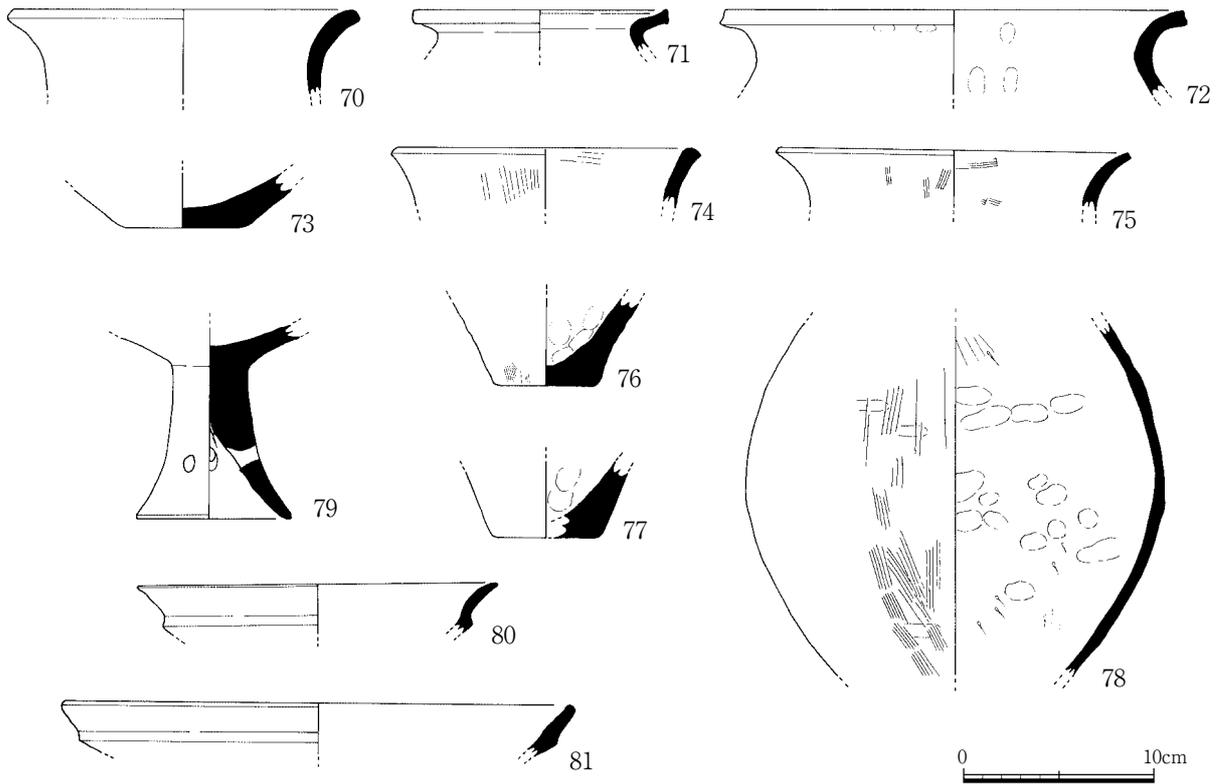


Fig.17 SK5(70・72・76・80)、SK6(71・77・81)、SK7(73~75・78・79) 出土遺物実測図

SK 7 (Fig.16・17)

調査区中央部に位置する。楕円形のプランを有し長軸1.7m、短軸1.5m、深さ30cmを測る。埋土は灰褐色シルトで、埋土中より100点近い後期土器細片が出土しているが、図示し得たものは甕(74・75・78)、高坏(79)である。78は搬入品である。

SK 8 (Fig.16・17)

半分以上が調査区外に出ているが、径3m前後の円形プランの土坑であろう。深さは20cm、埋土は褐色シルトである。埋土中から後期土器細片が数点出土しているが図示できるものはない。

③溝

SD 3 (Fig.18～23)

調査区を北東から南東方向に切る溝である。確認延長9.6m、幅は北端で1.2m、南端で0.6m、深さは70cm前後を測る。断面形は上場近くで広がっているもののおおよそ箱形である。埋土は大きく3層に分けることができる。Ⅰ層：黄茶色粘土、Ⅱ層：灰茶色粘土、Ⅲ層：茶黄色粘土で、遺物の多くはⅢ層から出土している。Ⅲ層及び床面からは完形品を含む多くの土器が、恰も並べ据え置かれたような状態で検出された。出土状況の一部を図示(Fig.18)したが、この地点から南に向かって調査区の南限まで集中していた。出土土器は完形品を多く含み、甕(92～120)、壺(82～91・129)、鉢(121～127)、高坏(128・130・131)が見られ、叩き石(132)も出土している。これらの土器は一括性の極めて高いものであり、今後土器編年の基準となる資料である。土器組成や特徴など詳細については後述する。

SD 4 (Fig.24)

調査区の北西隅で検出した。弥生時代後期終末～古墳時代初頭の遺物包含層を切って掘削されている。幅2.0m、深さ1.1mを測り、断面は舟底状を呈する。Ⅴ～Ⅸ層がSD 4の埋土である。遺物はⅥ層から土師器坏(133)、同椀(134)、須恵器坏(135)が出土している。10世紀代の溝である。

④竪穴状遺構

調査区の南端で検出した長軸3.8m、深さ15cm程の不定形の落込みである。埋土は灰褐色シルトで、後期土器の細片が数点出土している。

⑤Ⅰ区土器集中(Fig.25～32)

調査区北部の9×4mの楕円形状の範囲から大量の土器が集中出土した。これらの土器は遺構に伴うものではなく、基本層序Ⅴ層(遺物包含層)中からの出土である。最初は、遺物包含層として取上げていたが、途中から集中出土地点の遺物とし、主だったものについては地点を記録しながら取上げを行った。

集中地点出土の遺物は、内傾する二重口縁壺(136)、広口壺(137～140・192)、直口縁壺(141)、甕(142～158)、鉢(159～167・183・184)、高坏(168～174)、支脚(175・176)、器台(177・178)、叩き石(186～191)である。高坏(168・169)は搬入品である。包含層出土の遺物として取上げたものは、広口壺(193～196)、壺底部(197・198)、甕(199～214)、鉢(215～218)、底部(219～221)、支脚(223・224)、器台(222)、叩き石(225)である。これらのうち、甕(203)は庄内式土器の搬入品である。

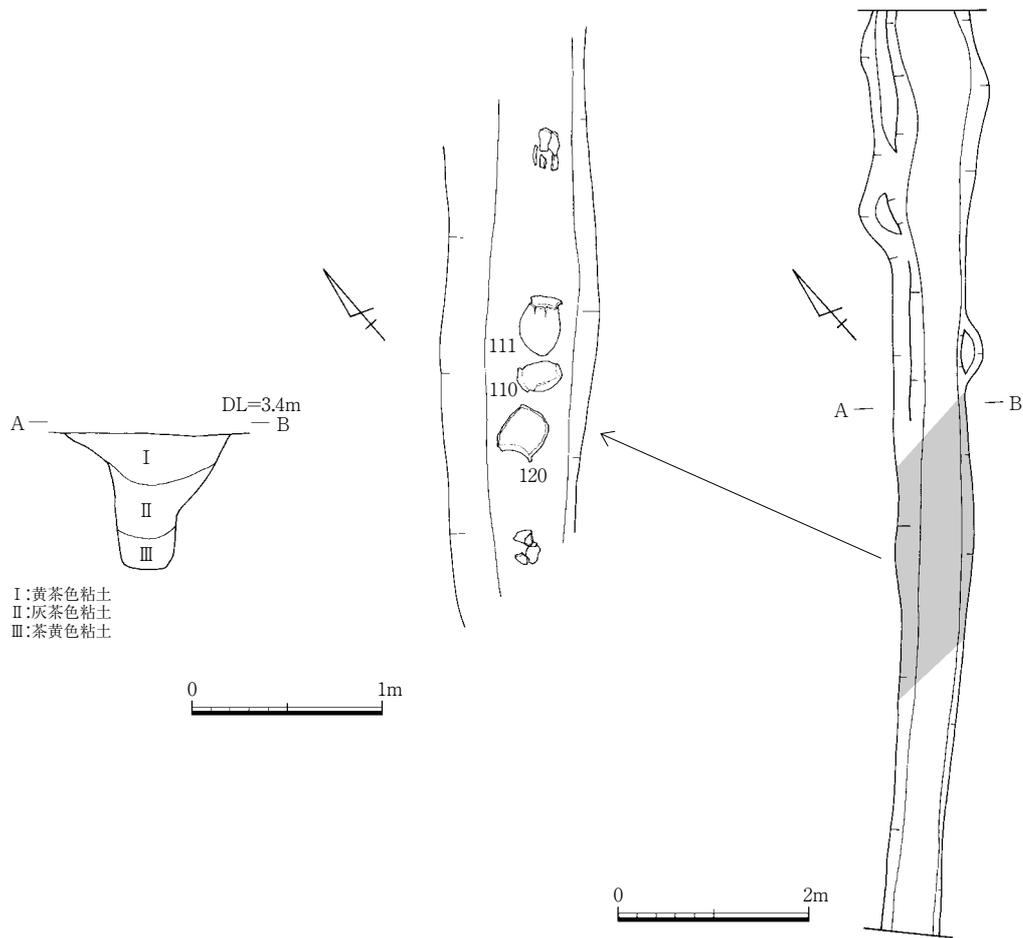


Fig.18 SD3平面・遺物出土状況・セクション図

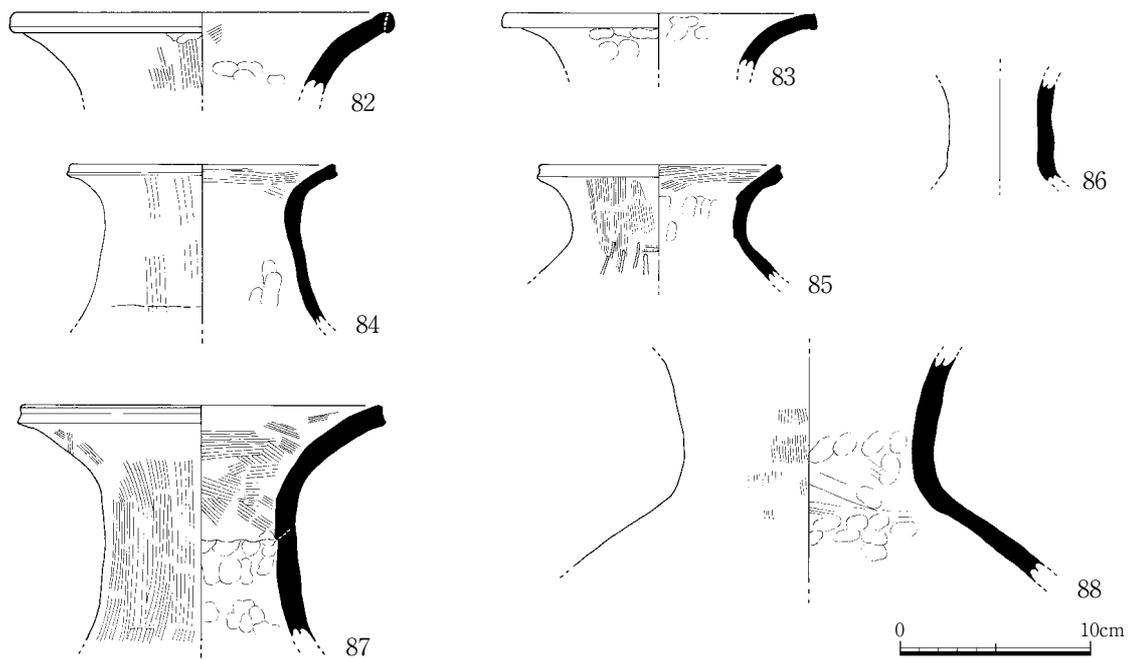


Fig.19 SD3出土遺物実測図1

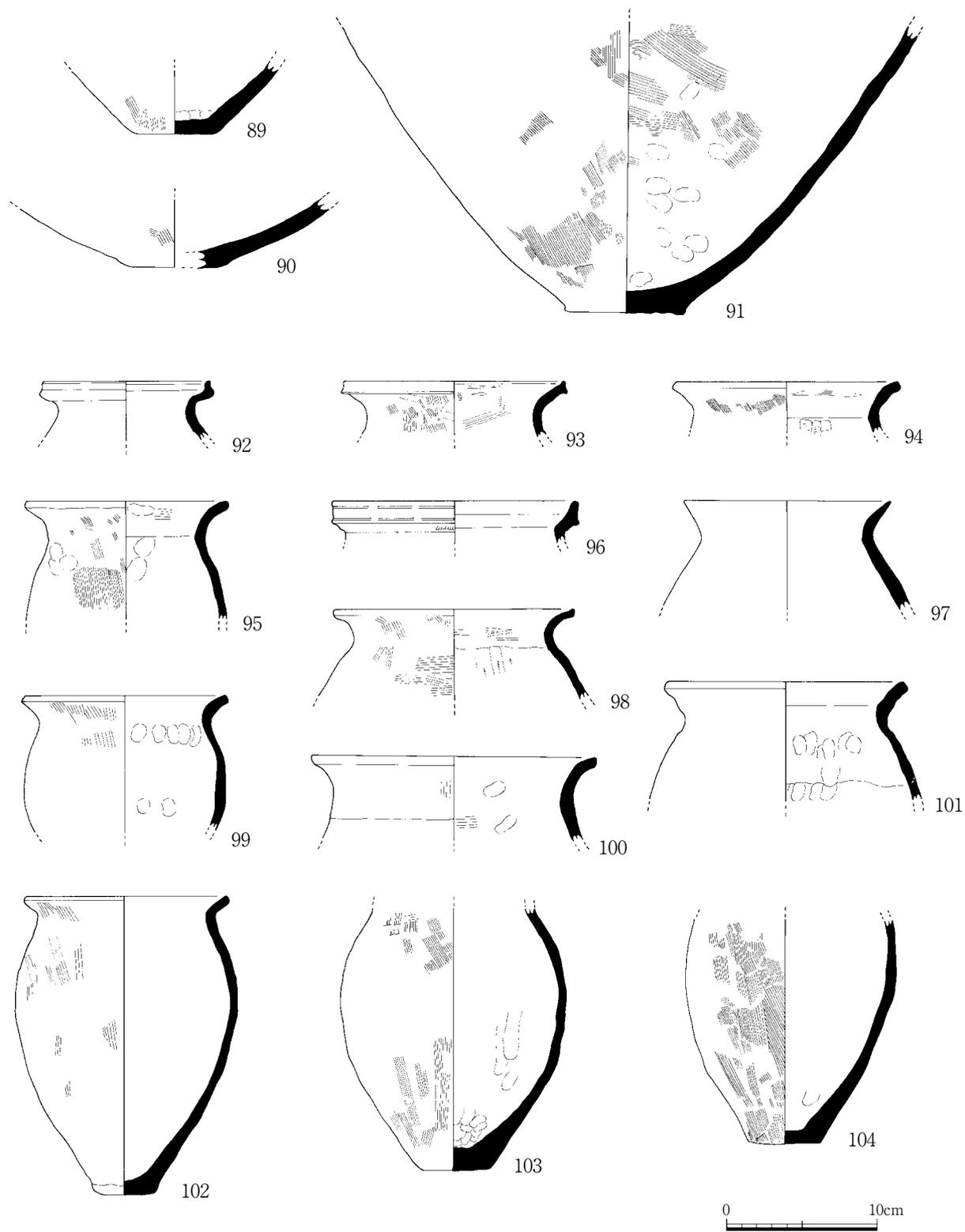


Fig.20 SD3出土遺物実測図2

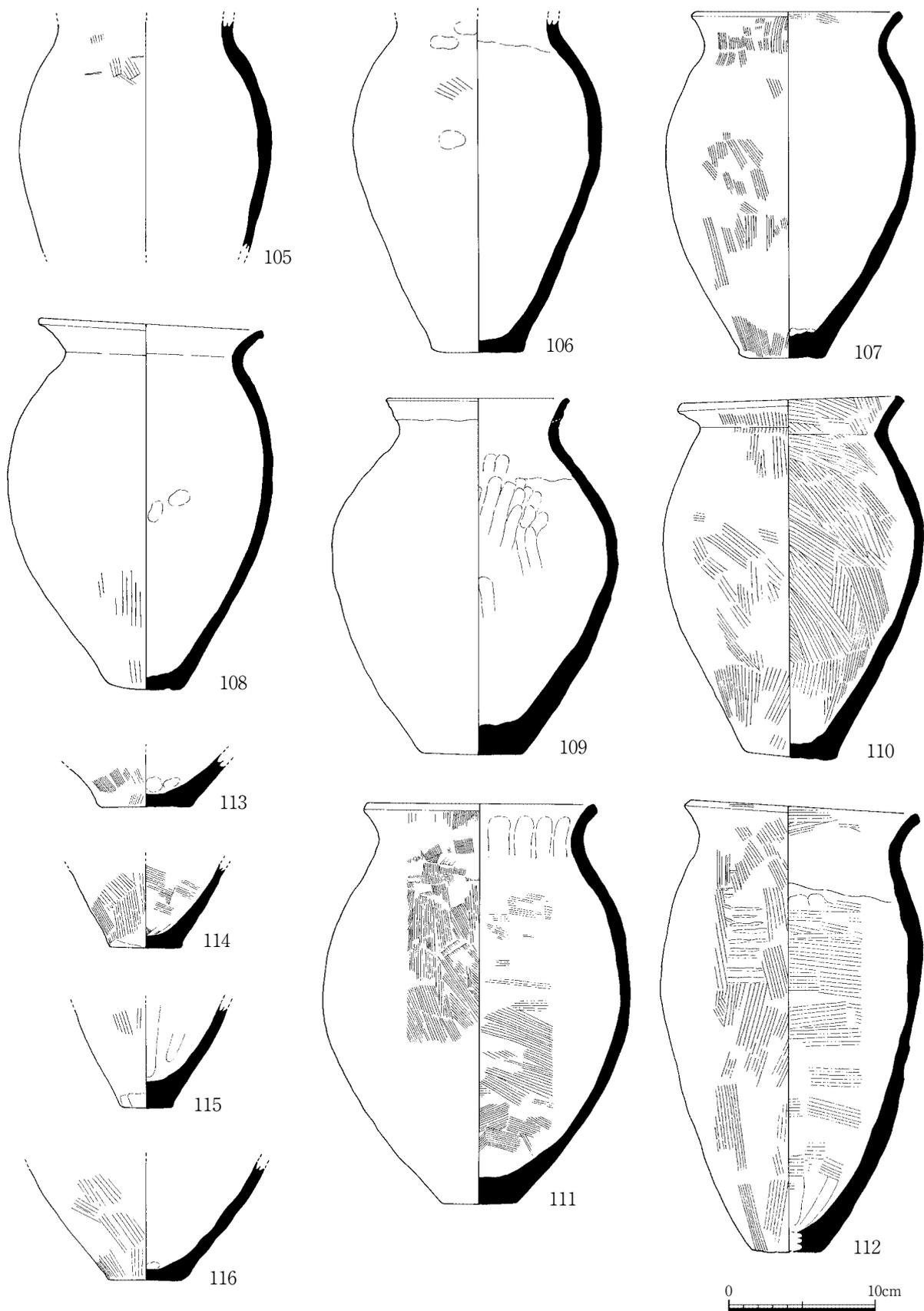


Fig.21 SD3出土遺物実測図3

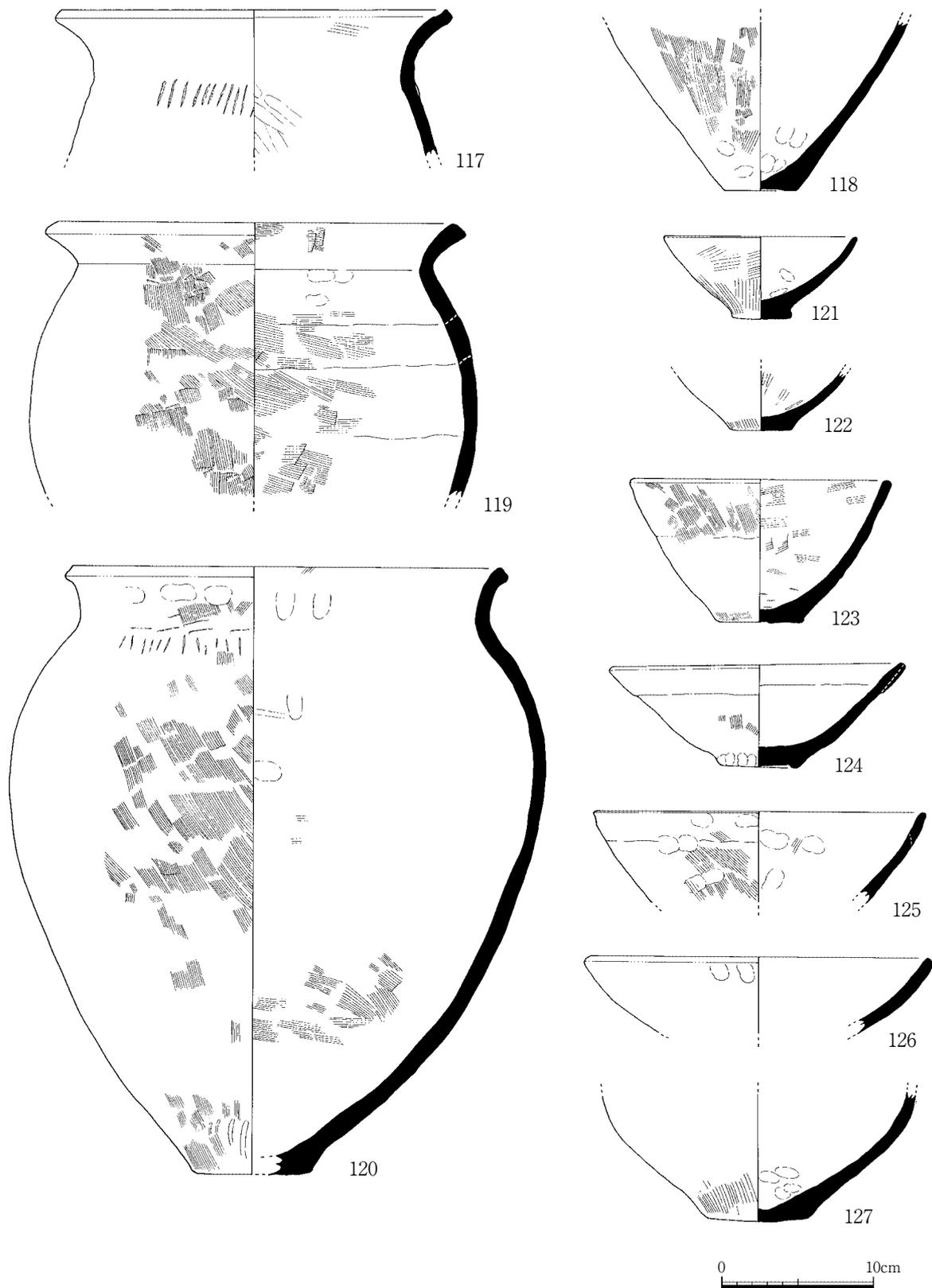


Fig.22 SD3出土遺物実測図4

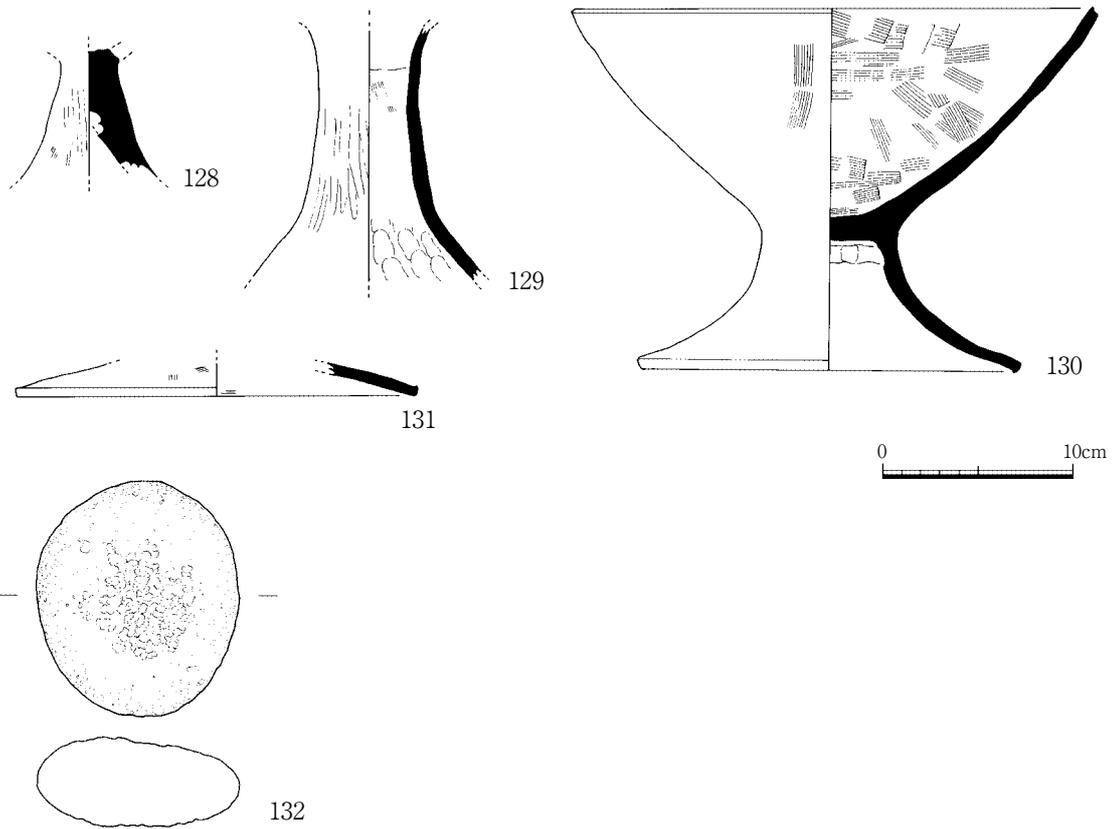


Fig.23 SD3出土遺物実測図5

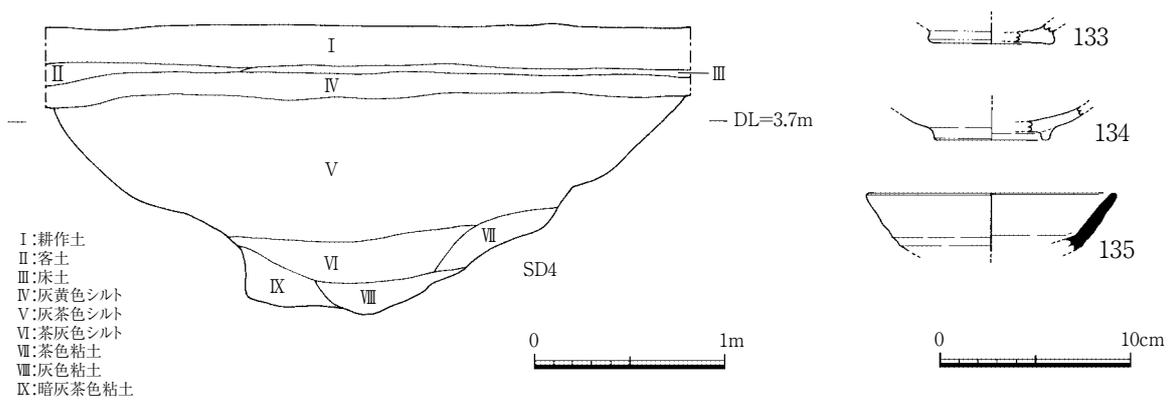


Fig.24 SD4セクション及び遺物実測図

集中地点出土と包含層出土に分けて図示したが、両者は一括性の高いものであり、同時に廃棄されたものである。当該期には、竪穴住居址や溝などに遺物の集中的な廃棄がしばしば見られるが本例もそのような事例の一つである。

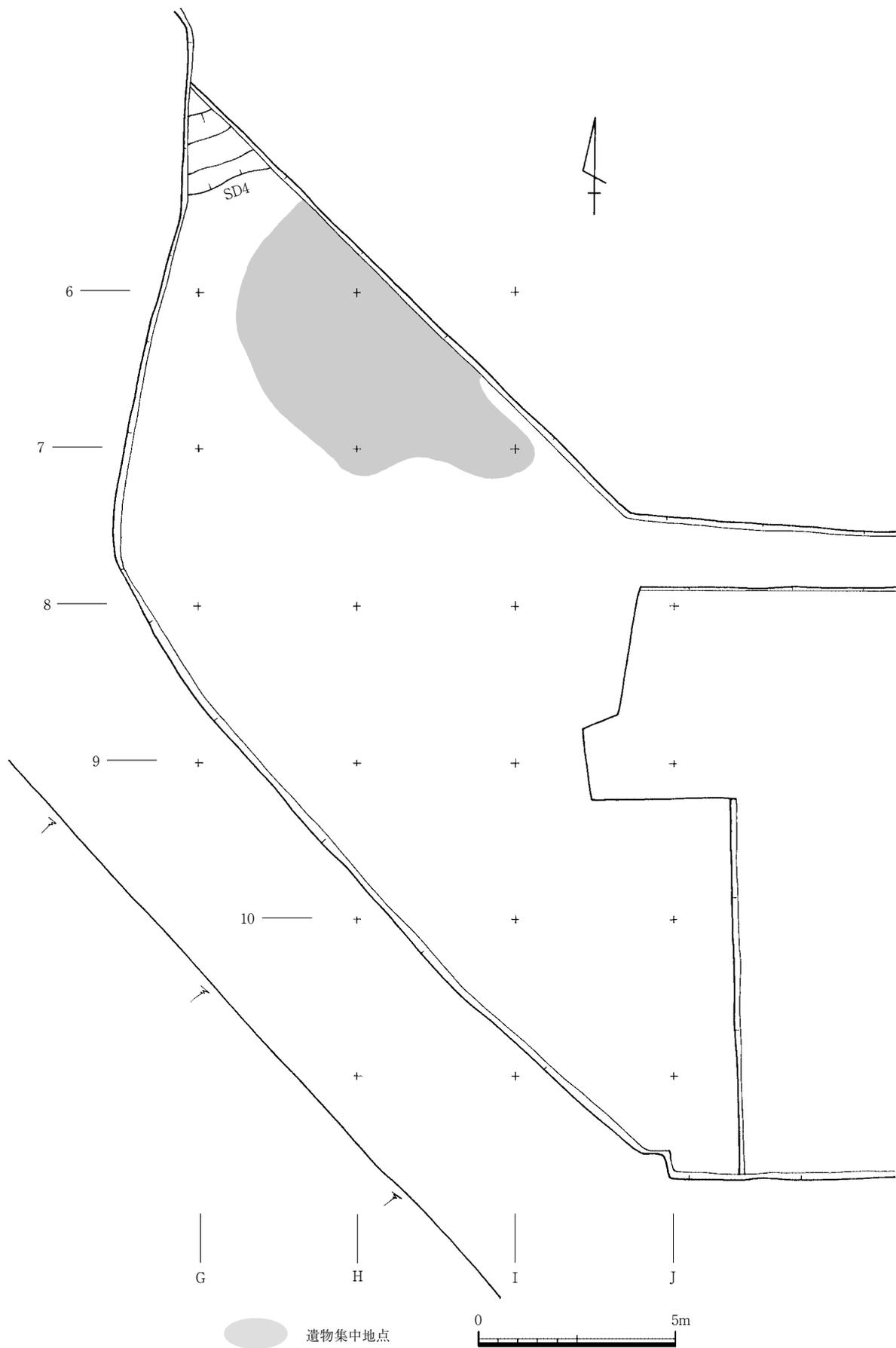


Fig.25 I区遗物集中地点

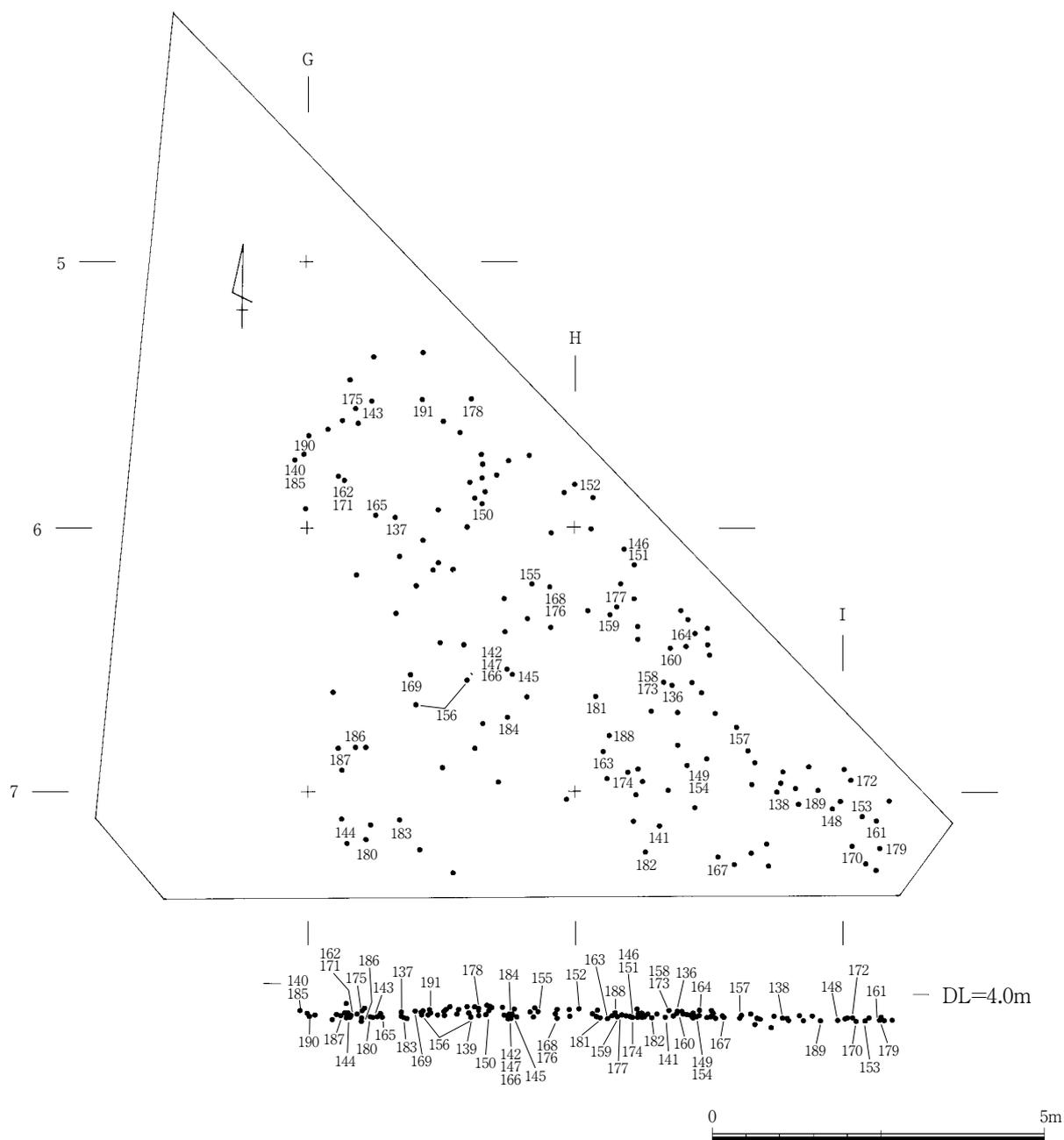


Fig.26 I区遺物集中地点出土状況

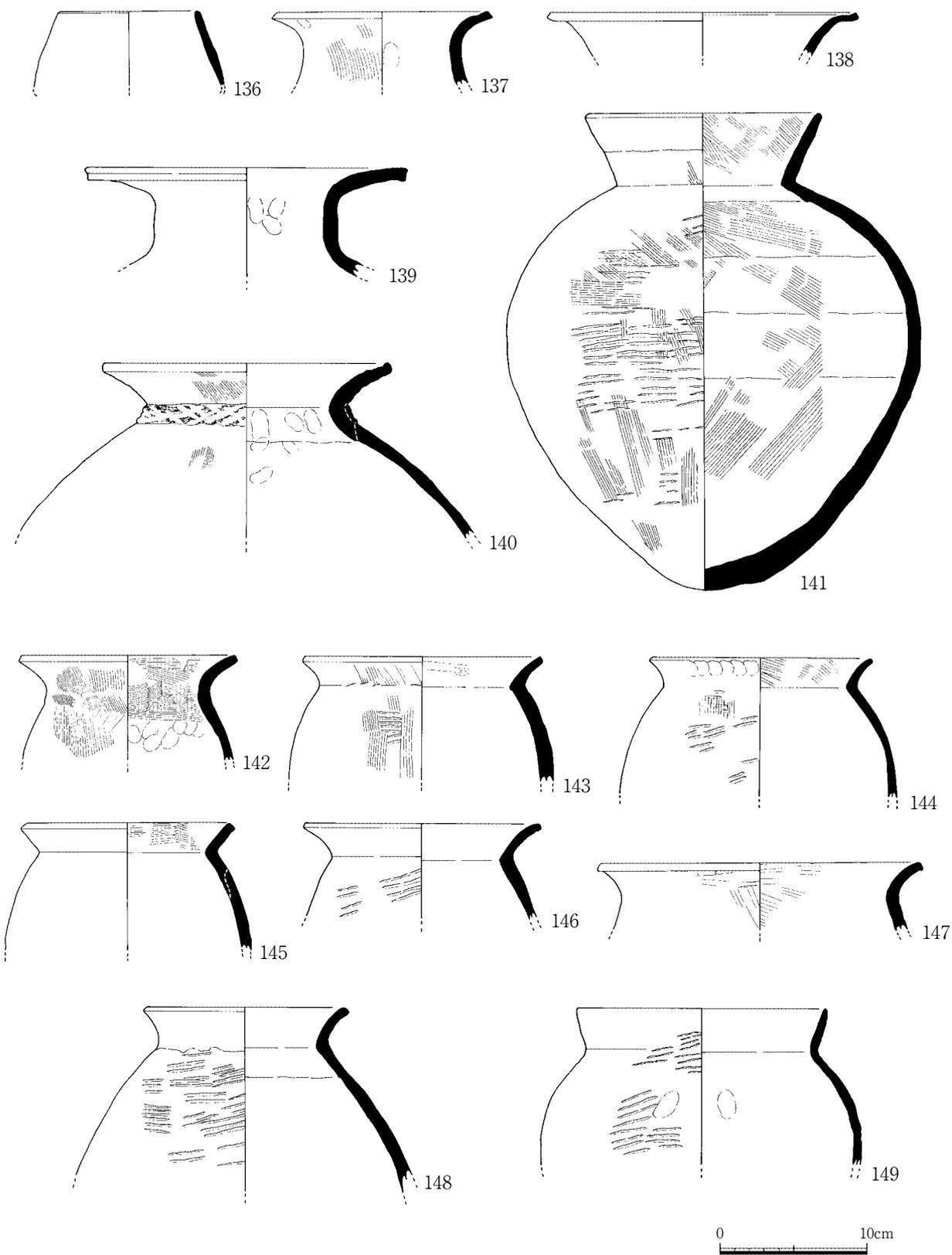


Fig.27 I 区遺物集中地点出土遺物実測図1

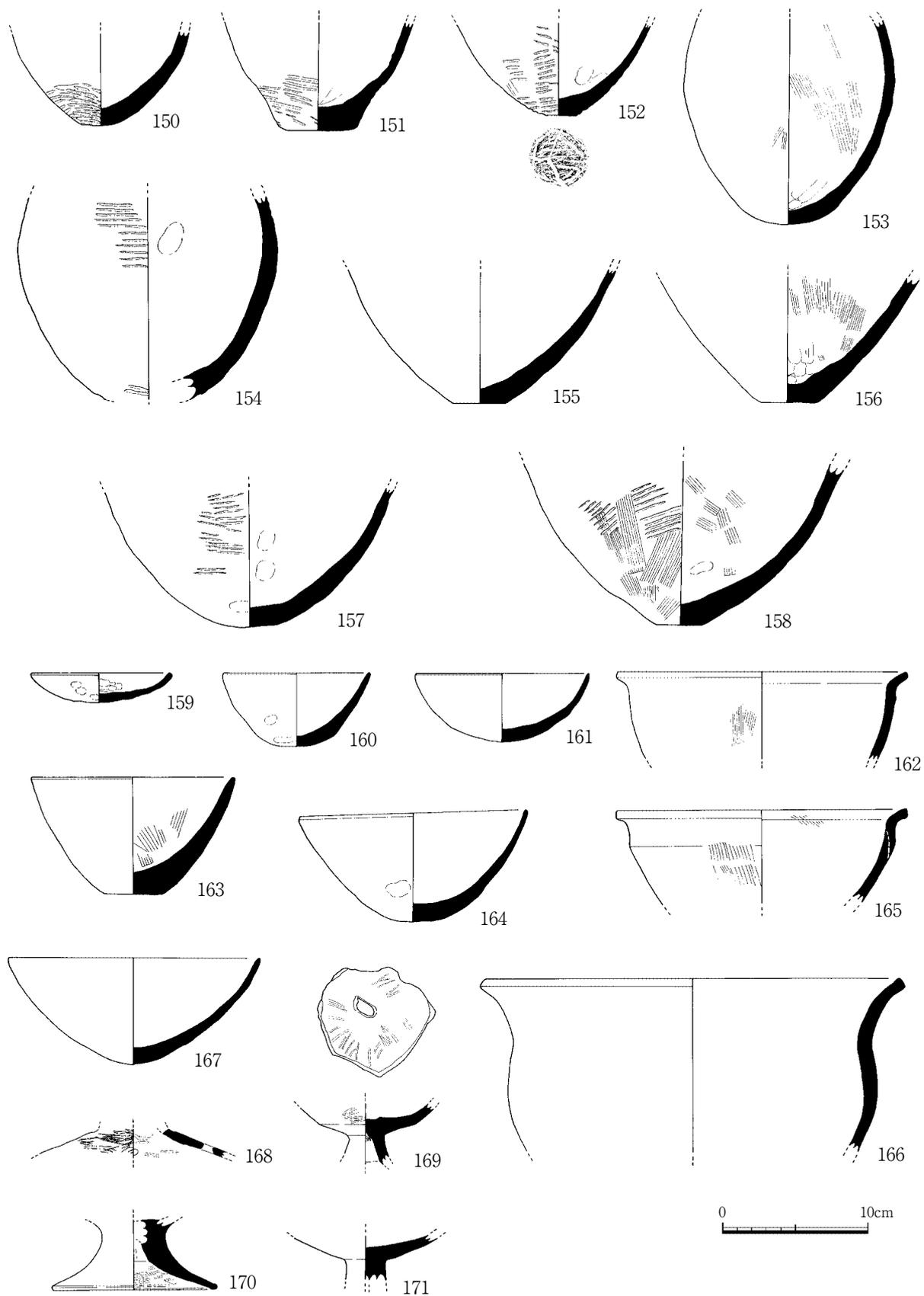


Fig.28 I区遺物集中地点出土遺物実測図2

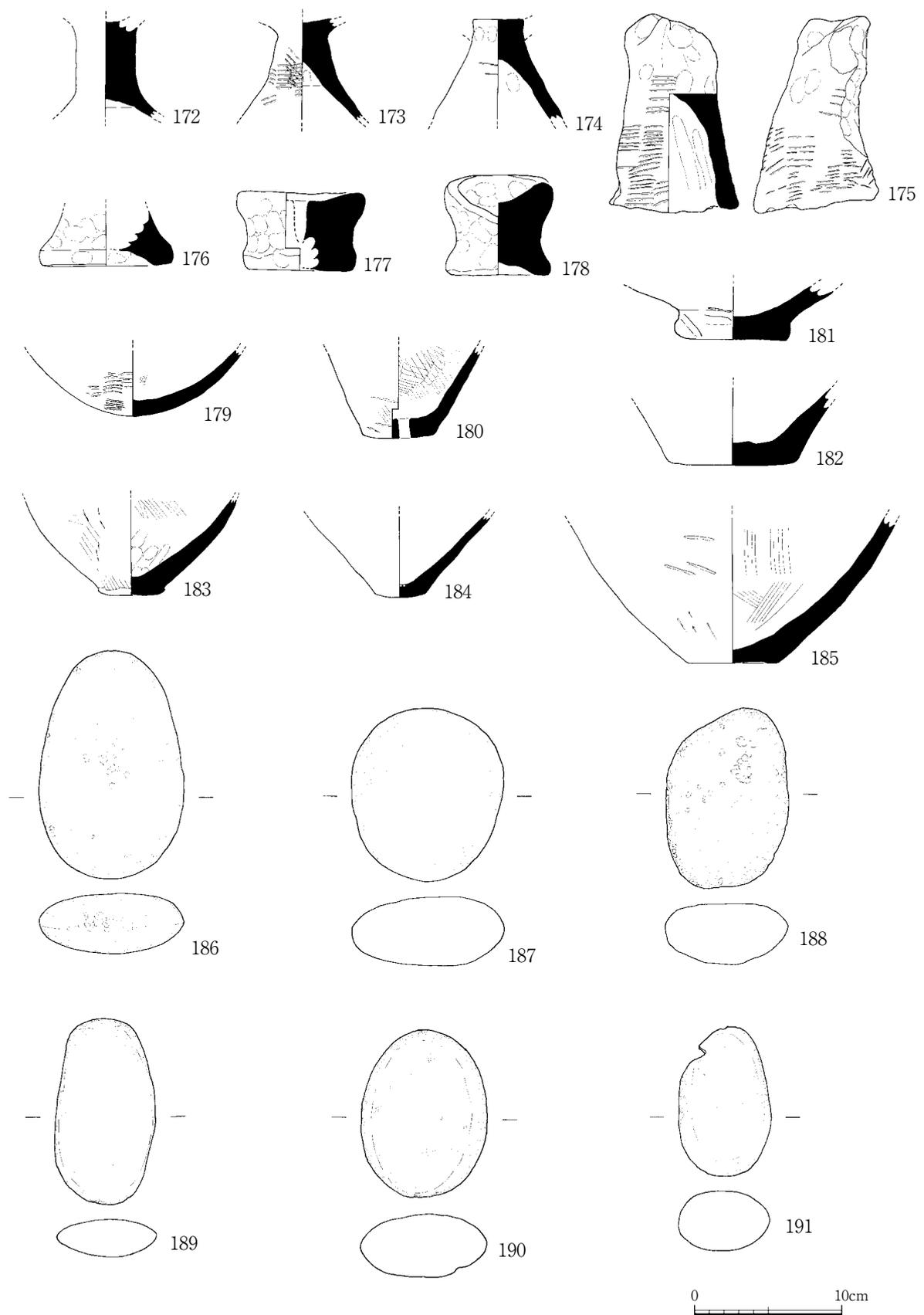


Fig.29 I 区遺物集中地点出土遺物実測図3

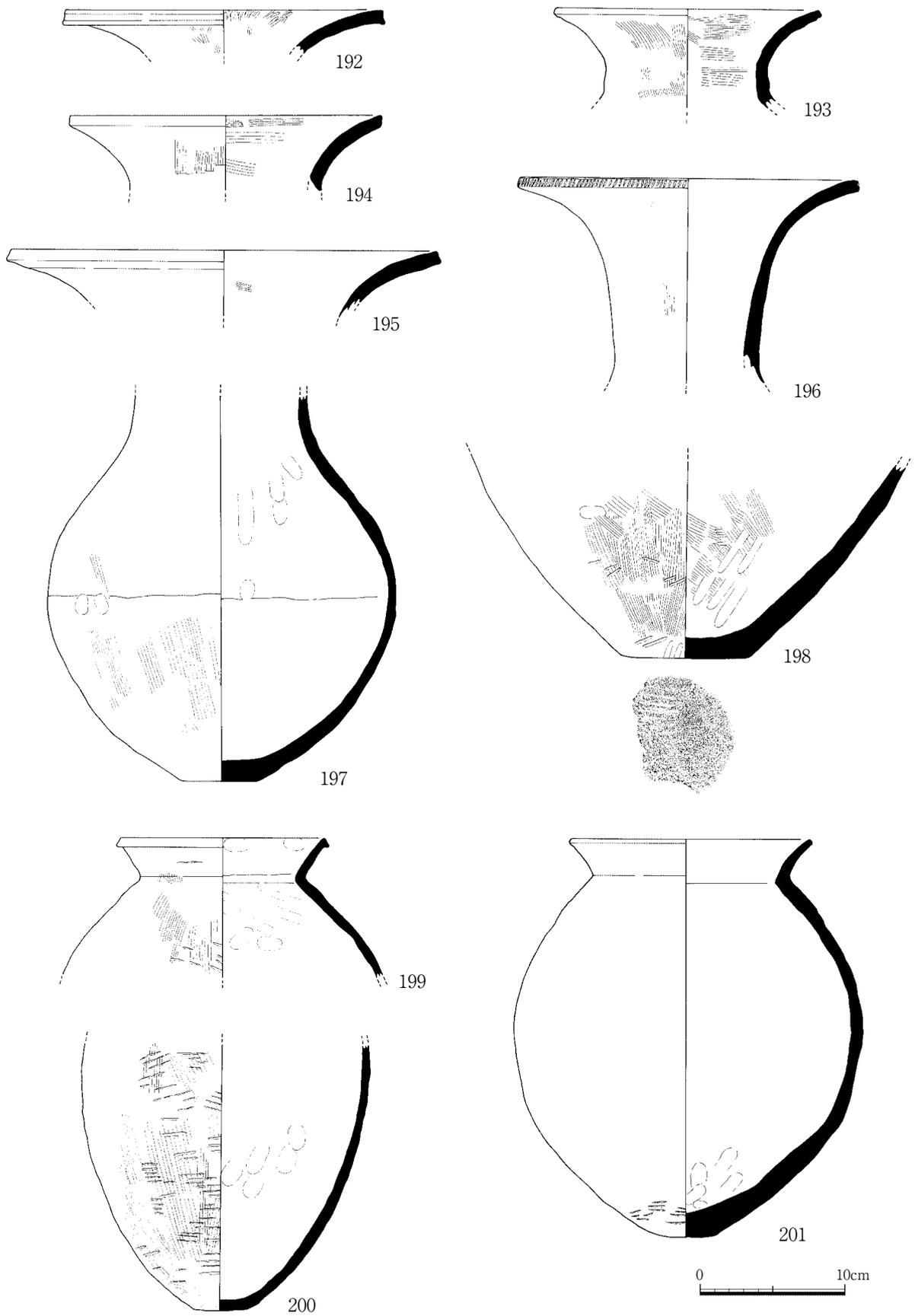


Fig.30 I区遺物集中地点(192)及び遺物包含層出土(193~201)遺物実測図

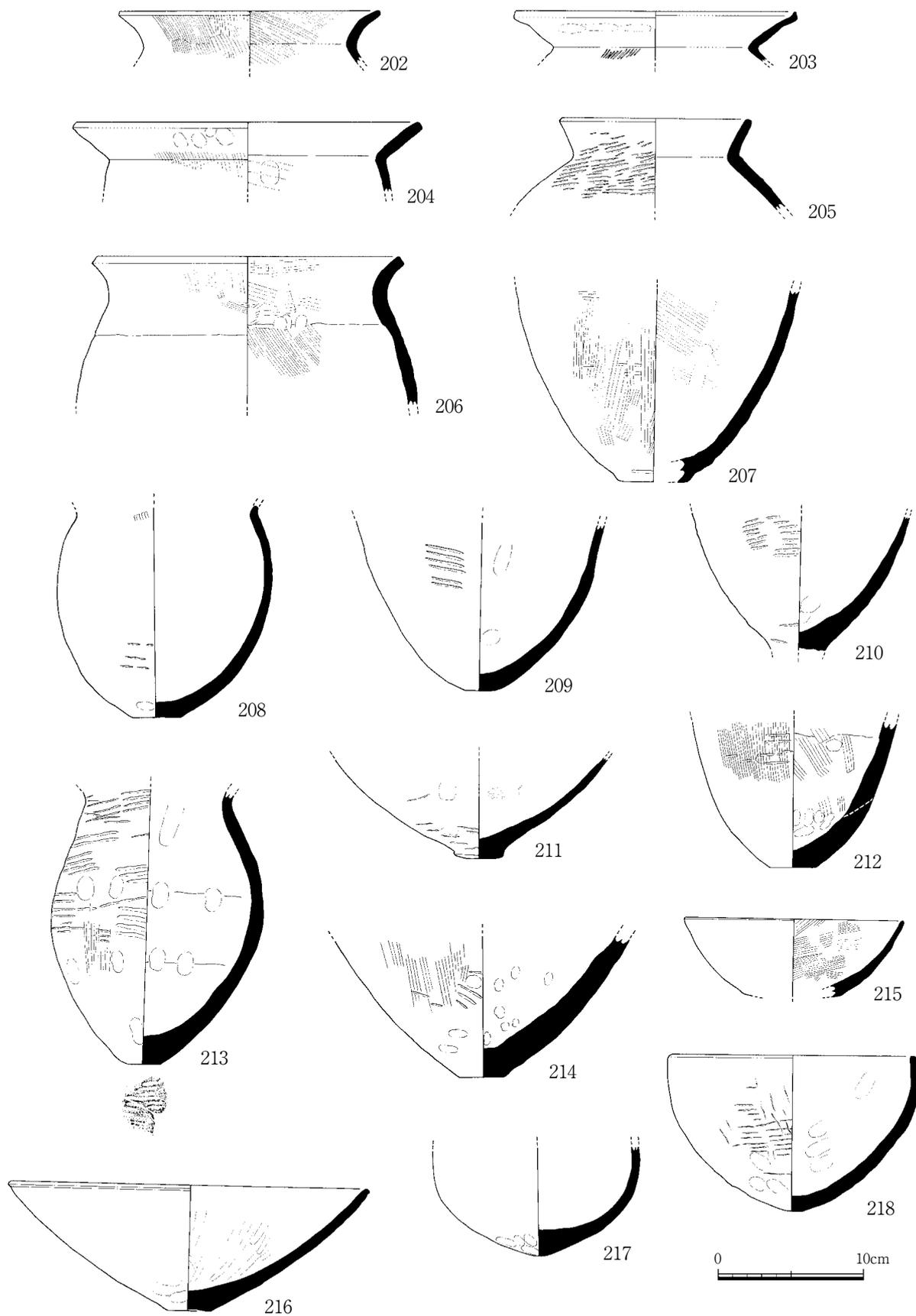


Fig.31 I区遺物集中地点(206・209・214・216)及び遺物包含層出土遺物(202～205・207・209・210～213・215・217・218)

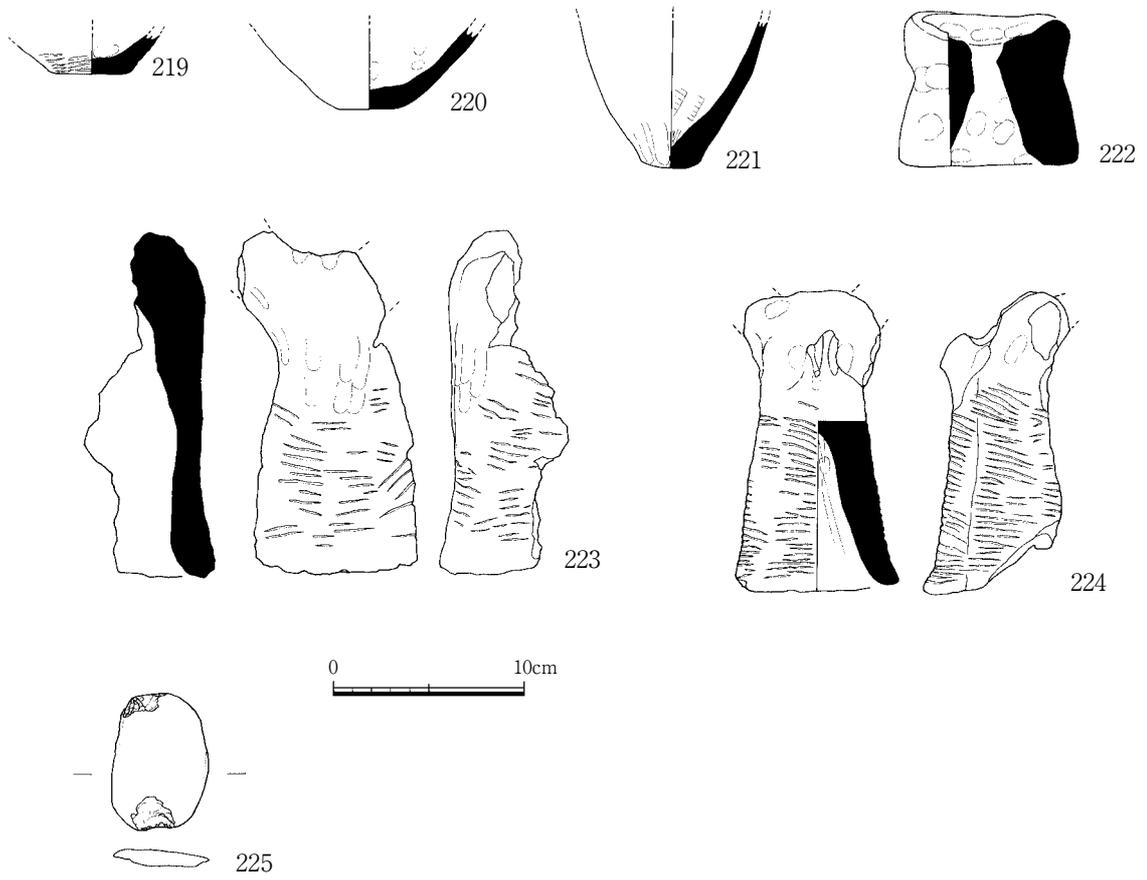


Fig.32 I区遺物包含層出土遺物実測図

(3) II区の検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST 1 (Fig.33~37)

大部分が調査区外に出ているが、直径9m以上、面積60m²以上を測る円形の大型住居址である。

基本層序IV層(黄褐色シルト)を切って掘り込まれている。深さは30cm前後を測り、埋土は濃茶色粘土である。幅10~20cm、深さ10cm程の壁溝が巡るがところどころ切れている。

一部分の調査であったが、埋土中より多くの遺物が出ている。1~3回に分けて人工層位(上層、中層、下層)で掘り下げた。遺物は1~3回共にほぼ平均して出土している。土器は、広口壺(226・228・229)と甕底部(272)が床面から、上層からは広口壺(230)、甕(241・244・245・251)、甕底部(263)、高坏(278・280・283・285・288)が、中層からは広口壺(227)、壺底部(231・233・273)、甕(234・237・240・242・246・249・253・256・257・261)、甕底部(269・270・271・274・276)、高坏(282・284)が、下層からは壺底部(232)、甕(235・238・243・248・250・255・258・260・262)、甕底部(266・267・275)、高坏(279・281・287・289)、円盤充填部(286)が出土している。甕(262)は上層との接合資料である。この他、分層して上げることができなかった土器として甕(236・239・247・252・254・259)、甕底部(264・265・268)、鉢(277)がある。この他図示し得なかったが、上・中層からは高松平野からの搬入土器細片が数点出土している。以上の土器について、図示し得なかったものも含めて口縁部の破片から組成を求めると、壺14点(21.2%)、甕47点(71.2%)、鉢2点(3.0%)、蓋1点(1.5%)、高坏2点(3.0%)となる。壺の中で口縁部外面に粘土帯を貼付するものが14点中1点(7.1%)、甕は47点中4点(8.1%)に見られる。

石器は、壁溝埋土中から石鏃(290)と砥石(298)が、床面から石包丁(293)と叩き石(296)が、下層から石包丁(294)が、中層から磨製石包丁の転用品と考えられる石器(291)が、この他叩き石(295)と砥石と考えられる軽石(292)が埋土中より出土している。叩き石(295)の側縁の位置部には赤色顔料が付着している。ST 1の遺物は比較的一括性の高いものとして捉えることができる。後期中葉に属する。

② 土坑(Fig.38・39)

SK 1

不整形のプランを有し一部が調査区外に出ている。確認長軸1.7m、短軸1.5m、深さ15cmを測る。埋土は黄茶色粘土で、埋土中より土器細片100点ほどが出土しているが、図示し得たのは甕3点(299・302・303)のみである。SK 1は後期中葉に属する。

SK 2

ST 1と切り合っているが先後関係は不明である。溝状のプランを呈し長軸1.9m、短軸0.6m、深さ10cmを測る。埋土は濃茶色粘土で、後期土器細片が数点出土しているが図化できるものはない。

SK 9

調査区の南部で検出した。一辺2m前後の隅丸形状の土坑である。埋土は淡黄茶色粘土である。

埋土中から叩き目の残る土器片が多く出土しているが、図示し得たのは二重口縁壺(301)と底部(300・304)のみである。弥生時代終末~古墳時代前期初頭に属する。

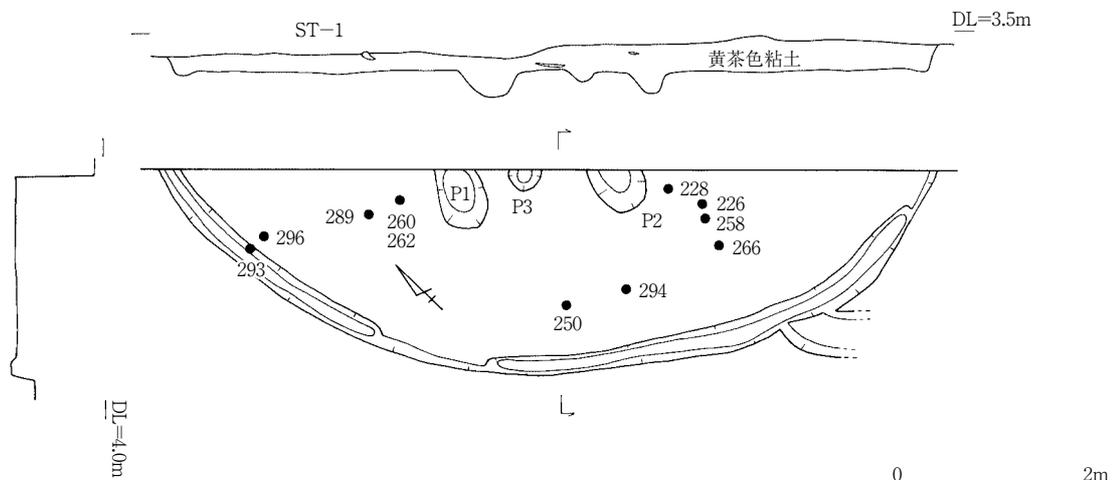


Fig.33 ST1 平面・セクション及びエレベーション図 (●は床面及び下層出土遺物の地点を示す)

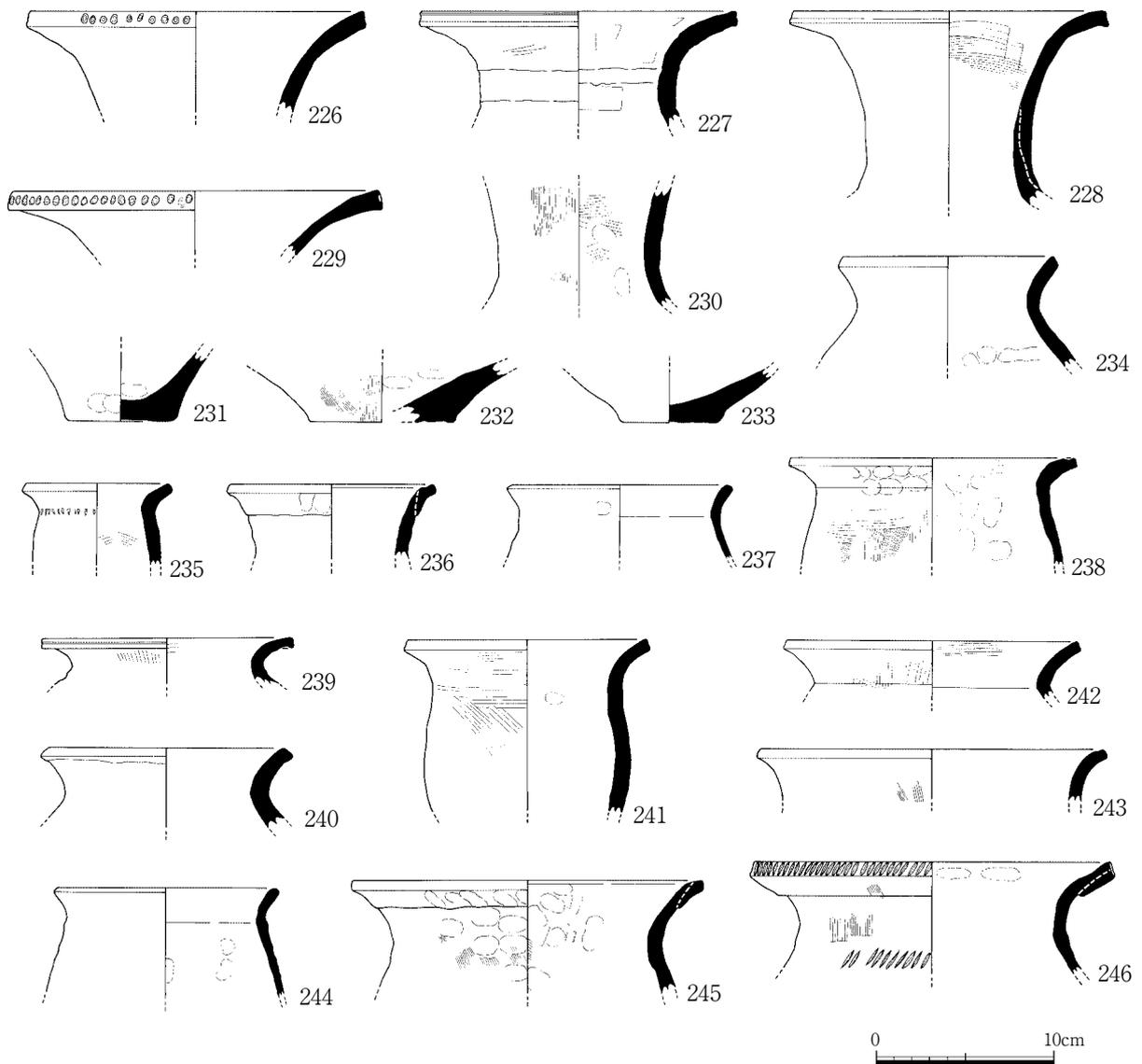


Fig.34 ST1出土遺物実測図1

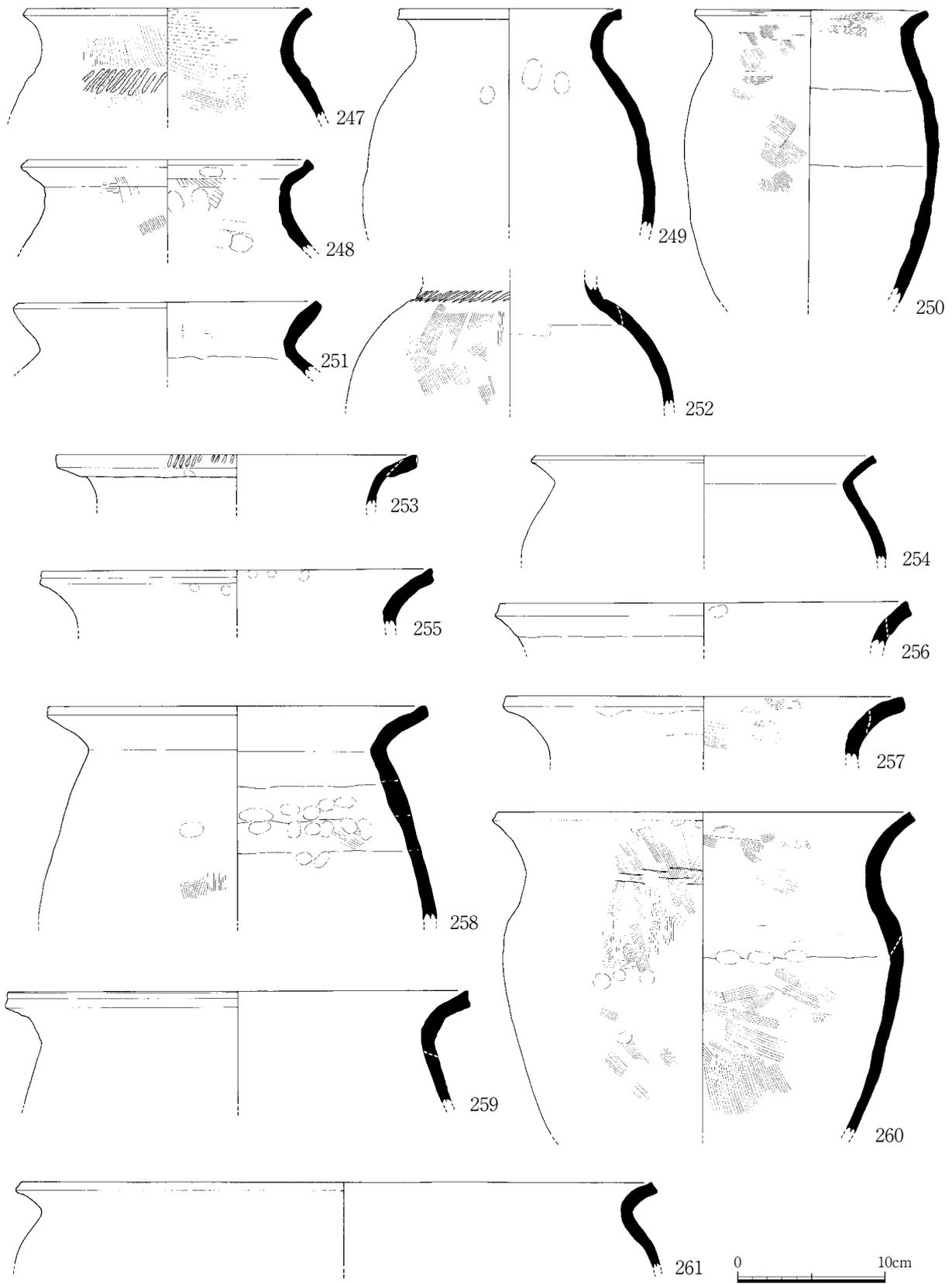


Fig.35 ST1出土遺物実測図2

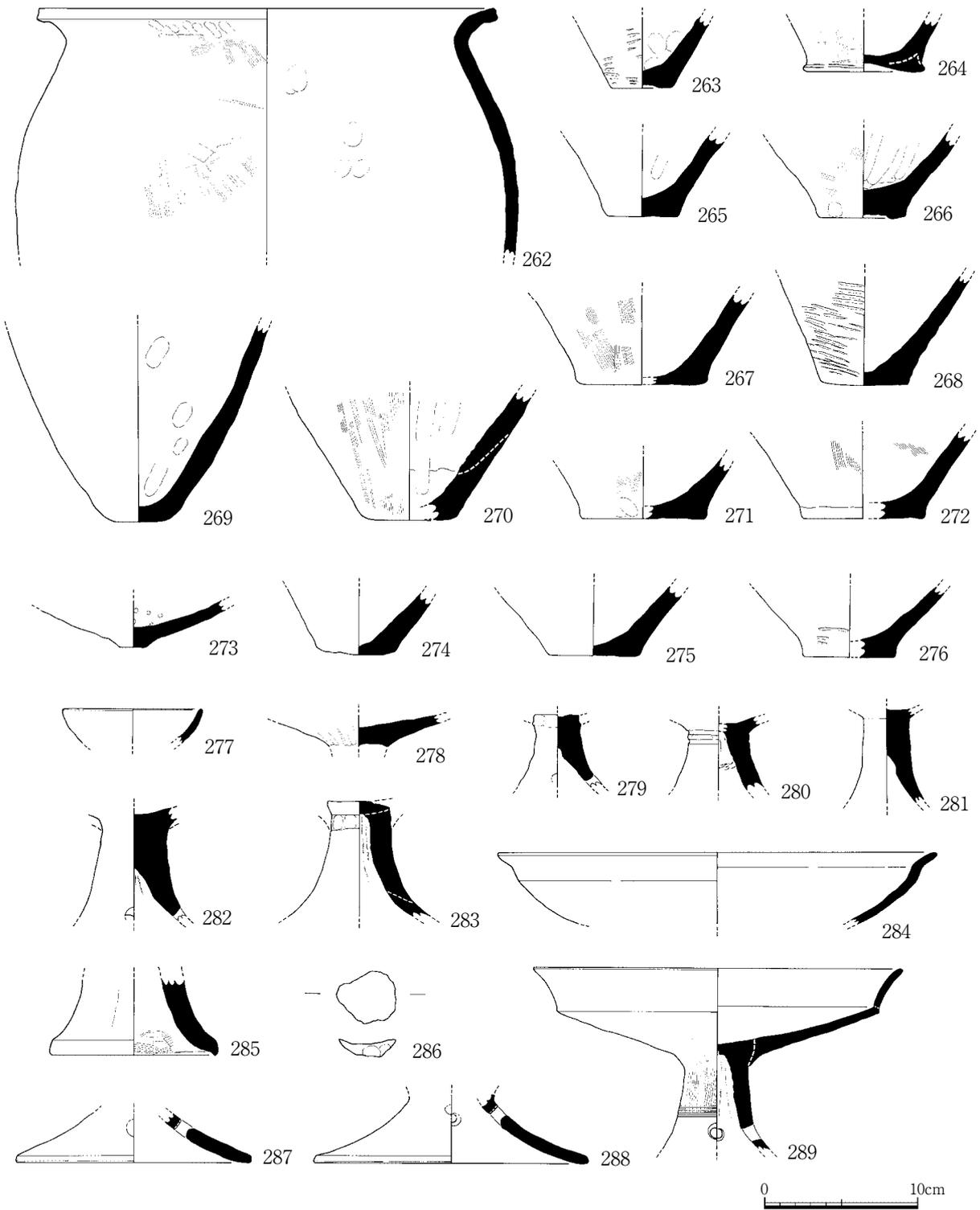


Fig.36 ST1出土遺物実測図3

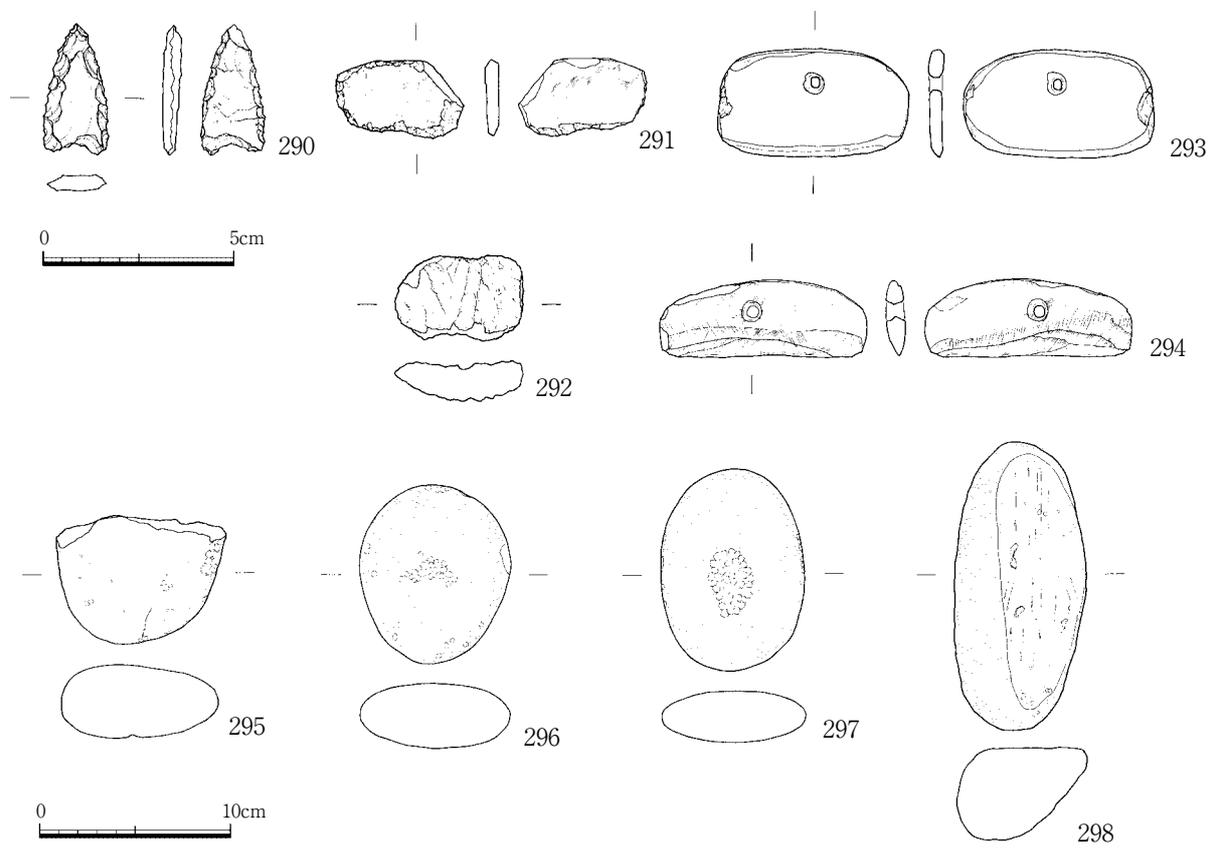


Fig.37 ST1出土遺物実測図4

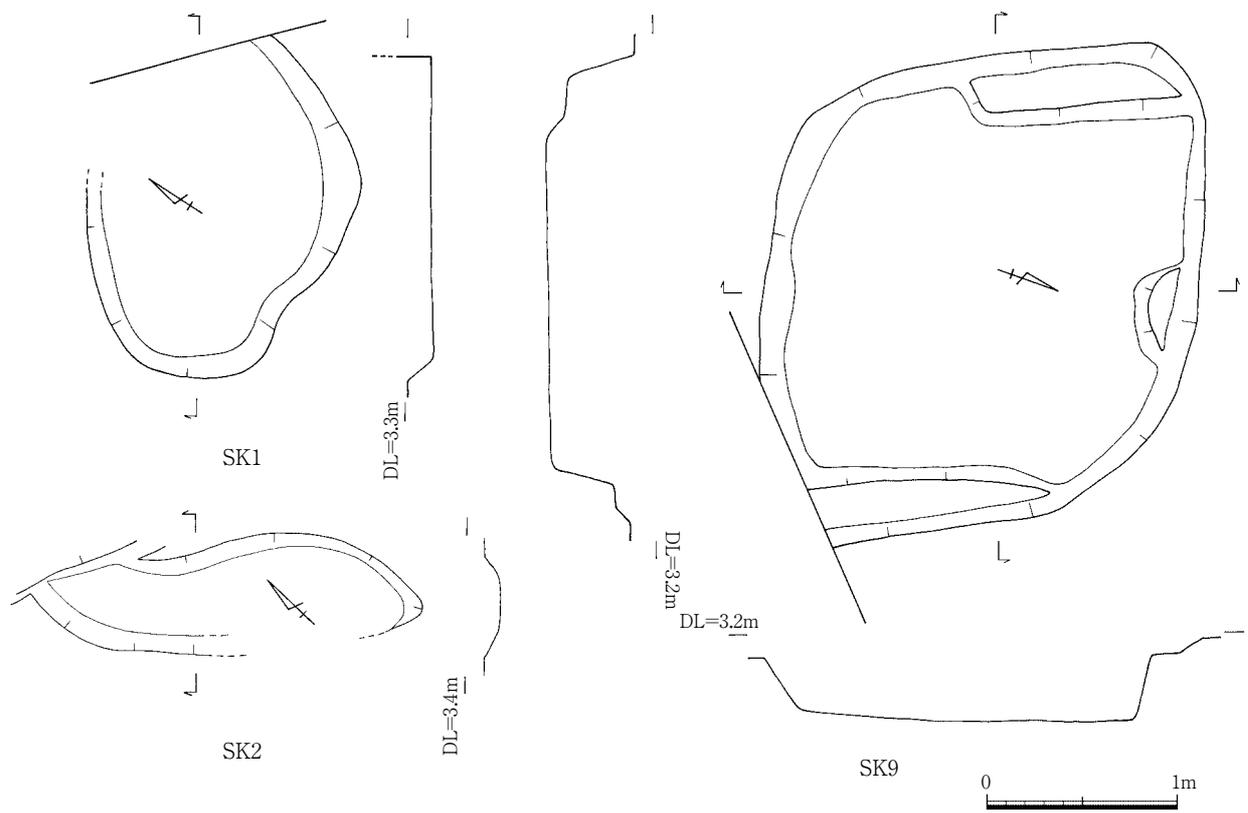


Fig.38 SK1・2・9平面、エレベーション図

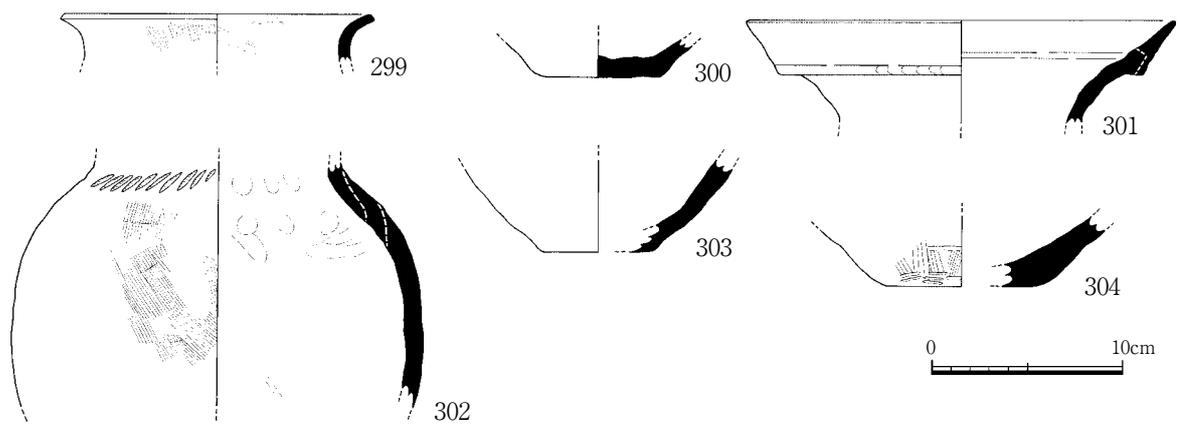


Fig.39 SK1(299・302・303)、SK9(301・304) 出土遺物実測図

2 III区の調査

(1) 基本層序 (Fig.41)

調査区東壁の層序を示す。

Ⅰ層：耕作土で層厚は5～25cmを測る。

Ⅱ層：黄灰色シルトで旧耕作土である。層厚5～20cmを測る。

Ⅲ層：灰褐色シルト層で旧耕作土である。南部にのみ堆積し、最大層厚20cmを測る。

Ⅳ層：にぶい黄橙色シルト、遺物包含層であり、遺物を少量含む。層厚20～30cmを測る。

Ⅴ層：褐色シルト層、遺物包含層である。土器を多く含み層厚50cm以上を測る。

Ⅵ層：調査区の地山層で、黄色シルトである。上面から遺構が検出される。

(2) 検出遺構・出土遺物

①土坑

SK 3 (Fig.40・41)

調査区の北の端に位置し、西側三分の一程攪乱を受けた状態で検出された。長軸1.4mの楕円形土坑で、深さ0.4m前後を測る。埋土はⅠ層：にぶい黄褐色シルト、Ⅱ層：褐色シルト、Ⅲ層：にぶい褐色シルトである。出土遺物は、埋土各層から100点程の土器片が出土しているが、図示できたのはⅡ層出土の底部1点(315)のみである。後期中葉に属する。

SK 4

楕円形のプランを有し長軸1.0m、短軸0.6m、深さ0.34mを測る。埋土は3層に区分され、Ⅰ層：

灰黄褐色シルト(遺物含む)、Ⅱ層：にぶい黄褐色シルト、Ⅲ層：黄褐色シルトである。出土遺物は土器の細片が数点出土しているが図示可能なものはない。

②溝

SD 1 (Fig.40・41)

調査区の北寄り、SK 4の南側で検出された。南北に延び、やや弓形を呈する。長さ4.9m、幅0.34～0.85m、深さ0.20～0.24mを測る。断面はU字状を呈す。埋土はⅠ層：灰黄褐色シルト層、Ⅱ層：にぶい黄褐色シルト層である。南北両端の床面より壺(306・314)、高坏(308・309・311・312・313)、甕(320)が、埋土中から広口壺(305)、高坏(307・310)、底部(316・317・319)が出土している。高坏(310)と(313)は同一個体の可能性大である。

SD 2 (Fig.40・41)

調査区の中央東方で検出された。調査区外の東

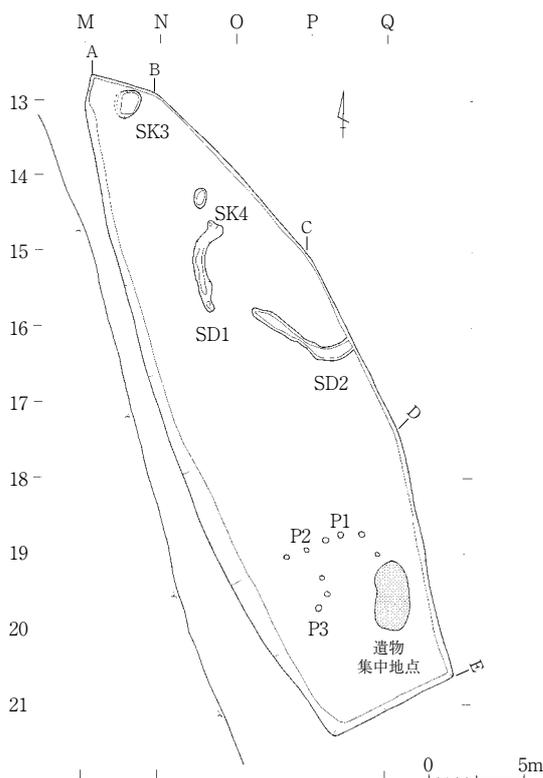


Fig.40 III区検出遺構全体図及び基本層序位置図

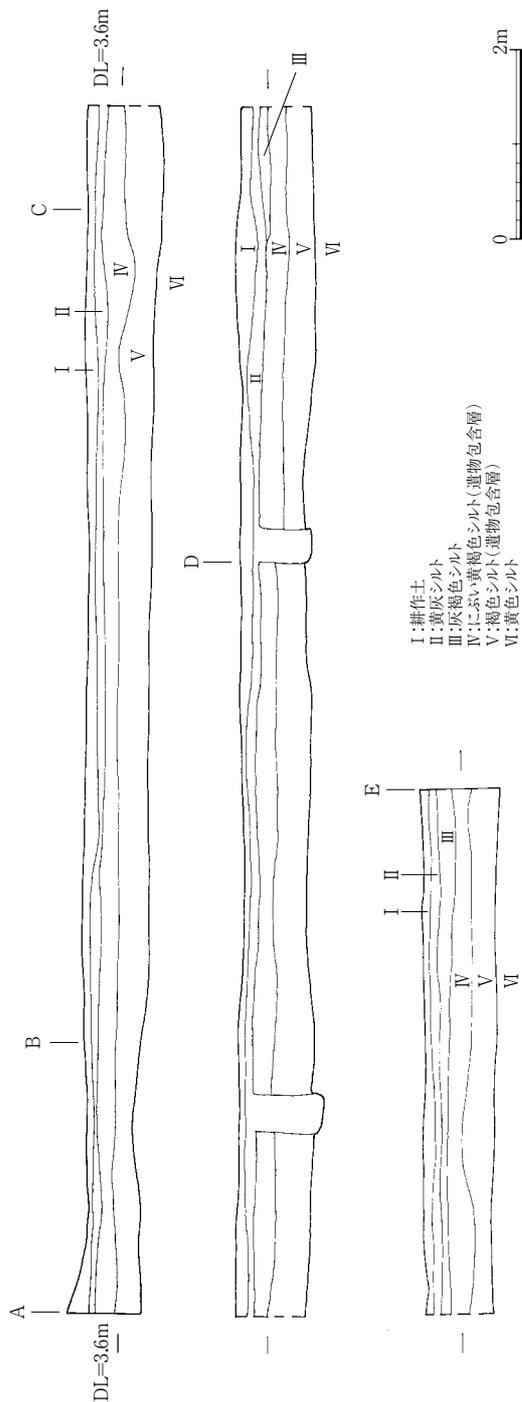


Fig.41 III区基本層序(東壁)

側から西に延びて途中から北西方向に向きを変えている。確認延長4.85m、幅0.25~0.70m、深さ0.09~0.10mを測る。断面は皿状を呈する。埋土は2層に区分され、I層：褐色シルト、II層：灰黄褐色シルト層である。床面より内面へラ削りのある甕底部(318)が出土している。

③土器集中地点出土の遺物(Fig.42・43)

調査区の南端部で遺構に伴わずに、3.6×1.6mの範囲から土器が集中出土している。壺底部(335)、鉢(337)、高坏脚(338)が一点づつ含まれている以外は全て甕(321~336)である。甕は、叩き成形痕を外面に残す砲弾型のタイプのみで占められており、10個体前後になるものと思われる。これらのうち321・324・325・328・332は、外面が煤けるか被熱赤変している。10個体前後の甕が集中して出土したことは単なる廃棄とは考えられず、何らかの意図的な行為のもとに措き去られたものであろう。後期後葉に属する。

④柱穴(Fig.40)

P1

調査区、南側の東寄りで検出された。規模は直径0.3×0.3mを測り円形を呈する。深さは0.2mを測り、埋土は1層で褐色シルトである。出土遺物は土器の細片が数点出土している。

P2

調査区、南側の西寄りで検出された。規模は0.3×0.34mを測り楕円形を呈する。深さは0.1mを測り、埋土は1層で褐色シルトである。出土遺物は土器の細片が数点出土している。

P3

調査区、南側SX1の西で検出された。規模は直径0.38×0.26mを測り不整楕円形を呈する。深さは0.1mを測り、埋土は1層で褐色シルトである。出土遺物は土器の細片が数点出土している。

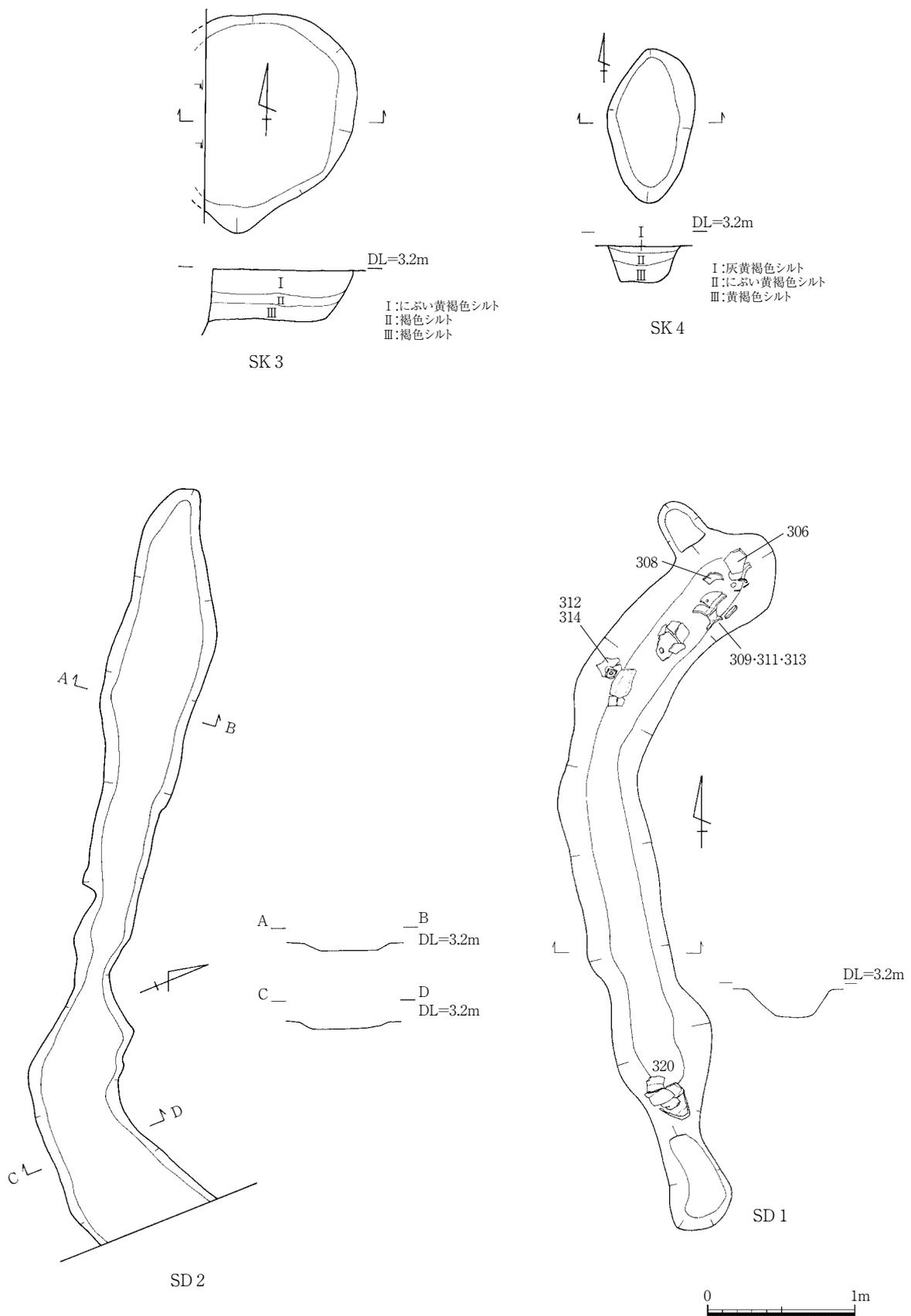


Fig.42 SK3・4、SD1・2平面・セクション及びエレベーション図

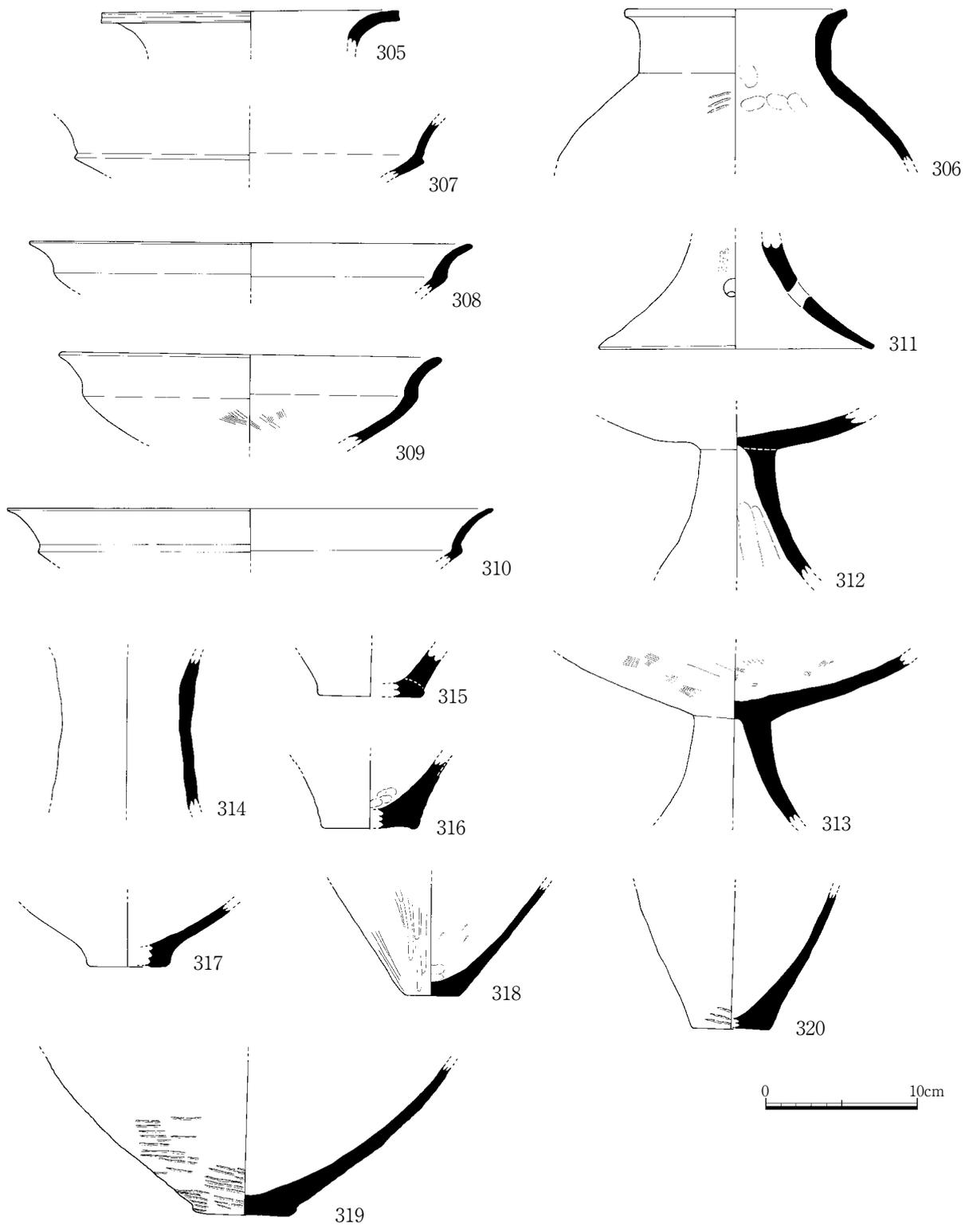


Fig.43 SK3(315)、SD1(305~314・316・317・319・320)・2(318)出土遺物実測図

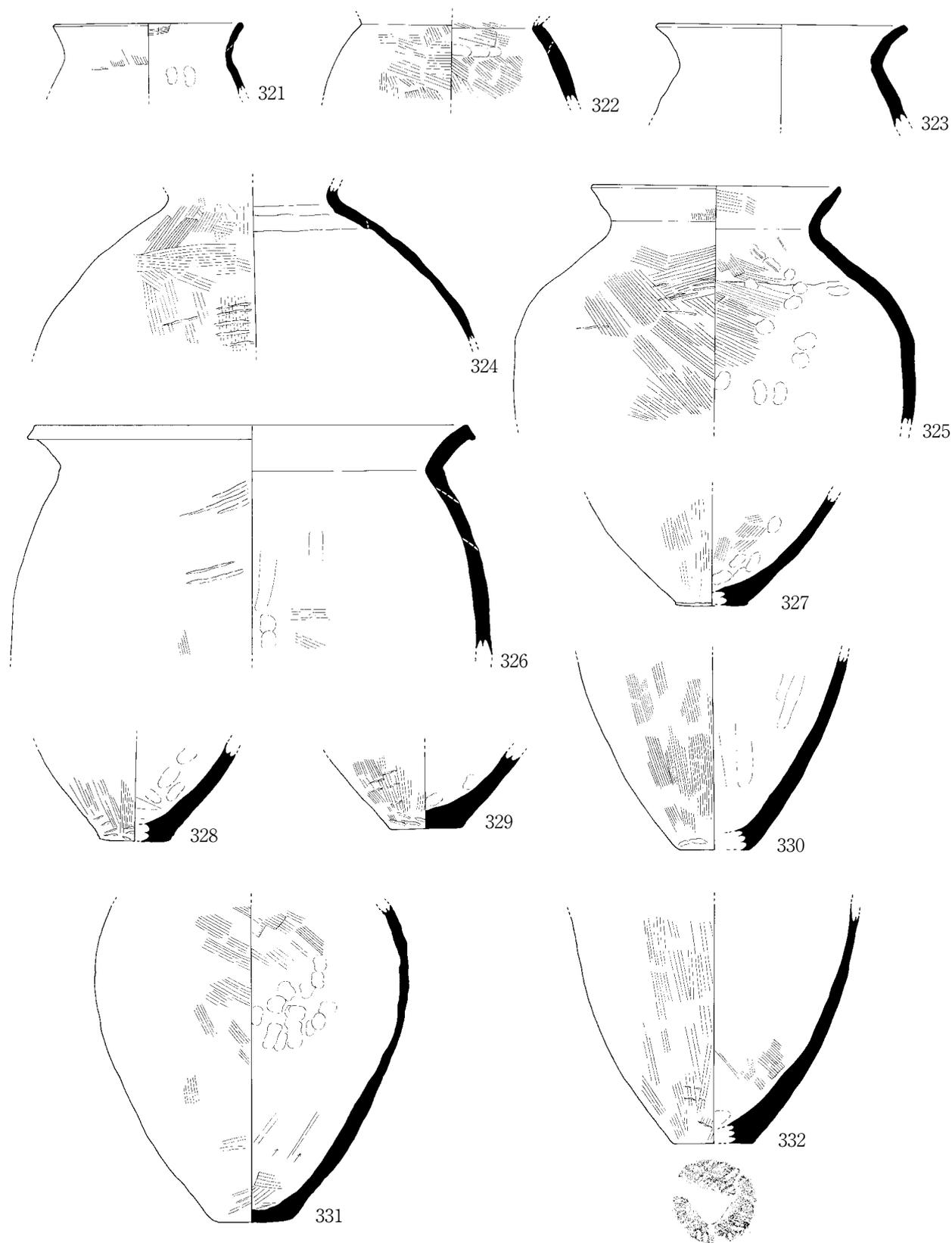


Fig.44 Ⅲ区遺物集中地点出土遺物実測図1

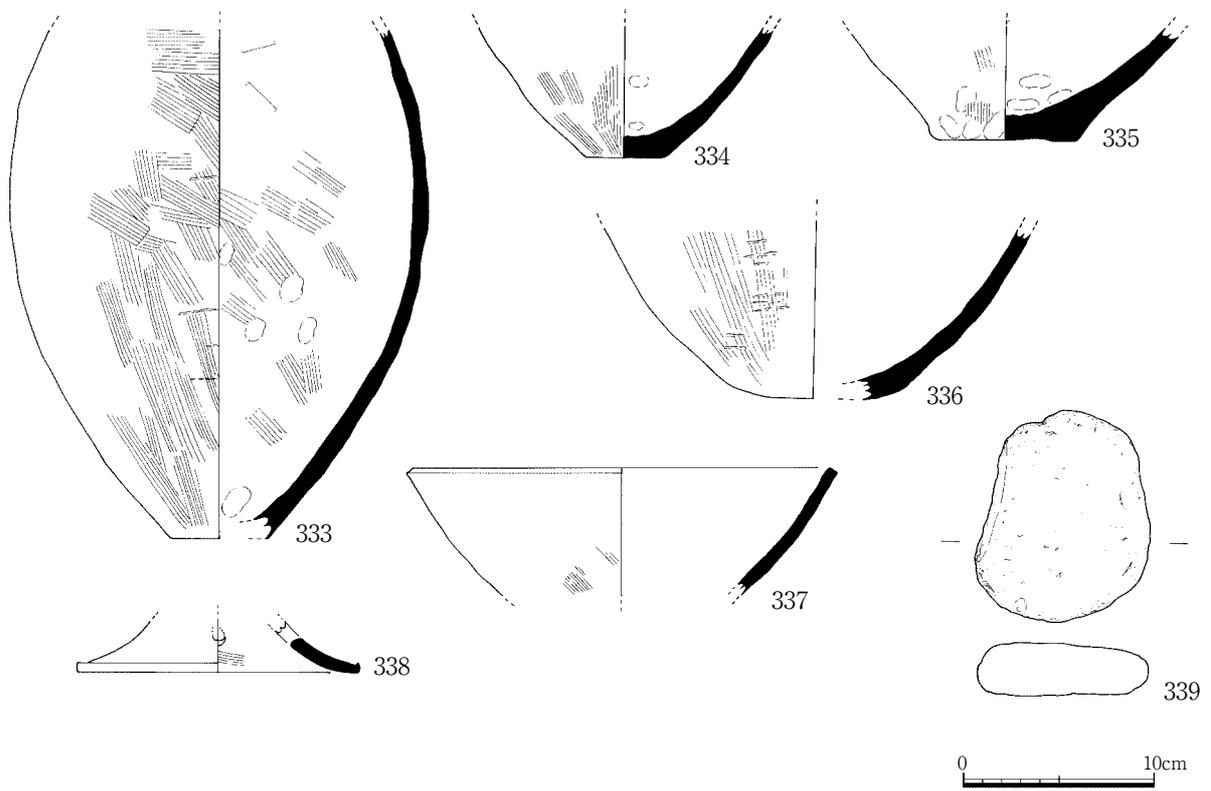


Fig.45 Ⅲ区遺物集中地点出土遺物実測図2

第V章 考察

ST 1 及びSD 3 出土土器について

はじめに

ST 1 及びSD 3 から後期中葉に属する一括性の高い土器の出土を得た。南四国における当該期の土器編年は、高知平野東部の物部川流域の諸遺跡出土の土器を中心にして編まれている。東部と西部とでは、形態的、技法的にもかなり大きな差違の存在することが指摘されていた。しかし西部地域においては良好な一括資料を欠いていたために、東部地域との比較検討を行い具体的にその違いを提示することができなかった。今次調査で得た2つの遺構出土の土器は、本文で述べたように一括性の高いものであり、量的にも恵まれており土器組成や諸特徴を抽出するのに十分に耐え得るものである。これらの資料は、今後、高知平野西部の土器編年を編む上でも基準資料として位置付けられることになろう。ここでは、遺構出土土器につて諸特徴を明らかにし、その上で、当該資料に先行すると考えられる北高田遺跡出土資料⁽¹⁾との比較や後期中葉の物部川流域の土器との違いを明らかにしたい。

1 分類

先ず器種ごとに主として口縁部の特徴から型態分類をする。

(1) 壺

I類：長めの頸部からラッパ状に外反する広口壺。

II類：細頸の壺である。

(2) 甕

I類：口径10cm未満の小型の甕。

II類：口縁部が丸味を帯びて「く」字状に外反する。

III類：口縁部外面に粘土帯を貼付するもので、頸部が明瞭に認識できる。いわゆる南四国型甕⁽²⁾に属するものである。

IV類：II類に類似するが、外反のカーブがより緩やかで、短い頸部が認められる。

V類：口径25cm以上の大型のものに多く見られ、口縁部が大きなカーブを描きながら外反する。

VI類：口縁部を上方に拡張する二重口縁を呈するもの。

(3) 鉢

I類：口縁部に向かって内湾気味に立ち上がるもの。

II類：I類と同様の形態を有するが、口縁部外面に粘土帯を貼付するもの。

III類：口縁部が外反するもの。

(4) 高坏

I類：口縁部の屈曲部が明瞭な稜を持って外反する。

II類：口縁部の屈曲部が明瞭な稜をもたない。

III類：坏部が大きな鉢状を呈するもの。

2 ST1出土の土器

ST1からは壺、甕、鉢、高坏が出土している。既に述べたように図化し得なかったものも含めて口縁部の組成比を示すと、壺：甕：鉢：高坏：蓋=14点(21.2%)：47点(71.2%)：2点(3%)：2点(3%)：1点(1.5%)である。

壺は図化し得た5点(226~230)は全てI類の広口壺である。口唇部は強い横ナデ調整が施され、226と229には刺突文が施されている。

甕は、I類からV類が認められる。I類は1点(235)のみで、屈曲部外面に列点文が認められる。II類は、最も多い。図化できたものでも234・238・239・240・242・243・247・251・254・258・261・262の12点を該当させることができる。図化し得なかったものも多くが本類に属するものと考えられる。口唇部は例外なく強い横方向ナデ仕上げ、外面は縦方向を基調とするハケ調整である。247の上胴部には右上がりの列点文が施されている。II類は、258・261・262が口径25cm以上の大型甕に属するが、他はすべて20cm前後から20cm未満の大きさである。III類は5点(236・245・246・253・256)が見られる。粘土帯の幅は、236が1.5cm、他は2cmを測る。これらの粘土帯は、一端口縁部外面の器面調整をした後に貼付している。246と253の口唇部には刻目を施し、246の肩部には右上がりの列点文が配されている。IV類は6点(237・241・244・248・249・250)見られる。僅かに頸部の存在を認識することが可能で248~250を典型とすることができる。口唇部には強い横ナデ調整が施される。V類は、4点(255・257・259・260)が認められる。これらは全て口径25cm以上の大型の甕に属する。口唇部は強い横ナデが見られ凹状を呈する。260の上胴部内面には左←右のヘラ削りが認められる。甕底部は、全て平底で、263・268・276には叩き目が残る。263・264・266は僅かに上げ底状を呈し、264は外縁部が張り出している。

鉢はI類(227)が1点出土している。高坏は、I類(289)とII類(284)が見られるが、脚部や柱状部の破片や充填部(286)、坏部との接合部から剥離した脚部(279・283)も認められる。柱状部の点数から見て5個体前後の高坏があったことになる。また289の坏部裏側には脚中空部から刺突された径3mmの小孔が認められる。

3 SD3出土の土器

SD3からは、壺、甕、鉢、高坏が出土している。図化し得なかったものも含めて口縁部の組成比を示すと、壺：甕：鉢：高坏=8点(18%)：29点(66.9%)：5点(11.4%)：1点(2.2%)である。壺は、I類が6点(82~85・87・88)、II類が2点(86・129)見られる。I類の口唇部は強い横ナデにより凹状を呈する。口唇部文様は認められない。外面の調整は縦方向のハケ調整を基調とし内面には指頭圧痕や指ナデ調整痕が顕著に見られる。II類の外面は、ナデ調整(86)とヘラミガキ(129)で仕上げられている。

甕はI類とIII類を欠いている。最も多いII類は14点(94・97~99・101~103・107~111・119・120)を図化したが、この他にも8点を認めることができ計22点を数える。98の内面にはヘラ削りが見られる。口唇部は横ナデにより面をなすものが多いが、97と109は尖り気味に納めている。法量的には119と120が口径25cm以上の大型である以外はすべて15~20cmの中型に属する。IV類は図示した

もの(93・95・100・105・106・112)の他に3点認められ計9点ある。口唇部はⅡ類同様に面をなすものが多く、体部外面は縦方向のハケ調整を基調とする。112の上胴部には叩き目が認められる。口径は15～20cm前後のものが多いが、112は器高31cmを測り他の甕に比べて丈長でやや特異な存在である。Ⅴ類は1点(117)のみである。口径25cm以上の大型品で肩に右上りの列点文を施している。Ⅵ類は2点(92・96)見られる。96には拡張部外面に弱い沈線が2条見られる。胎土も他の甕とは異なっており搬入品の可能性がある。以上の甕は、大型品も含めてほとんどのものが煤けている。

鉢はⅠ類が5点(121・123・125・126・127)、Ⅱ類が1点(124)、鉢と考えられる底部が1点(122)出土している。高坏は、Ⅲ類が1点(130)と柱状部(128)と裾部(131)が1点ずつ出土している。

4 北高田遺跡出土土器

仁淀川右岸の土佐市高岡に所在する後期前葉の集落遺跡である。掘立柱建物と掘立柱建物に附属する土坑を中心に構成されており、土坑から一括性の高い土器が出土している。ST1やSD1に先行し諸特徴の変化を知るのに良好な比較資料である。ここではこれらの中でもまとまった資料の出土しているSK2、SD4、SD5出土の土器について見たい。

(1) SK2 (Fig.46)

図示し得なかったものも含めて口縁部の点数から器種組成を見ると、壺：甕：鉢：高坏＝8点(33.3%)：14点(58.3%)：1点(4.2%)：1点(4.2%)である。壺は広口壺(3・4)、長頸壺(5・6)、細頸壺(2)、直口壺(1)、短頸壺(21)が各1点見られる。広口壺や長頸壺、細頸壺の頸部には櫛描文を施すもの(2・5)が見られる。甕は前述の分類に従うと「く」字状口縁のⅡ類が4点、Ⅲ類が6点(7・10・14など)、Ⅳ類が4点(11・17など)見られる。高坏(22)は口縁部が外反するタイプで、胎土から搬入品である可能性が高い。

(2) SD4 (Fig.47)

同様に器種組成を見ると壺6点(40%)、甕9点(60%)である。前者は全て広口壺で内4点が口縁部外面貼付手法によるものである。後者には、Ⅰ類(23・24)、Ⅱ類(27)、Ⅲ類(28・30)、Ⅳ類(25・26・29)が見られる。27・30の口唇部には沈線化した凹線文が巡り、26・27・30の肩には列点文が施され、30には浮文も見られる。

(3) SD5 (Fig.47)

同様に器種組成を見ると壺4点(28.6%)、甕10点(71.4%)である。壺は広口壺、長頸壺(35・36)、短頸壺(38)が見られる。短頸壺は頸部に櫛描直線文、肩に列点文が施されている。甕はⅢ類が8点(37・40・41など)を占めており、口唇部や頸部、上胴部に刻目や櫛描などが施文される。39には沈線化した凹線文が巡る。

以上北高田遺跡出土の土器を見た。一見して極めて地域性の強い土器である。これらの土器は、高坏(22)や凹線文の存在から概ね後期前葉に比定できるものである⁽³⁾が、同時期の高知平野東部、物部川流域の田村遺跡などの土器に比べると器種組成、製作手法、文様などにおいて大きな違いが認められる。まず器種組成については、主要器種が壺と甕であり、高坏や鉢は例外的な存在である。当該期の高知平野東部(以下東部)でも主要器種が壺・甕であることには変わらないが、高坏

が一定の比率を占めるようになっている。次に器種別に諸特徴を見ると、壺は先に見たようにバリエーションが多いこと、甕は、中期に盛行を見た南四国独特の南四国型甕(Ⅲ類)やその系譜上にあるものがほとんどを占めている。東部では、中期後葉以来中部瀬戸内からの強い影響を受けて土器様式の転換が図られており、甕も凹線文や内面ヘラ削りのある中部瀬戸内的なものが多く見られる⁽⁴⁾。

また、文様については、壺、甕共に櫛描文やハケ状原体による列点文、浮文などが多用され装飾性の強いことも特徴である。高知平野西部においては、中期に顕現化した南四国独自の強固な地域色が後期前葉においても存続しており、土器型式において東部とは際立った差違を示している。

5 東江曲遺跡ST1、SD3出土土器の位置付け

ここでは北高田遺跡出土土器との比較を通して、ST1、SD3出土土器の編年的位置付けを行う。

(1) 器種組成

北高田遺跡の3つの遺構から出土した主要器種は壺と甕であり、壺：甕の割合は概ね3：7～4：6である。高坏と鉢は各1点ずつの出土であり例外的な存在である。対してST1、SD3では、壺：甕が概ね2：7となり、僅かながら甕の組成比が増加している。またSD3では鉢が一割近くを占めている。

(2) 各器種の特徴

①壺

北高田遺跡では、広口壺(I類)、細頸壺(Ⅱ類)、無頸壺、短頸壺、直口壺などバリエーションが多く、広口壺が主流とはなっていないのに対して、東江曲遺跡ST1・SD3はⅡ類とした細頸壺が少量見られるものの、I類の広口壺が主体となっており型態的な統合化が進んでいることを指摘することができる。文様は、ST1出土の226・229に口唇部に施した列点文が認められるのみで、北高田遺跡で認められたような櫛描文や浮文は消失している。北高田で見られた口縁部外面貼付手法や僅少ながら存在した凹線文は認められない。

②甕

甕も北高田に比べると大きな変化が認められる。まず北高田遺跡で主流を占めていたⅢ類がST1で4点と甕全体の中で1割未満に減少し、変わって北高田遺跡では僅少であったⅡ類、Ⅳ類が大半を占めている。SD3ではⅢ類が見られず、Ⅱ類が主流を占め新たにⅥ類が登場している。ST1のⅢ類も北高田遺跡で見られた櫛描文や浮文は認められず、僅かに列点文が見られるのみである。凹線文も全く見られない。僅少ながら叩き目を残すもの(112・263・268)が認められるのは新たな要素である。

③高坏

坏部が外反するⅠ・Ⅱ類に対して深い坏部を持つⅢ類は、特異な存在である。強いて系譜を辿れば田村遺跡末通し地区で検出した中期後葉の住居址出土の資料⁽⁵⁾を挙げることができる。地域性の強い伝統的なタイプとして位置付けることができよう。

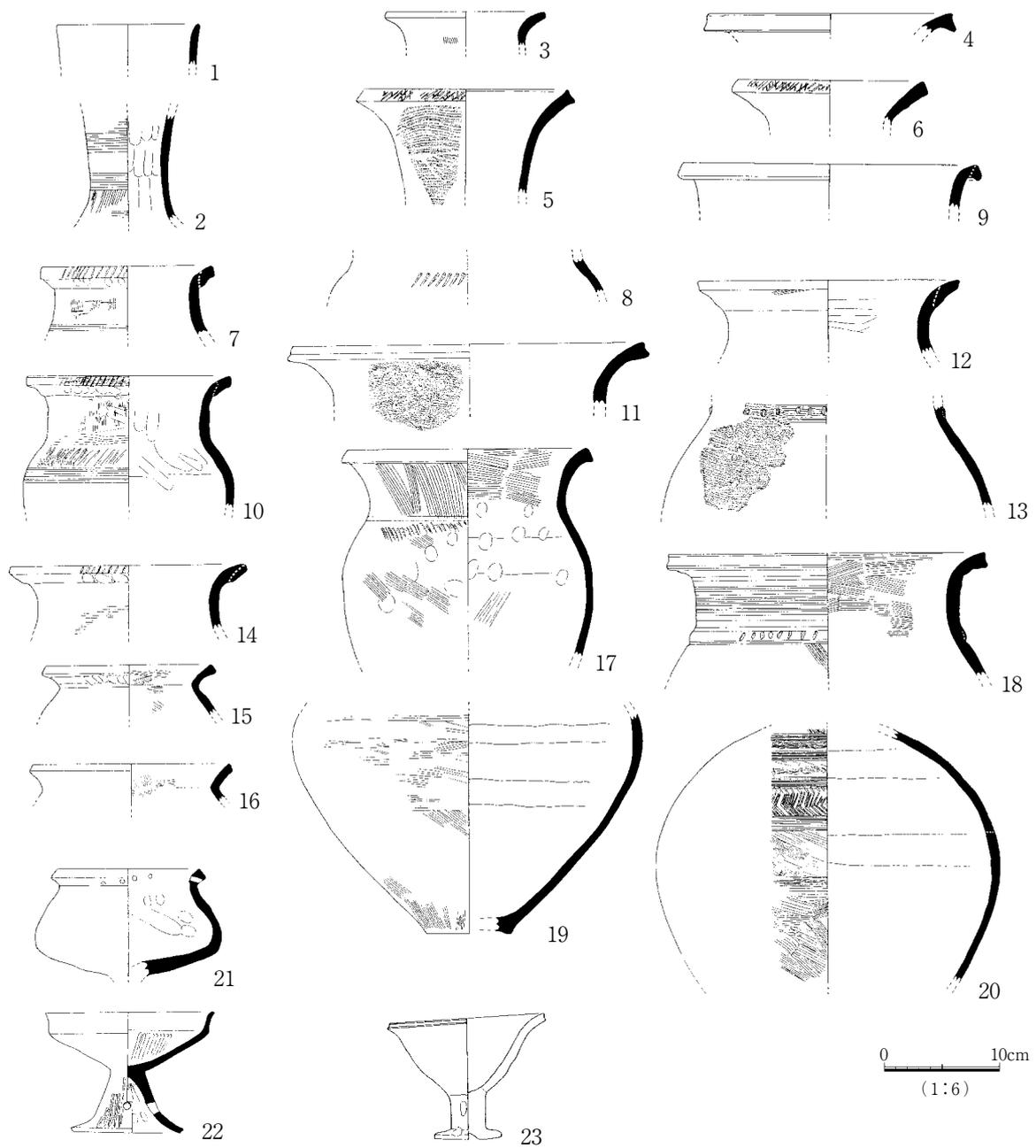


Fig.46 北高田遺跡(1~22)、田村遺跡末通し地区(23)出土土器実測図

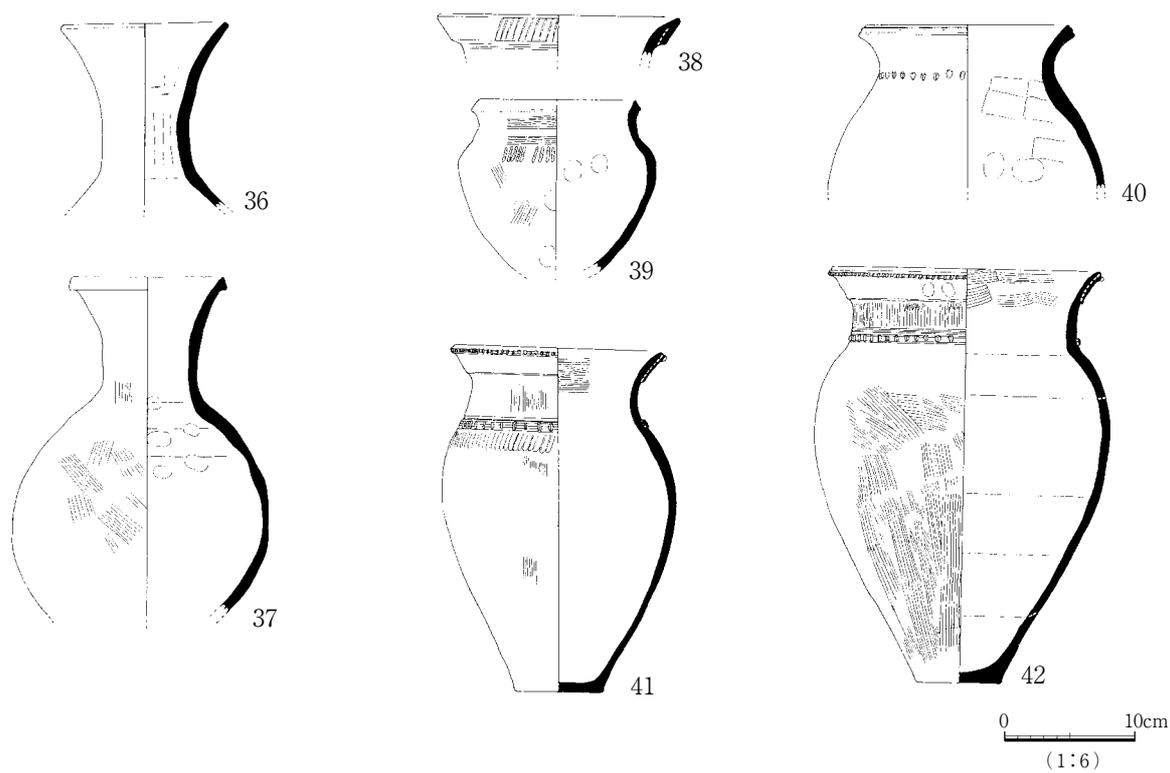
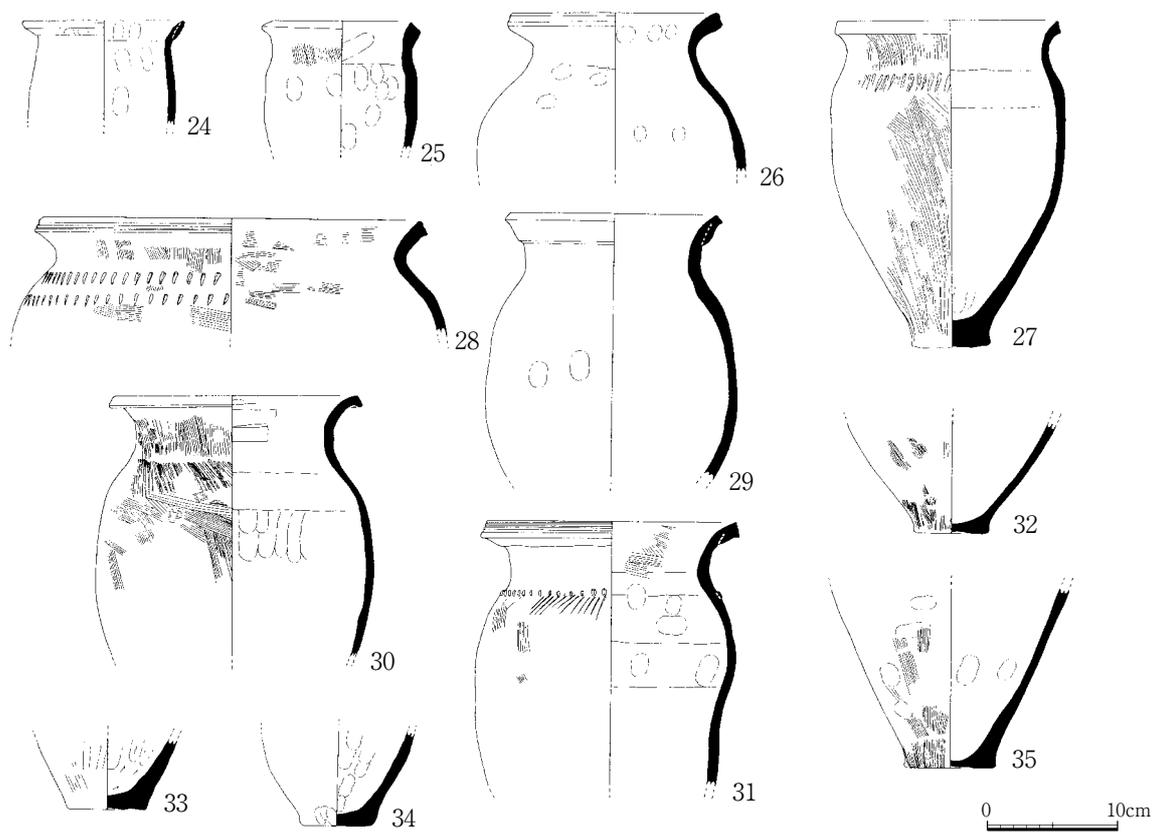


Fig.47 北高田遺跡出土土器実測図

④鉢

SD3からは比較的小型の鉢がまとまって出土している。貼付口縁を有するⅡ類(124)が認められることは伝統的手法の残存である。

(3) 編年的位置付け

東江曲遺跡ST1、SD3出土の土器は、伝統的な要素を残しながらも北高田遺跡に比べると壺に見られる広口壺への型態的な統一、甕Ⅱ類の主流化、叩き目、文様の消失化など新しい要素を多分に含んでいる。以上の検討結果から、これらの土器は高知平野西部における後期中葉に位置付けることができよう。東部との併行関係を求めればV-3～4期⁶⁾に該当しよう。

ST1とSD3の間にも先後関係を指摘できる要素が認められる。甕Ⅲ類やⅥ類の有無、小型鉢の多寡などについてである。甕Ⅲ類がなく、甕Ⅵ類を有し、小型鉢の多いSD3は、ST1よりも新しい要素である。従ってST1を後期中葉の前半、SD3を後期中葉の後半に位置付けることも可能であろう。しかしながら両者は、遺構の性格も異なっていることから、今回は敢えて分離せずその可能性を指摘するに留めて将来の検討に委ねたい。

註

1)出原恵三・池澤俊幸・久家隆芳『北高田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2000年

2)出原恵三「土器と青銅器から見た土佐と宇和」『宇和の古代文化を解剖する～九州・瀬戸内・南海文化の十字路に立って～』愛媛大学考古学教室第1回公開シンポジウム資料2001年

3)久家隆芳「北高田遺跡出土の弥生後期土器について」『北高田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2000年

4)出原恵三「中部瀬戸内と高知平野―拠点集落成立の背景―」『環瀬戸内の考古学』平井勝氏追悼論文集上巻古代吉備研究会2002年

5)出原恵三「末通し地区の調査」『高知空港周辺整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集』高知県南国市教育委員会1987年

6)出原恵三「土佐地域」『弥生土器の様式と編年四国編』木耳社2000年

第Ⅵ章 まとめ

東江曲遺跡は、弥生時代後期中葉、後期末～古墳時代前期初頭に営まれた集落遺跡であり、古代に属する溝も1条検出された。時期を明確にすることのできる遺構は下記の通りである。

弥生後期中葉：竪穴住居4棟(ST1～4)、土坑4基(SK1・3・5)、溝2条(SD1・3)

弥生後期後葉：Ⅲ区土器集中

弥生後期末～古墳時代前期初頭：Ⅰ区土器集中、土坑1基(SK9)

古代：溝1条(SD4)

第Ⅱ章で述べたように東江曲遺跡は、東方の丘陵から派生した微高地の西端部に立地する集落であり、弥生後期中葉に竪穴住居が出現し、土坑や溝とともに居住区が形成される。遺跡の広がりをはっきりとすることはできないが、北や東に広がっていることは確実である。竪穴住居に切り合いがあるが、ほぼ後期中葉の中で推移し一旦終結している。SD3出土の土器群は、その際に遺棄された可能性がある。既に見たように出土状況から判断して単なる廃棄ではなく、居住域の廃絶に伴う祭祀的行為として捉えるべきであろう。

竪穴住居は、ST1が径9m前後、面積60㎡以上の大型円形住居、ST4が一辺6.5m前後、面積30㎡前後の中規模の隅丸方形住居、ST2・3は1辺4m前後、面積16㎡前後の小型の隅丸方形住居である。高知平野西部(以下西部)の竪穴住居は、後期末から古墳時代前期の事例は西分増井遺跡⁽¹⁾などで知られているが、後期前・中葉の事例は極めて少なく前葉の例が北高田遺跡⁽²⁾とバーガ森北斜面遺跡⁽³⁾で各1棟知られている。前者が不整形、後者は隅丸方形である。中葉の事例は今回が初めてである。今回の例は4棟の内3棟までが隅丸方形であり、僅少な事例からではあるが当該期における西部の竪穴住居の平面形は隅丸方形基調となることを指摘できよう。高知平野東部(以下東部)の当該期は円形基調で推移しており、平面形態の差違が認められる。また東部では後期終末期に至って隅丸方形基調に転じ、古墳時代初頭には方形に変化する⁽⁴⁾。このような動向と西部の隅丸方形基調との間に関連があるのかわからないのか興味深い問題である。

ST4はベッド状遺構を有している。高知平野におけるベッド状遺構の登場は後期中葉であるが、これまでの事例では田村遺跡田中地区のST5⁽⁵⁾や下ノ坪遺跡ST11⁽⁶⁾などすべて東部に集中していた。西部では後期末～終末期の例が西分増井遺跡などで知られているのみであった。今回の事例によって、西部でもベッド状遺構の出現が後期中葉にまで遡ることが明らかとなった。ST4は多角形状のベッド状遺構で筆者分類のⅢB類⁽⁷⁾に属するものであり類例を下ノ坪遺跡ST11に求めることができる。

後期中葉の段階で一旦遺構が廃絶され、後葉にⅢ区の土器集中が見られ、ついで古墳時代前期初頭にⅠ区の土器集中とSK9が存在する。Ⅰ区の土器集中はすでに見たように、遺構に伴うものではないが一括性の高いものである。このような事例は、県西南部の具同中山遺跡において知られている⁽⁸⁾。一方、東部においては竪穴住居の廃絶に伴う行為として大量の遺物が廃棄ないしは埋め戻される事例⁽⁹⁾が多く見られるが、遺構に伴わない今回のような事例は認められない。古墳時代

前期初頭以降の遺物・遺構が認められないことから居住域の廃絶に伴う祭祀的な行為として位置付けることができよう。

南四国における弥生文化は、一つのまとまりのある地域文化として捉えることはできない。東部に集中する銅鐸と西部に偏る銅矛の分布に象徴されるように県東部と県西部とでは異なった展開をしている。この違いは高知平野の東部と西部にも当てはめることができる。しかしながら集落や土器などの生活関連遺物を通してその具体像に迫ることは、特に西部の資料の欠如から進展を見ることがかなわず切齒扼腕の思いがあった。今次調査は、狭隘な面積であり居住区域の一部分を調査したに過ぎなかったが、土器や竪穴住居を通してその具体像の一端を明らかにすることができた。

註

- 1)出原恵三『西分増井遺跡群発掘調査報告書』春野町教育委員会1990年
- 2)出原恵三・池澤俊幸・久家隆芳『北高田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2000年
- 3)伊藤強『バーガ森北斜面遺跡』高知県伊野町教育委員会1999年
- 4)出原恵三「南四国の竪穴住居」『犬飼徹夫先生古稀記念論集四国とその周辺の考古学』犬飼徹夫先生古稀記念論文集刊行会2002年
- 5)出原恵三『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査(山側進入灯設置区域)報告書－田村遺跡群・田中地区－』高知県教育委員会1986年
- 6)小松大洋・池澤俊幸・出原恵三『下ノ坪遺跡Ⅱ』高知県野市町教育委員会1998年
- 7)註4)に同じ
- 8)浜田恵子「第2節. 縄文・弥生時代」『具同中山遺跡群Ⅳ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2001年
- 9)出原恵三「竪穴住居の廃絶について」『林田遺跡Ⅱ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2002年

表1 I区 遺物観察表1

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig10-1	ST2埋土	壺	(3.4)	16.7			0.5~3.0mmの砂粒、チャートの粗粒砂が多い	内外面暗灰黄	口唇は強いヨコナデにより凹状、口縁部強いヨコナデ、端部を下方に拡張、頸部外面タテハケ、内面ヨコハケ	
〃 -2	ST2床	〃	(10.6)	12.2			0.5~6.0mm大の砂粒チャート粗粒砂が多い	内面オリーブ黒、外面にぶい黄	外面タテハケ、内面ヨコハケ	
〃 -3	ST2埋土	〃	(6.5)	16.7			チャート、他の粗粒砂が多い	内面にぶい黄橙、外面にぶい橙断面灰オリーブ	口縁外面粘土帯貼付、内面をわずかに肥厚させ刻み目、口唇面にはLの弱い列点、口頸部内面ヘラミガキ、口縁外面ヨコナデ、頸部外面タテハケ+タテヘラミガキ	
〃 -4	〃	〃				6.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面黄褐色外面橙色	外面器表剥離、内面ハケ、外面2ヶ所に大きな黒斑	
〃 -5	〃	甕					チャート、石英粗粒砂が多い	内面橙色、外面にぶい橙	口縁内外ヨコナデ、口唇面取り、胴部外面タテハケ	外面煤け
〃 -6	ST2床	壺		13.6			チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙色、外面にぶい橙	口縁粘土帯貼付、外面指圧顕著外面器表剥離	
〃 -7	ST2埋土	甕		18.6			チャートの粗粒砂が多い	内面茶褐色、外面橙色	内外面ナデ	
〃 -8	〃	〃	(1.9)	20.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰、外面にぶい黄橙、断面オリーブ黒	口唇は強いヨコナデ、口縁外面粘土帯貼付、口縁内面ヨコハケ	
Fig11-9	ST2床	〃	36.8	20.4		7.5	0.5~6.0mm、チャート、石英粗面岩の粗粒砂を多く含む	内外面黄灰色	口唇面取り、口縁外面、断面カマボコ状の粘土帯貼付、口縁内外ヨコナデ、体部外面タテハケ、内面ヨコハケ、内面に粘土帯接合痕跡を認める	外面煤け
〃 -10	ST2埋土	底部				9.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面褐色	内外面ナデ、外面煤け	
〃 -11	〃	高坏脚	(3.0)			15.2	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙色、外面橙色	直径7mmの円孔、内面ヨコハケ、外面器表剥離	
〃 -12	〃	高坏					チャート、石英粗面岩、他の粗粒砂を多く含む	内外面にぶい橙色	坏部との接合部で剥離、内外面ナデ	
〃 -13	ST3埋土	甕	(7.2)	27.1			チャートの粗粒砂を含む	内外面橙色、断面黒褐色	叩き成形、外面タテハケ、内面ヨコハケ、口縁端部外面に細い圧痕列あり	
〃 -14	〃	甕?	(4.55)			2.45	チャートの細粒砂が多い	内面灰色、外面浅黄、断面黄	外面ハケ、内面ナデ、外面ススケ、底部付近大きな黒斑	
〃 -15	〃	甕	(5.1)			5.5	石英粗面岩、チャートの粗粒砂が多い	内面にぶい橙外面にぶい赤褐、断面黄灰	内面指ナデ、外面器表剥離	外面被熱赤変
〃 -16	〃	〃	(5.85)			7.0	チャートの粗粒砂が多い	内外面にぶい黄褐色、断面灰色	内外面ナデ	外底ドーナツ状に煤け
〃 -17	ST3床	高坏?	(6.2)				チャートの粗粒砂を含む	内面にぶい黄橙、外面橙、断面灰	内外面指圧顕著	
〃 -18	ST3P6床	甕	(9.3)			6.4	チャート、他の粗粒砂が多い	内面オリーブ黒、外面橙	断面0.5~3.0mmの砂粒、叩き成形、内外面タテハケ	
〃 -19	ST3埋土	壺	(5.0)	11.0			チャートの粗粒砂が多い	内外面にぶい黄橙、断面灰	口縁外面部分的に粘土帯貼付、内面ヨコナデ	
〃 -20	〃	〃	(2.5)	19.6			チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙、断面オリーブ黒	口縁端下に拡張、口唇面取り、内面ヨコハケ、外面タテハケ	
〃 -21	〃	〃	(5.5)	20.3			チャートの粗粒砂が多い	内外面橙、断面黄灰	内面ヨコナデ、口唇面取り、外面器表剥離	
〃 -22	〃	高坏	(3.9)				チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ナデ、充填部剥離	
〃 -23	〃	〃	(2.9)			18.4	チャートの粗粒砂が多い	内外面橙色、断面褐色灰	内面ヨコナデ	

表2 I区 遺物観察表 2

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig11-24	ST3埋土	脚?	(4.0)			21.4	チャートの粗粒砂多い	内外面橙色、断面灰オリーブ	外面ハケ、内面器表剥離	
Fig13-27	ST4埋土	壺	12.2	(4.0)			〃	内面灰、外面にぶい黄橙、断面灰	口縁部内外ヨコナデ、頸部外面タテハケ	
〃-28	〃	〃	(7.6)	10.6			角閃石、他の細粒砂を含む	内面にぶい黄褐色、外面褐色	内外面横ナデ、頸部内面指頭圧痕	搬入東阿波型
〃-29	〃	〃		16.0			チャートの粗粒を多く含む	内外面にぶい橙色		器表摩耗
〃-30	〃	〃	(4.1)	14.9			チャート、風化礫粗粒を多く含む	内面にぶい黄橙色、外面にぶい橙、断面黒	口縁内面ヨコ、頸部外面タテハケ、口縁面取り、口縁外面ナデ、2.7cm幅の粘土帯貼付	
〃-31	ST4中央P	〃	(2.0)	18.0			0.5mm-3mmの砂粒を含む	内面灰黄、外面にぶい黄褐色	口縁外面1.5cm幅の粘土帯貼付、内面ヨコハケ、口縁外面ヨコナデ、頸部外面タテハケ	外面煤け
〃-32	ST4埋土	〃	(5.0)	14.6			チャートの粗粒砂多い	内外面暗灰色断面も同じ	肩部に列点文	器表摩耗
〃-33	〃	〃		24.4			〃	内面灰色、外面にぶい橙	口縁面取り、口縁外面2cm幅の粘土帯貼付、頸部外面タテハケ	搬入品
〃-34	〃	〃					石英粗粒、長石細粒を含む	内外面にぶい橙色	口縁弱い凹線2条	
Fig14-35	〃	〃	(3.0)	19.8			チャートの粗粒砂多い	内面にぶい黄橙、外面橙、断面黄灰	口唇部に削り、頸部下端に列点文、外面タテハケ、内面ヨコハケ調整	
〃-36	ST4中央P	〃	(2.2)	22.4			チャート、他の粗粒砂多い	内面灰色、外面にぶい黄橙色		器表摩耗
〃-37	ST4埋土	甕		16.2			チャート、他の風化礫多い	内面灰褐色、外面橙桃色	口縁内面ヨコハケ	外面被熱赤変
〃-38	ST4中央P	〃	(3.2)	18.8			チャート、他の粗粒砂多い	内外面黄灰褐色、断面黄灰	内面ヨコハケ、ハケ+ナデ	
〃-39	〃	〃		19.8			チャートの粗粒砂多い	内外面にぶい橙色	口縁外面1.2cm幅の粘土帯貼付、端部を下方につまみ出す	
〃-40	〃	〃	(5.1)	17.2			〃	内面灰、外面黄灰、断面灰	内外面ヨコナデ調整	外面煤け
〃-41	ST4埋土	壺	(17.0)			3.9	チャートの粗粒砂多い	内外面橙色、断面黄灰	叩き成形なるもほとんどナデ消す、内面ハケ+ナデ、底部は上底状	
〃-42	〃	〃	42.5			6.8	〃	内面橙、外面にぶい橙、断面灰	叩き成形(下胴部のみに残る)外面タテハケ	外面一部煤け被熱
〃-43	ST4中央P	甕					チャート風化礫の粗粒多い	内面灰黄、外面にぶい黄橙、断面黄灰	内外ナデ、肩部列点文	
〃-44	ST4埋土	〃	(4.9)	19.4			チャートの粗粒砂多い	内面橙、外面明黄褐色、断面明青灰色	内外ナデ調整	
〃-45	〃	〃	(3.5)	25.2			チャート、他の粗粒砂を含む	内外面暗灰黄、断面黒	口縁内外ヨコナデ、口唇面取り僅かに拡張、頸部外面タテ、内面ヨコ方向ハケ	
〃-46	〃	〃	(4.2)	29.1			チャート風化礫の粗粒多い	内面にぶい褐色、外面オリーブ黒、断面オリーブ黒	内外面ナデ	
〃-47	〃	〃					チャートの粗粒砂多い	内外面灰色	肩に列点文、内外ナデ	
〃-48	ST4中央P	〃	(5.0)				〃	内面灰黄、外面にぶい黄	肩部に列点文、内外ナデ	
〃-49	〃	鉢		14.8			チャートの粗粒砂多い	内外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面上半ヨコハケ、下半ヘラ磨き	
〃-50	ST4壁溝	〃	7.8	20.2		5.0	チャートの粗粒砂多い	内面橙色、外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、上げ底風	

表3 I区遺物観察表3

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig15-51	ST4中央P	鉢	(3.5)	11.2			チャートの粗粒砂多い	内面灰黄色外面黄灰色	内面横ハケ	外面摩耗
〃 -52	ST4埋土	〃	8.3	8.4		5.0	〃	内外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -53	〃	高坏	(5.4)				チャートの細粒砂を含む	内面灰色、外面にぶい黄褐色	内面しまり目	
〃 -54	ST4中央P	〃	(7.6)			10.8	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄褐色、外面にぶい橙、断面灰	外面タテハケ、内面ナデ、坏接合部で剥離	
〃 -55	ST4埋土	〃	(5.7)				〃	内外面にぶい橙色	内面ヨコヘラミガキ、坏上半外面タテヘラミガキ+ヨコナデ	
〃 -56	〃	〃		26.4			〃	内面にぶい黄褐色、外面橙	内面ヨコヘラミガキ、外面器表剥離	
〃 -57	〃	甕	(3.0)			5.4	チャートの粗粒砂多い	内面にぶい黄褐色、外面黒褐色	内外面ナデ?	外面煤け
〃 -58	〃	〃	(2.2)			6.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰色、外面灰黄褐色断面灰色	内外面ナデ	外面煤け
〃 -59	〃	底部	(3.7)			6.4	〃	内面暗灰、外面黄褐色	内面ナデ、外面タテハケ	
〃 -60	〃	壺	(3.4)			6.2	チャート風化礫の粗粒砂を多く含む	内面灰オリーブ、外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ナデ、底部上げ底風	
〃 -61	〃	底部	(4.55)			7.0	チャートの粗粒砂多い	内面暗灰黄、外面にぶい黄橙、断面褐灰	外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -62	〃	〃	(5.0)			8.2	〃	内面暗灰黄、外面にぶい橙	〃	
〃 -63	ST4埋土	壺				7.6	チャートの粗粒砂多い	内面灰色、外面にぶい黄褐色	内外面摩耗	
Fig17-70	SK5埋土	〃				16.4	風化礫の粗粒、小礫を多く含む	内面にぶい褐色、外面にぶい黄褐色	内外面器表の荒れが激しい	
〃 -71	SK6埋土	甕	(2.25)	13.3			石英、長石	内外面にぶい褐色、断面も同じ	搬入品(東阿波)?、口縁内外面ヨコナデ、端部は上方につまみ上げ、ヨコナデ	外面煤け
〃 -72	SK5埋土	〃	(4.5)	24.0			チャートの粗粒砂多い	内面にぶい橙外面にぶい黄褐色	内外面横ナデ	
〃 -73	SK7埋土	壺底部	(2.9)			6.4	チャート風化礫他の細粒を多く含む	内外面橙色		器表剥離
〃 -74	〃	甕		15.8			チャート風化礫の粗粒砂を多く含む		口唇面取り、外面タテ、内面ヨコ方向ハケ	外面煤け
〃 -75	〃	〃	(3.1)	18.3			チャート他の粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面にぶい黄褐色	口唇面取り、内面ヨコ、外面タテハケ	
〃 -76	SK5埋土	〃	(4.65)			5.25	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面橙色、断面暗オリーブ灰	外面タテハケ	外面被熱赤変剥離
〃 -77	SK6埋土	甕底部	(4.1)			5.6	チャート、赤色風化礫他の細粒砂を多く含む	内面にぶい橙外面橙、断面黄灰		
〃 -78	SK7埋土	甕	18.6		22.0		石英、長石、雲母粗細粒砂多く含む	内面赤褐色、外面灰褐色	外面タテハケ、内面下半下→上のヘラ削り、中位上半指頭圧痕	外面煤け
〃 -79	〃	高坏	(10.0)			7.8	チャート、赤色風化礫他の細粒を多く含む	内外面橙色	裾部のあまり発達しない、直径8mmの円孔3コ、内外面器表の荒れが激しい	
〃 -80	SK5埋土	〃	(2.65)	18.9			チャートの細粒砂を含む	内面橙、外面にぶい黄橙、断面灰	内外面ヨコナデ	

表4 I区 遺物観察表 4

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig17-81	SK6埋土	高坏	(2.7)	26.4			チャートの粗粒を多く含む	内面オリーブ黒、外面にぶい褐色	外面ヨコナデ、内面器表剥離	
Fig19-82	SD3床	壺	(4.3)	19.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい褐色	口唇面取り、口縁内外ヨコナデ、内外面器表の荒れが激しい	
〃 -83	〃	〃	(2.9)	16.3			チャートの粗粒砂が多い	内面灰、外面にぶい黄橙、断面灰	口唇面内外ヨコナデ、内外面指頭圧痕多い	
〃 -84	SD3埋土	〃	(8.5)	13.8			チャートの粗粒多い	内面黄褐色、外面にぶい黄橙色	口唇凹状、内面ヨコ、外面タテハケ、原体は荒目	
〃 -85	〃	〃	(6.2)	12.6			チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙色、外面にぶい赤褐色	口唇はヨコナデにより凹状、外面タテ、内面ヨコハケ、上胴部外面タテ方向の沈線が数条垂下	
〃 -86	〃	〃	(4.8)				チャート、他の粗粒砂多い	内外面淡黄褐色	内外ナデ	
〃 -87	〃	〃	(12.5)	18.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内面褐色灰、外面にぶい橙	口唇凹状、外面タテ、内面ヨコ方向ハケ(木目荒い)頸部内面中位に粘土接合痕	
〃 -88	〃	〃	(11.7)				〃	内面にぶい赤褐色、外面橙褐色断面灰オリーブ	外面タテハケ、内面ナデ、指頭圧痕	
〃 -89	〃	〃	(4.9)			5.3	〃	内面オリーブ黒、外面橙色	外面タテハケ	
Fig20-90	SD3埋土	〃	(4.55)			6.7	チャートの細粒砂を多く含む	内外面橙色、断面オリーブ灰	器面調整不明、器表剥離	
〃 -91	〃	〃	(19.35)			7.9	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙、断面灰	外面タテハケ、内面中位ヨコ~右下がりハケ、底部付近ナデ	被熱赤変
〃 -92	SD3サブトレ	甕	(3.9)	11.0			チャートの砂粒を多く含む	内外面橙色	口縁部上方に拡張、内外面強いヨコナデ	
〃 -93	SD3埋土	〃	(3.8)	14.6			チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄、外面黄灰	口縁端部を上下につまみ出し、ヨコナデ、外面タテ、内面ヨコ方向ハケ	外面煤け
〃 -94	〃	〃		14.8			チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面黒色、外面橙色	外面タテハケ、内面ヨコハケ、口縁部内外ヨコナデ、頸部内面付近ヨコハケ	
〃 -95	〃	甕	(8.0)	13.4			チャート、赤色風化礫の粗粒砂多い	内面オリーブ黒、外面橙、断面にぶい黄	外面タテハケ、口縁部内外ヨコナデ胴部内面ナデ、口縁~胴部にかけて大きな黒斑	
〃 -96	〃	〃	(2.85)	16.0			チャートなし	内外面橙色、断面浅黄橙	内外面ヨコナデ	搬入品?
〃 -97	〃	〃	(7.0)	13.8			チャートの粗粒多い	内面黒色、外面にぶい黄褐色	内外面ナデ	外面煤け
〃 -98	〃	〃	(6.1)	19.9			チャート、他の粗粒を含む	内外面にぶい黄橙色	口唇面取り、口縁外面タテ、上胴部外面ヨコハケ、胴部内面下から上にヘラケズリ	〃
〃 -99	〃	〃		13.4			チャートの粗粒砂を多く含む	内面黒褐色、外面にぶい橙色	外面タテハケ	〃
〃 -100	〃	〃	(5.6)	19.6			チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面黄褐色、外面にぶい褐色断面暗オリーブ灰	口唇ナデ面取り、外面タテハケ、内面ヨコハケ	〃
〃 -101	〃	〃	(8.0)	15.6			チャート、風化礫の粗粒を多く含む	内面オリーブ黒、外面暗褐色	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面指頭圧痕顕著、内面、断面に接合痕を認める	
〃 -102	〃	〃	19.9	13.3		4.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面黒褐色、外面にぶい褐色	外面タテハケ、内面ナデ	外面上胴部以外全面煤け赤変
〃 -103	〃	〃	(17.5)			4.6	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面にぶい橙色、外面にぶい褐色	外面タテハケ、内面指ナデ	外面煤け
〃 -104	〃	甕	(15.0)			4.7	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面灰、外面にぶい橙、断面灰	外面タテハケ、内面ナデ、胴部~底部に大きな黒斑	〃

表5 I区 遺物観察表5

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig21-105	SD3埋土	甕			17.2		チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -106	〃	〃	(22.9)		16.8	6.1	〃	内面にぶい橙、外面にぶい黄橙、断面黄灰	内外面器表の荒れが激しい	外面被熱赤変ススケ
〃 -107	〃	〃	23.8	14.8		5.9	〃	内面灰黄褐色、外面にぶい黄褐色	口唇面取り、外面タテハケ、口縁内面ヨコハケ、胴部内面ナデ、外底ハケ	全面煤け赤変
〃 -108	〃	〃	25.5	15.2		5.2	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	内面黄橙、外面橙色、断面橙色	口唇面取り、内外面器表剥離が激しい	
〃 -109	〃	〃	24.6	12.3		6.9	チャートの粗粒砂を多く含む	内面黄灰、外面にぶい黄橙	口唇は尖り気味、内面ナデ、外面器表剥離	
〃 -110	〃	〃	24.6	14.7		6.3	〃	内面黄灰、外面にぶい黄橙、断面黄灰	口唇面取り、口縁内面右下がり外面タテハケ、内面右下がり全面ハケ	全外面激しい煤け
〃 -111	SD3床	〃	27.6	15.4		5.2	チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい褐色、外面にぶい橙色	口唇面取り、外面タテ、内面右下がりハケ、頸部内面指頭圧痕あり	外面全面煤け一部赤変
〃 -112	SD3埋土	〃	31.0	15.5		4.6	チャート、他の粗細粒砂を多く含む	内外面茶褐色	叩き成形、口縁外面タテ、内面ヨコ方向ハケ、胴部外面タテ、内面ヨコ方向ハケ	外面煤け赤変
〃 -113	〃	底部	(3.7)			6.3	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面橙、断面灰色	外面タテハケ、内面ナデ	外面被熱赤変
〃 -114	〃	甕	(5.8)			4.7	〃	内面にぶい黄、外面暗灰黄	外面タテ、内面右下がりハケ、外底全面下胴部に大きな黒斑あり	
〃 -115	〃	〃	(7.15)			3.45	〃	内面黄灰、外面浅黄、断面黄灰	外底付近黒斑あり、外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -116	〃	〃	(8.1)			5.4	〃	内面オリーブ黒、断面橙色	外面タテハケ、内面ナデ、下胴部外面～底部に大きな黒斑	
Fig22-117	〃	〃	(9.7)	25.4			〃	内面灰、外面にぶい黄褐色	口唇と口縁内面強いヨコナデ、肩部列点文(ハケ状原体)口縁内面ヨコハケ、他はナデ	
〃 -118	SD3床	〃	(11.3)			4.65	チャート、風化礫の粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面にぶい黄橙、断面灰	外面タテハケ、内面ナデ、外面に大きな黒斑あり	
〃 -119	SD3埋土	〃	(18.0)	20.1			チャートの細粗粒砂多い	内面黄灰、外面灰黄、断面にぶい黄	口縁端部は肥厚、口唇面取り、外面タテ方向を基調とするハケ、口縁内面、胴部内面ヨコハケ、内面に粘土帯接合痕跡を認める	外面煤け
〃 -120	〃	〃	44.0	28.0		7.5	チャートの細粗粒砂を含む	内面灰黄褐色、外面にぶい黄褐色、断面灰	口縁部内外ヨコナデ、外面に指頭圧痕、胴部外面右下がりタテ、内面ヨコハケ、内面の一部に黒色物付着	
〃 -121	〃	鉢	5.5	12.7		4.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい橙、外面にぶい黄褐色、断面橙	外面タテハケ、内面ナデ、外面～底部に大きな黒斑あり	
〃 -122	〃	〃	(3.95)			4.0	〃	内面にぶい橙、外面にぶい黄橙、断面灰	外面タテハケ、内面タテヘラミガキ	
〃 -123	〃	〃	9.5	16.8		5.7	〃	内面にぶい褐色、外面にぶい橙	外面タテ内面ヨコ方向ハケ、下胴～外底と、胴部内面に黒斑	
〃 -124	〃	〃	7.0	19.6		5.0	〃	内面にぶい橙、外面にぶい黄橙、断面灰	外面2.5cm幅貼付口縁、体部外面タテハケ、上底状の高台を有し外面指頭圧痕顕著、口縁～底部にかけて大きな黒斑あり	外面煤け一部被熱赤変
〃 -125	〃	〃	(6.0)	22.0			チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙、外面にぶい橙、断面灰	外面右下がりハケ、内面ナデ、外面粘土紐の接合痕を認める、外面に大きな黒斑	
〃 -126	〃	〃		22.6			チャート、他の粗粒砂多い	内面にぶい黄褐色、断面灰	内外面器表の荒れが激しい	

表6 I区 遺物観察表 6

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig22-127	SD3埋土	底部	(8.6)			6.7	チャート、風化礫の粗粒砂を多く含む	内面灰オリーブ、外面橙、断面にぶい橙色	内外面器表の荒れが激しい	
Fig23-128	〃	脚?	(6.7)				チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい橙、断面黄灰	外面タテヘラミガキ	
〃 -129	SD3床	壺					チャート他の粗粒砂多い	内外面橙色	外面タテヘラミガキ、胴部内面指ナデ	
〃 -130	SD3埋土	高坏	19.2	27.3		19.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内面黄灰、外面黄褐色	坏部外面タテ、内面ヨコ方向ハケ脚部内外面ヨコナデ、器表の荒れが激しい	
〃 -131	〃	脚	(1.7)			2.0	チャートを含まない長石、石英細粒	内外面橙色、断面橙	端面取り、内外面丁寧なナデ	
Fig24-133	SD4埋土	土師器坏	(1.1)			6.3	精選された胎土	内面橙、外面にぶい橙	ヘラ切り、円盤状高台	
〃 -134	〃	土師器椀	(1.8)			5.9	チャート、他の粗粒砂を含む	内面淡黄色、外面浅黄橙	貼付高台	調整不明
〃 -135	〃	須恵器坏	(3.1)	13.0			精選された胎土	内外面灰白	内外面丁寧なヨコナデ	
Fig27-136	土器集中	壺	(5.2)	9.2			長石、赤色風化礫を含む	内外面橙色	内外ヨコナデ	
〃 -137	〃	〃	(5.05)	14.3			チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙色、外面にぶい橙、断面灰	外面タテハケ、口縁内外強いヨコハケ	
〃 -138	〃	〃	(3.0)	20.6			チャート、風化礫を多く含む	内面にぶい黄橙、外面にぶい橙	内外ヨコナデ、口縁端部つまみ上げヨコナデ	
〃 -139	〃	〃	(7.4)	22.0			チャート、他の粗粒砂を含む	内外面灰、断面灰色	口縁内面ヨコ、外面縦方向ハケをかくすかに認める、口唇強いナデ調整	
〃 -140	〃	〃	(12.0)	19.4			チャート、他の粗粒砂多い	内外面灰、断面灰	口縁胴部外面タテハケ、頸部幅1.5cmの粘土帯貼付し、あや杉を刻む、内面に接合痕を認める	
〃 -141	〃	〃	32.4	15.4			チャート、赤色風化礫の粗粒をごく少量含む	内面灰黄、外面橙色	叩き成形、口縁内外ナデ、胴部外面上位右下がり、中位ヨコ、下半右上がりのハケ、内面に粘土帯の接合痕跡を認める、幅4~5cm丸底	
〃 -142	〃	甕	(7.2)	14.5			チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰、外面黒、断面黒	外面タテハケ調整、口縁部内面ヨコハケ、上胴部内面指圧痕	
〃 -143	〃	〃	(8.5)	16.0			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	内外面橙色	叩き成形、外面タテハケ、口縁内面ヨコハケ、胴部内面ナデ	外面煤け
〃 -144	〃	〃		15.0			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む		叩き成形、口縁内面右下がりハケ、外面指圧痕、上胴部外面タテハケ、内面もわずかにタテハケを認める	
〃 -145	〃	〃	(9.2)	13.7			〃	内外面にぶい橙色	叩き成形、口縁内面ヨコハケ、胴部内面ナデ	外面煤け
〃 -146	〃	〃	(11.5)	15.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内面暗灰黄、外面にぶい赤褐色	叩き成形、口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ナデ	
〃 -147	〃	〃	(4.6)	21.6			チャートの粗粒砂を含む	内面淡黄、外面灰黄	叩き成形、内面右下がりハケ、外面タテハケ	
〃 -148	〃	〃	(12.7)	13.2			チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙色	叩き成形、内面粘土帯接合部を認める、内面ナデ	
〃 -149	〃	〃	(10.6)	17.2			〃	内面灰白色外面にぶい黄橙色	叩き成形、内外面ナデ	
Fig28-150	〃	〃				4.8	〃	内面灰色、外面にぶい黄橙色	叩き成形、内面ナデ	
〃 -151	〃	底部	(7.5)			5.3	チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	内面淡黄、外面橙色	叩き成形、内面ナデ	外面被熱赤変
〃 -152	〃	鉢	(6.45)			3.1	〃	内面灰白、外面灰黄、断面暗灰	叩き成形、内面ナデ	外面煤け

表7 I区 遺物観察表7

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig28-153	土器集中	甕	(14.2)				チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙、外面にぶい橙色	叩き成形、内外面ハケ、丸底	
〃 -154	〃	〃	14.0	18.0			チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	内面灰白、外面明黄褐色	叩き成形、内面ナデ	外面煤け
〃 -155	〃	鉢	9.2			3.6	〃	内面にぶい黄褐色、外面橙色	内外面器表の荒れが激しい	
〃 -156	〃	甕	(8.7)			3.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰褐色外面灰黄褐色	外面ナデ、内面タテハケ	外面被熱赤変
〃 -157	〃	〃	(9.55)			3.3	〃	内面灰白、外面浅黄、断面黒	叩き成形、内面ナデ、小さい平底、下胴部に大きな黒斑あり	下胴部外面被熱赤変
〃 -158	〃	〃				3.0	チャート他の粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面にぶい橙色	叩き成形、外面下部タテハケ、内面右下がりハケ	
〃 -159	〃	鉢	2.1	4.5		2.0	チャート他の粗粒砂を含む	内外面にぶい黄褐色	手づくね、内面に大きな黒斑あり	
〃 -160	〃	〃	5.1				チャート、赤色風化礫を多く含む	内外面橙色	内外器表の荒れが激しい丸底	
〃 -161	〃	〃	4.8	11.9			チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	〃	内外器表剥離	
〃 -162	〃	〃	(6.0)	20.0			チャートの粗粒を多く含む	内面橙、外面オリーブ黒	口縁内外、口唇強いヨコハケ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	
〃 -163	〃	〃	8.0			4.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面橙色	外面ナデ、内面タテハケ	
〃 -164	〃	〃	7.5	15.6		3.2	〃	〃	内外ナデ、小さい平底	
〃 -165	〃	〃	(6.5)	20.0			〃	〃		
〃 -166	〃	〃		28.8			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	内面褐色、外面にぶい褐色	口唇面取り、内外器表の荒れが激しい	
〃 -167	〃	〃	7.4	17.2			チャート、赤色風化礫の小礫を含む	内外面橙色断面橙色	内外面ナデ	
〃 -168	〃	高坏	(2.0)				精選された胎土(石英、長石他)	内外面橙色	細い原体によるヘラミガキ、径7mm円孔あり	搬入品
〃 -169	〃	〃	(4.2)				石英、長石	内外面橙色	坏内面中央に脚部の上端が見える、脚内面上端に爪圧痕と刺突帯あり、内面細いヘラミガキ、168と同一個体と考えられる、分割成形	〃
〃 -170	〃	高坏下半	(4.9)			11.1	チャートの粗粒を含む	内面にぶい橙色、外面橙	外面ナデ、内面ヨコハケ、分割成形	
〃 -171	〃	高坏	(3.2)				赤色風化礫の粗粒砂を含む	内外面橙色	調整不明	
Fig29-172	〃	〃	(6.6)				チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい橙色	内外ヨコナデ	
〃 -173	〃	〃	(6.6)			8.6			叩き成形、脚部内面下半ヨコナデ	
〃 -174	〃	高坏	(6.8)				チャートの粗粒を含む	内外面浅黄褐色	接合部から坏部剥離	
〃 -175	〃	支脚	(13.0)			8.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面浅黄褐色	叩き成形、内面指頭によるナデ	
〃 -176	〃	〃	(3.7)			8.8	チャートの粗粒を多く含む	内面にぶい黄橙、外面橙色、断面オリーブ黒	内外面ナデ	
〃 -177	〃	器台	5.3				チャート、風化礫の粗粒砂多く含む	内面にぶい黄橙、外面橙断面黒	上面が凹み、径1cm程の円孔あり	

表8 I区 遺物観察表 8

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig29-178	土器集中	器台	6.6			7.5	チャートの粗粒砂を含む	内外面浅黄橙、断面橙	上、下面共に凹む、外面指圧痕あり、傾斜している	
〃 -179	〃	鉢底	(4.4)			1.2	チャート、他の細粒砂を含む	内外面にぶい黄橙	叩き成形、内面ナデ	
〃 -180	〃	甌	(6.3)			4.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙、断面黄灰	外面ナデ、内面右下りハケ焼成前穿孔(径0.9cm)	
〃 -181	〃	壺?	(3.7)			7.6	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内外面橙色	叩き成形、内面ナデ	
〃 -182	〃	底部				8.6	チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい褐色、外面にぶい黄橙	叩き成形、内外面ナデ、外底付近に大きな黒斑あり	
〃 -183	〃	〃	(6.5)			4.5		内外面にぶい黄橙色	内外面タテハケ+ナデ	
〃 -184	〃		(5.4)			1.8	チャートの粗粒砂、赤色風化礫粗粒砂多い	内外面にぶい黄褐色	内外面ナデ	
〃 -185	〃	壺	(10.0)			6.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰オリーブ、外面橙色	叩き成形、内面ハケ、外面ナデ外面下部、下→上のヘラ削り、底部付近黒斑	
Fig30-192	〃	〃	(3.0)	21.8			精選された胎土	内外面にぶい橙色	口唇はヨコナデにより凹状を呈しわずかに下方につまみ出す、内外面ヘラミガキ	
〃 -193	包含層	広口壺	(6.75)	18.1			チャートの粗粒砂を多く含む	内外面橙色断面灰	内面ヨコ、外面タテ方向ハケ	
〃 -194	〃	壺	(5.2)	21.4			〃	内外面橙色	口唇は強いヨコナデによりわずかに凹状を呈す、内面ヨコ、外面タテハケ、接合部から剥離	
〃 -195	〃	広口壺	(4.5)	29.3			〃	〃	口唇部はヨコナデにより凹状を呈する、内外面ヨコナデ	
〃 -196	〃	壺		23.4			チャート、風化礫の粗粒砂多く含む	内外面にぶい橙色	口唇刻み目、外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -197	〃	〃	(27.0)			5.0	赤色風化礫の粗粒を含む	内面にぶい黄、外面橙色	内面ナデ、外面ハケ	内外面煤け
〃 -198	〃	底部	(13.6)			8.6	チャートの粗粒少ない、細粒砂を多く含む	内面黒褐色外面にぶい橙色	内面右下がりハケ+指ナデ外面タテハケ	
〃 -199	〃	甕	(9.7)	14.0			チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙、外面橙、断面灰色	叩き成形、口縁端部上、下に摘み出し、口唇はヨコナデにより凹状、口縁部内外面ヨコナデ胴外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -200	〃	〃	(18.5)			3.75	〃	内面にぶい黄、外面にぶい橙、断面灰	叩き成形、外面タテハケ、内面ナデ	外面煤け、一部赤変
〃 -201	〃	〃	27.5	16.4		5.2	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙、断面にぶい黄橙	叩き成形、内面下部指頭圧痕、外底黒斑あり、口唇は丸く納める	
Fig31-202	〃	〃	(3.7)	18.0			〃	内外面にぶい橙、断面橙	外面タテ、内面右下がりハケ	
〃 -203	〃	〃	(3.4)	19.4			雲母、石英、角閃石を含む	内外面茶褐色	口縁端部摘み出し、口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面右上がり叩き内面削り	
〃 -204	〃	〃	(4.8)	23.6			チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙、外面にぶい橙、断面黄灰	叩き成形、外面タテハケ+ナデ、内面ヨコナデ	
〃 -205	〃	〃	(6.3)	12.7			チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙、外面橙断面灰	叩き成形、口唇は丸く納める	
〃 -206	土器集中	〃	(10.2)	20.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内面暗灰黄外面橙	口唇ヨコナデ、外面タテハケ、内面口頸部ヨコ、胴部タテハケ	
〃 -207	包含層	〃	(13.3)			5.0	〃	内面黄灰、外面にぶい黄橙色	叩き成形、外面タテハケ、内面右下がりハケ	

表9 I区 遺物観察表9

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig31-208	包含層	甕	14.6	12.2		3.3	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む	内外面にぶい黄橙、断面黄橙	叩き成形、口縁接合部で剥離、器表の荒れが激しい、外底付近に大きな黒斑あり	
〃 -209	土器集中	〃	(11.7)			2.0	チャートの小礫粗粒砂を多く含む	内面橙色	叩き成形、器表の剥離が激しい	
〃 -210	包含層	〃	(9.4)				チャートの粗粒砂を多く含む	内外面橙色断面オリブ黒	叩き成形、内外面ナデ	外面被熱赤変
〃 -211	〃	鉢	(7.05)			3.4	チャート、風化礫の粗粒、小礫を多く含む	内面オリブ黒、外面明黄褐色、断面灰	叩き成形、内外面ナデ	
〃 -212	〃	甕	(9.6)			3.2	チャートの粗粒砂を多く含む		椀状の底部をつくり、その上に粘土帯を接合している、叩きは椀状部にはほとんどない、椀状底部内面指頭圧痕顕著、胴部外面に大きな黒斑あり、内外面タテハケ	
〃 -213	〃	〃	(19.0)			2.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む	内面浅黄、外面浅黄橙	叩き成形	外面被熱赤変煤け
〃 -214	土器集中	〃	(9.7)			3.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄褐色、外面橙色	叩き成形、外面タテハケ、内面指ナデ、下半指頭圧痕顕著	
Fig30-215	包含層	鉢	(5.2)	15.0			長石他の細粒砂を含む		内面ヨコハケ、外面ナデ、口唇丸く納める	
〃 -216	土器集中	〃	(8.65)	24.4		3.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面淡黄、外面灰黄	内面丁寧なヘラミガキ、外面ナデ、下半に指圧痕による凹凸あり、外面に大きな黒斑あり	
〃 -217	包含層	壺?	(7.3)			1.0	〃	内面黒色、外面黄橙色	内外面ナデ調整、外面底部付近指頭圧痕顕著	
〃 -218	〃	鉢	10.8	16.5			〃	内外面橙色、断面灰色	叩き成形、口唇面取り、焼成時のひずみあり、外面大きな黒斑あり、高熱により一部海メン状を呈す	
Fig32-219	〃	甕	(2.15)			4.2	チャートの粗粒砂を含む	内面灰、外面オリブ黒、断面オリブ黒	叩き成形、内外面ナデ	
〃 -220	〃	底部	(4.0)			3.4	チャートの粗粒砂を多く含む		内外面ナデ	外面と内面下胴部煤け
〃 -221	〃	鉢	(7.8)			2.8	チャートの粗粒砂を含む	内面黄橙色、外面にぶい黄褐色	外面ナデ、内面右下がりハケ、内底にシボリ目、外面に大きな黒斑あり	
〃 -222	〃	器台	8.15			8.6	チャートの粗粒砂を多く含む	内面浅黄、外面にぶい黄橙	上面は皿状にくぼむ、中央部に径1.5cmの孔があき、裾で5cm余りに拡大する	
〃 -223	〃	支脚	18.1			8.5	チャートの粗粒砂を多く含む		叩き成形、正面の鼻状突起なし	
〃 -224	〃	〃	15.9			8.6	チャート他の粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙	叩き成形、内面指ナデ、正面の鼻状突起1.8cm	角状突起欠損

表10 I区 石器観察表 1

図版番号	出土地点	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	石質	色調	特徴	備考
Fig11-25	ST2埋土	敲石	11.96	9.53	3.97	624	石英粗面石		片方主面中央縁部の一部に叩き痕あり	
〃 -26	ST3埋土	〃	10.3	8.9	4.8	545	〃		両主面中央部に叩き痕あり	
Fig15-64	ST4壁溝	〃	10.9	9.5	3.0	450	〃			特に使用痕なし
〃 -65	〃	〃	10.4	9.9	3.45	540	〃			〃
Fig15-66	ST4のP1とP3接合	〃	12.3	8.9	3.0	495	〃		両主面中央部に叩き痕あり	
〃 -67	ST4埋土		43.5	25.2	15.3	2500	砂岩		平端平は著しく摩耗している	
〃 -68	〃	軽石	4.4	4.2	1.8	9.2				
〃 -69	〃	石鏃	4.76	2.01	0.64	4.00				
Fig23-132	SD3埋土	敲石	12.4	10.8	4.7	830	石英粗面石		両主面中央部に叩打痕あり	
Fig29-186	土器集中	〃	15.6	9.8	4.1	872	〃		先端部に使用痕あり	
〃 -187	〃	〃	11.8	10.3	4.7	900	砂岩、河原石			
〃 -188	〃	〃	12.35	8.38	4.13	626	〃			
〃 -189	〃	〃	12.75	6.85	2.5	332	〃		一方の先端に叩打痕あり	
〃 -190	〃	〃	11.45	8.6	4.3	520	石英粗面石			
〃 -191	〃	〃	10.2	6.3	4.1	340	砂岩、河原石			
Fig32-225	包含層	〃	7.2	5.1	0.9	43.0	結晶変岩			

表11 II区 遺物観察表 1

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig34-226	ST1床	壺	(5.4)	15.7			チャート他の粗粒砂を多く含む	内面にぶい橙色、外面橙	口唇はわずかに凹状をなし棒状原体で刺突、外面ヨコ方向のナデ、内面ナデ	
〃 -227	ST1埋土	〃	(6.6)	17.8			チャートの粗粒、小礫を含む	内外面にぶい橙色	内外面ハケ状原体による圧痕が多く残る、内面ヨコハケ+ヨコナデ、外面ナデ、口唇凹状	
〃 -228	ST1床	〃	(10.8)	17.4			チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面灰色、外面灰褐色	口縁端部下方に摘み出して、強いヨコナデ、内面ヨコハケ外面ナデ	
〃 -229	〃	〃	(3.6)	20.8			チャート風化礫、他の粗粒を含む	内面黄褐色、外面橙色	口唇棒状工具による刺突文、内外ナデ	
〃 -230	ST1埋土	〃	(6.7)				チャート、風化礫を含む	内面暗灰黄外面灰、断面灰色	外面タテ、内面ヨコハケ	
〃 -231	〃	底部	(4.0)			6.0	長石、他の粗粒砂を含む	内面灰黄、外面明黄褐色、断面黄灰	内外ナデ、外底黒斑あり	
〃 -232	〃	壺	(3.4)			8.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙、外面にぶい黄橙、断面オリーブ黒	外面ハケ、内面ナデ	
〃 -233	〃	〃	(3.05)			5.5	チャート、他の細粒砂を多く含む	内外面橙色断面黄灰	内外器面剥離	
〃 -234	〃	〃	(6.2)	11.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい橙色	器面剥離	
Fig34-235	〃	甕	(4.6)	8.0				内面灰褐色外面橙色	口縁内外ヨコハケ、頸部列点文、胴部外面ナデ、内面ヨコハケ	
〃 -236	〃	〃	(4.2)	11.8			チャート、他の粗粒砂を含む	内面黄褐色外面にぶい黄橙色	口縁外面1.5cm幅粘土帯貼付、指頭圧痕、内外面ヨコナデ	

表12 II区 遺物観察表 2

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig34-237	ST1埋土	甕	(4.2)	12.0			細粒砂を含む	内外面橙色、断面橙色	内外器表剥離	
〃 -238	〃	〃	(6.0)	16.0			チャート、他の細粒砂を含む	内面にぶい橙、外面にぶい黄橙、断面黄灰	口唇面取り、口縁内外ヨコナデ、端部上につまみ上げ胴部外面タテハケ、内面指頭圧痕顕著	
〃 -239	ST1サブトレ	〃	(2.6)	14.2			チャート、他の細粒砂を含む	内面にぶい黄橙色	口唇に1条の細い沈線内面ヨコ、外面タテ方向のハケ	
〃 -240	ST1埋土	〃	(4.5)	13.2			チャート、他の細粒砂を多く含む	内面にぶい黄色、外面暗灰黄	口縁内外面ヨコナデ、口唇面取り	
〃 -241	〃	〃	(9.4)	13.4			チャートの粗粒砂を多く含む	内面黒灰色、外面にぶい橙色	口唇面取り、口頸部外面木目の荒い原体のヨコハケ胴部外面右下がりハケ(同原体)内面ナデ	外面煤け
〃 -242	〃	〃	(3.25)	16.4			〃	内外面灰色、断面灰色	外面タテ、内面ヨコ方向ハケ	〃
〃 -243	〃	〃	(2.9)	19.2			チャートの粗粒砂を含む	内面にぶい橙色、外面赤褐色	口唇面取り、外面タテハケ	
〃 -244	〃	〃	(6.2)	12.2			長石の細粒を少し含む	内外面橙色	内外面器表全面剥離、284と同じ胎土	搬入品?
〃 -245	〃	〃	(6.45)	17.8			チャートの粗粒砂を含む	内面にぶい黄橙、外面暗灰、断面灰	口縁外面20cm幅の粘土帯貼付+指頭圧痕、頸胴部内外面も指頭圧痕顕著、頸胴部内外面タテハケ	
〃 -246	〃	〃	(6.3)	20.0			チャート、他の粗粒を多く含む	内面褐色、外面にぶい橙色	口縁外面2cm幅の粘土帯、口唇刻み目、肩部にも同様の原体による列点文、頸部外面タテハケ	外面煤け
Fig35-247	〃	〃	(7.5)	19.0			チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰、外面にぶい黄橙、断面灰オリーブ	口唇面取り、肩、ハケ原体による列点文、内面ヨコ、外面タテハケ	〃
〃 -248	〃	〃	(6.2)	18.9			チャート、他の粗粒砂を含む	内面にぶい黄橙、外面橙、断面灰色	口縁端部上方につまみ上げヨコナデ、胴部外面タテハケ頸部内面ヨコ、右下がりハケ上胴部内面ナデ	
〃 -249	〃	〃	(14.9)	15.0			チャートの粗粒砂を多く含む	内面赤褐色、外面にぶい黄橙色	頸部外面タテハケ、口縁端部ヨコナデ、凹状、胴部内外面ナデ	外面煤け一部赤変
〃 -250	〃	〃	(19.8)	15.5			〃	内外面にぶい橙色	口縁内面ヨコナデ、胴内面指ナデ、頸部外面タテ、胴部外面右下がりハケ、調整なるも器表の剥離が激しい、口唇面取り、内面に接合痕あり	胴外面煤け
〃 -251	〃	〃	(5.1)	20.1			〃	内面灰色、外面にぶい黄褐色	口縁内外面ヨコハケ+ヨコナデ	
〃 -252	〃	〃	(8.8)				風化礫の粗粒砂を多く含む	内面にぶい橙、外面橙	胴部外面タテハケ、肩にハケ状原体による列点文、上胴部に大きな黒斑あり	外面煤け
〃 -253	〃	〃	(3.5)	24.4			チャートの粗粒、小礫を多く含む	内面暗灰黄、外面黄褐色	口縁外面2cm幅の粘土帯貼付、口唇Lの刻み、内外面ナデ	
〃 -254	ST1埋土	〃	(7.2)	23.2			チャートの粗粒砂を多く含む	内面褐色外面赤橙色	口縁内外、口唇ヨコナデ、胴部内外面器表剥離	
〃 -255	〃	〃	(3.9)	26.4			〃	内面にぶい黄橙、外面にぶい橙色	内外ナデ、口唇は凹状を呈する	
〃 -256	〃	〃	(3.0)	27.6			チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面灰色、外面にぶい橙、断面灰オリーブ	口縁外面2cm幅の粘土帯貼付、内外面ヨコナデ	
〃 -257	〃	〃	(4.2)	27.0			チャートの小礫、粗粒砂を多く含む	内面黄褐色、外面褐色	内面ヨコハケ、外面ナデ	外面煤け
〃 -258	〃	〃	(14.5)	25.6			チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙色、外面浅黄色	外面器表の剥離が激しい内面指頭圧痕顕著、外面タテハケ、内面右下がりのハケをわずかに認める	

表13 II区 遺物観察表 3

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig35-259	ST1埋土	甕	(7.65)	31.2			チャートの粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面橙色、断面灰色	口縁は凹状、口縁内外面ヨコナデ、胴部内外面器表剥離	
〃 -260	〃	〃	(21.8)	28.0			〃	内面にぶい橙、外面褐色灰	口唇面取り、外面タテハケを基調、口縁部内面ヨコハケ、上胴部内面左←右の削り+ヨコナデ、内面中位以下ヨコ及び右下がりがりハケ、胴部外面に大きな黒斑	
〃 -261	〃	〃	(3.8)	41.8			細粒砂を多く含む	内外面にぶい黄褐色	口唇、口縁内外ヨコナデ	
Fig36-262	〃	〃	(16.1)	29.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい黄色、外面黄灰色	口唇面取り、口縁外面指頭圧痕、胴部外面タテハケ、内面ナデ	外面煤け
〃 -263	〃	〃	(4.7)			4.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰、外面にぶい黄橙、断面灰	叩き成形、内面ナデ、外底の一部に黒斑あり	
〃 -264	〃	〃	(3.2)			7.8	チャート小礫粗粒砂を多く含む	内面黒灰、外面茶褐色	外面タテハケ、内面ナデ、上底、底部著しく薄い	外面煤け
〃 -265	〃	〃	(5.4)			4.6	チャート、他の風化礫を多く含む	内面赤褐色、外面暗赤灰	内外ナデ	〃
〃 -266	〃	〃	(5.75)			5.6	チャートの粗粒を含む	内面黄灰、外面橙、断面灰	外面タテハケ、内面タテ指頭によるナデ	外面被熱
〃 -267	〃	〃	(5.9)			8.6	チャートの粗粒砂細粒砂を多く含む	内外面にぶい橙色	外面タテ、内面ナデ	外面煤け
〃 -268	〃	〃	(7.3)			5.6	細粒砂を含む	内面灰黄、外面にぶい黄褐色、断面黄灰	叩き成形、水平～右下がりがり	〃
〃 -269	〃	〃	(12.8)			3.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面にぶい橙色、外面にぶい赤褐色	内外器表の荒れが激しい(被熱による剥離か)内面ナデ	〃
〃 -270	〃	〃	(8.4)			5.9	チャートの粗粒砂を多く含む	内面黄灰色外面にぶい黄橙色	外面ハケ、内面ナデ、器表剥離	〃
〃 -271	〃	〃	(4.1)	-		8.0	チャート、他の粗粒、細粒砂を含む	内面灰、外面にぶい黄橙断面灰	外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -272	ST1床	〃	(5.7)			8.0	チャート風化礫を多く含む	内面褐色、外面暗灰黄	外面タテ、内面右下がりがりハケ	外面煤け
〃 -273	ST1埋土	底部	(3.1)			1.6	チャートの粗粒砂を多く含む	内面橙色、外面にぶい黄橙色	内外面器表剥離、内面棒状工具による刺突圧痕あり、外底付近に小さな黒斑あり	
Fig36-274	〃	壺	(4.2)			4.8	細粒を多く含む	内面灰色、外面にぶい橙色	内外器表剥離	
〃 -275	〃	底部	(4.7)			5.6	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面黄褐色	内外ナデ	外面煤け
〃 -276	〃	〃	(4.7)			6.0	チャート、他の細粒砂を含む	内面褐色灰、外面橙色	外面に僅かに叩き痕を認める、外底に黒斑あり	
〃 -277	〃	鉢	(2.3)	9.0			チャート、他の粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙色	内外面ナデ	
〃 -278	〃	坏部底	(2.1)			3.8	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面灰白、外面にぶい黄橙色	内外面ヘラミガキ	
〃 -279	〃	坏部	(4.9)				細粒砂を多く含む	内外面にぶい橙色、断面灰色	押し入れ部から剥離	
〃 -280	〃	高环脚	(4.8)				チャートの粗粒砂を含む	内面浅黄橙、外面にぶい橙色	脚上端に2条の沈線、外面タテヘラミガキ、内面に爪圧痕あり	
〃 -281	〃	〃	(6.2)				細粒を多く含む	内外面橙色	内外面器表剥離	
〃 -282	〃	高环	(7.4)				チャートの粗粒砂を多く含む	内外面橙色、断面灰オリーブ	内面シボリ目、外面ナデ	
〃 -283	〃	〃	(7.4)				チャート、砂粒少量	内外面黄白色	外面ナデ、内面シボリ目あり、坏接合部で剥離、脚天井部に径1.5mmの小孔あり	

表14 II区 遺物観察表 4

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig36-284	ST1埋土	高坏	(4.6)	28.8			長石の細粒砂を含む	内外にぶい黄 橙色		搬入品?
〃 -285	〃	脚?	(5.0)			10.6	チャートの粗粒 砂を多く含む	内面にぶい黄 橙、外面にぶ い黄褐色	外面ナデ、内面ヨコハケ	外面煤け
〃 -286	〃	高坏 充填部					チャートの粗粒 を含む	内面にぶい橙、 外面橙		
〃 -287	〃	高坏 脚	(3.2)			15.6	細粒砂を多く含 む	内外面にぶい 黄橙	端部は丸く納める、器表剥離、径1 cmの円孔	
〃 -288	〃	〃	(4.6)			18.0	チャート風化礫 を多く含む		外面タテハケ+ヘラミガキ、内面ナ デ、径1cm程の円孔	
〃 -289	〃	高坏	(12.0)	24.0			チャート、長石 の細粗粒砂を含 む	内外面橙色	脚を坏に押し込め、内面ヨコハケ、 脚部外面タテハケ、櫛描直線文、 内面シボリ目、天井に径3mmの小 孔裾の円孔は1.2cm	
Fig39-299	SK1埋土	甕	(2.6)	16.0			チャートの粗粒 砂を含む	内外面オリー ブ黒	外面タテ、内面ヨコハケ、口唇面取 り	外面煤け
〃 -300	SK9	底部	(2.0)			5.8	チャートの粗粒 砂を多く含む	内面灰色外面 にぶい褐色	内外ナデ	
〃 -301	〃	高坏	(5.4)	22.4			チャート、風化 礫を多く含む	内面にぶい橙 色、外面橙色	一次口縁と二次口縁の接合部外面に 圧痕あり、内面にも弱い段あり	
〃 -302	SK1埋土	甕				21.4	チャート粗粒、 赤色風化礫を多 く含む	内外面赤褐色	外面肩部に刺突文、以下タテハケ、 内面ナデ、上胴部内面指頭圧痕顕著	
〃 -303	〃	壺	(4.9)			5.8	チャート、風化 礫を多く含む	内面にぶい黄 褐色、外面橙 色	内外器表荒れ、内面に黒斑あり	
〃 -304	SK9	底部	(3.7)			8.0	チャートの粗粒 砂を多く含む	内面黒色、外 面橙色	叩き成形、タテハケ、内面ナデ	

表15 II区 石鏃・石器観察表 1

図版番号	出土地点	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	石質	色調	特徴	備考
Fig37-290	ST1埋土	石鏃	3.45	1.71	0.49	2.7	チャート		凹基	
〃 -291	〃	磨製 石庖丁	6.70	4.10	0.74	28.0	千枚岩		背湾直線刃の石包丁、刃部、背部共 にはげしく叩打	
〃 -292	〃	軽石	4.4	6.7	2.1	19.9			中央部に幅0.8cmの凹あり	
〃 -293	ST1床	石包丁	10.0	5.65	0.8	18.1			両刃風片刃、小番形の平面形、刃皆 共にわずかに湾曲、1cm前後の円 孔両側から穿孔	
〃 -294	ST1埋土	〃	7.75	2.47	1.03	60.2	千枚岩		一孔径1cm両側から穿孔、両刃風 片刃、内外全面研磨、直刃背湾	
〃 -295	〃	叩き石	6.8	9.0	3.85	328	石英粗面岩		一方の側縁に叩き痕ありその部分に 朱(?)附着	
〃 -296	ST1床	磨石	8.96	7.46	2.87	330	〃		特に使用痕を認めず	円礫
〃 -297	ST1埋土	叩き石	10.6	7.48	2.70	300	砂岩		一方の主面中央に使用痕あり	河原石
〃 -298	ST1壁溝	砥石	15.2	7.5	4.9	660	石英粗面岩		使用面一面	

表16 Ⅲ区 遺物観察表 1

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig43-305	SD1埋土	甕	(2.4)	19.7			チャートの小礫を含む		内外ヨコナデ、口唇面取り	
〃 -306	〃	壺	(10.1)	14.7			チャート、赤色風化礫の細粒を多く含む	内面にぶい黄橙、外面橙色断面灰	308と同じ胎土、内外器表剥離	
〃 -307	〃	高坏	(3.5)				チャートの粗粒を含む	内面灰黄、外面にぶい黄橙色	内外ナデ	
〃 -308	〃	〃	(3.1)	29.3			チャート、赤色風化礫の細粒を多く含む	内面明黄褐色、外面橙色断面灰	306と同じ胎土	
〃 -309	〃	〃	(5.8)	25.4			チャート、赤色風化礫の細粒砂を多く含む	内外面にぶい黄褐色、断面灰色	内外器表剥離、僅かにハケを認める、310と同じ胎土	
〃 -310	〃	〃	(3.5)	32.0			チャート、赤色風化礫の細粒を多く含む	内外面橙色	313と同じ胎土、同一個体の可能性あり、外面ヨコハケ+ナデ、内面器表剥離	
〃 -311	〃	高坏脚	(7.15)			18.3	チャート、長石他の細粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙色、断面灰色	内外器表剥離、脚中に径1.5cmの円孔、外面僅かにタテヘラミガキを認める	
〃 -312	〃	高坏	(11.1)				チャート、長石、赤色風化礫、他の細粒を多く含む	内面橙色、外面浅黄橙、断面黄灰色	内外面器表剥離、脚内面指ナデ	
〃 -313	〃	〃	(10.8)				チャート、赤色風化礫他の細粒を多く含む	内外面にぶい黄褐色	317と同じ胎土、坏部内面ハケ、ヘラミガキ、外面ハケ	
〃 -314	〃	壺	(10.0)				細粒砂を多く含む	内外面橙色、断面橙色	内外器表の荒れがはげしい	
〃 -315	SK3埋土	底部	(3.0)			6.6	チャートの小礫、細粒砂を多く含む	内外面にぶい黄褐色	外面タテハケ、内面ナデ	外面被熱赤変
〃 -316	SD1埋土	〃	(4.5)			6.3	チャート、赤色風化礫他の細粒を多く含む	内面灰黄、外面にぶい橙色	320と同じ胎土、器表剥離	外面煤け
〃 -317	〃	壺(底)	(4.3)			5.0	〃	内外面にぶい黄褐色	251と同じ胎土内外面ナデ	
〃 -318	SD2床	甕	(7.4)			3.6	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰黄、外面にぶい褐色	外面タテヘラミガキ、内面下→上へラ削り、	外面煤け
〃 -319	SD1埋土	〃	(10.3)			6.8	チャート、他の細粒砂を多く含む	内面灰黄、外面にぶい橙色	309などと同じ胎土、叩き成形、器表の荒れが激しい	外面煤け一部赤変
〃 -320	〃	底部	(9.3)			5.1	チャート、赤色風化礫の細粒砂を多く含む	内面にぶい黄橙、外面橙色	306と同じ胎土、同一個体では、叩き成形、器表の荒れが激しい	
Fig44-321	土器集中	甕	(5.0)	12.9			チャートの粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面にぶい褐色	口縁外面タテハケ、内面ヨコハケ	外面煤け
〃 -322	〃	〃	(5.2)				〃	内面黒灰色、外面にぶい黄褐色	外面ヨコ～右下がり、内面右下がりのハケ	
〃 -323	〃	〃	(7.1)	17.1			チャート、赤色風化礫の細粒砂を多く含む	内面灰黄、外面橙色	内外ナデ	
〃 -324	〃	〃	(11.0)				0.5mm～4.0mmの砂粒	内外面灰色	叩き成形、外面タテ、ヨコ方向ハケ、内面ナデ	外面煤け
〃 -325	〃	〃	(18.6)	17.0			チャートの粗粒砂を含む	内面褐色灰、外面にぶい橙色	叩き成形、外面右下がりを基調とするハケ、内面指頭圧痕顕著、水平方向ハケ	
〃 -326	〃	〃	(16.0)	29.8			チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰黄、外面にぶい橙色	叩き成形、外面ナデ、内面ハケ+ナデ、断面に接合痕あり	
〃 -327	〃	〃	(7.8)			5.0	〃	内面黄灰色、外面浅黄色断面灰色	外面ハケ、内面ハケ+ナデ	

表17 Ⅲ区 遺物観察表 2

図版番号	出土地点	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	胴径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	特徴	備考
Fig44-328	土器集中	甕	(7.0)			4.8	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰、外面にぶい橙断面灰色	外面タテハケ、内面ナデ	外面煤け
〃 -329	〃	〃	(5.4)			5.0	チャート、他の細粒を多く含む	内面灰、外面灰黄褐色、断面暗灰	叩き成形、外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -330	〃	〃	(13.5)			5.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面灰、外面にぶい黄橙、断面灰色	叩き成形、外面タテハケ、内面指ナデ	
〃 -331	〃	〃	(22.2)			5.4	〃	内面黄灰、外面橙色	叩き成形、外面ハケ、内面上部右下がりハケ、中位指頭圧痕顕著、下位には下→上のへら削りとハケ	
〃 -332	〃	〃	(16.8)			5.6	チャート、他の細粒砂を多く含む		叩き成形、外面タテハケ、内面下半右下がりハケ、上半ナデ	外面被熱赤変
Fig45-333	〃	〃	(27.0)			5.0	チャートの粗粒砂を多く含む	内面オリーブ黒、外面浅黄色	叩き成形、外面上位ヨコ、中位右下がり、下半タテハケ、内面右下がりハケ	
〃 -334	〃	壺	(7.0)			4.0	〃	内面黒褐色、外面にぶい黄橙色	叩き成形、内面ナデ、外面タテハケ、外底に叩き痕あり	
〃 -335	〃	〃	(6.0)			7.4	チャート、他の粗粒砂を多く含む	内面灰色、外面にぶい黄橙、断面オリーブ黒	内外ナデ、外底付近に黒斑あり	一部被熱赤変
〃 -336	〃	底部	(9.2)				チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい橙色	叩き成形、外面タテハケ、内面ナデ	
〃 -337	〃	鉢	(6.75)	21.8			チャートの粗粒を含む	内面オリーブ黒、外面にぶい黄橙、断面灰	口縁下端をつまみ出す、外面ハケ、内面ナデ	
〃 -338	〃	高坏	(2.7)			14.6	チャートの粗粒砂を多く含む	内外面にぶい黄橙	脚端面取り、裾部内外面ハケ	

表18 Ⅲ区 石器観察表 1

図版番号	出土地点	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)	石質	色調	特徴	備考
Fig45-339	土器集中	叩き石	11.2	9.2	2.8	405	石英粗面岩		長側縁の一部に摩耗痕あり	

写真図版



I・II区発掘調査前全景（東より）



I区全体完掘状況（南より）



ST2遺物出土状況



ST3・4完掘状況（東より）



I 区土器集中地点出土状況



同上



I 区土器集中地点出土状况



SD3土器出土状況



同上



Ⅱ区全体完掘状況（西より）



ST1、SK1・2完掘状況（東より）



ST1遺物出土状況



ST1遺物出土状況 (石包丁293)



Ⅲ区発掘調査前（西より）



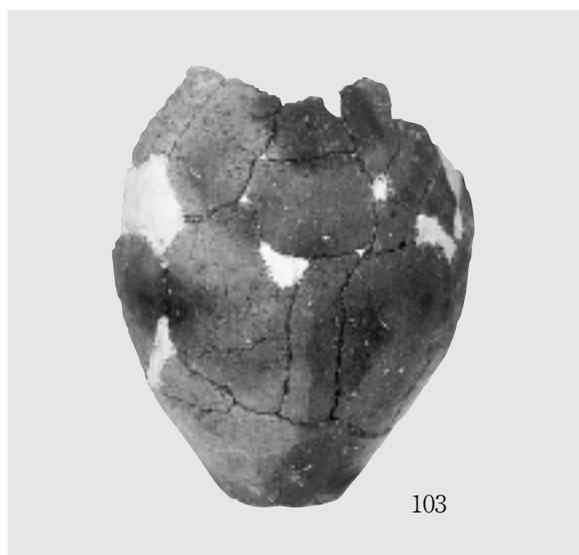
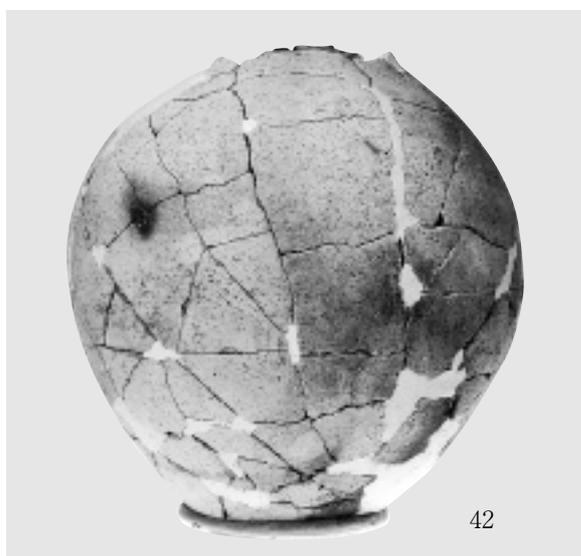
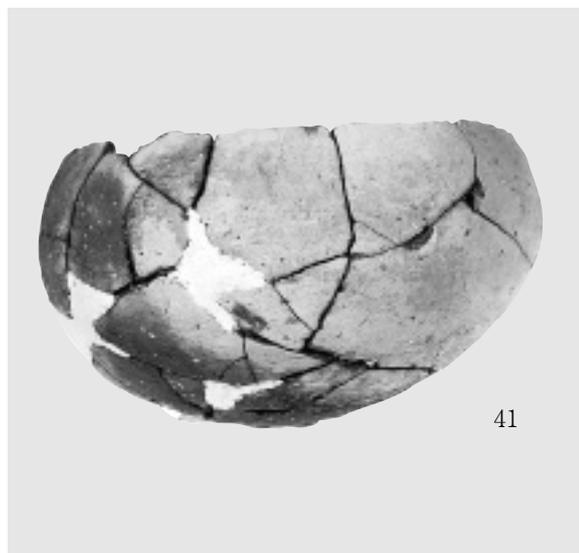
同完掘状況（南より）



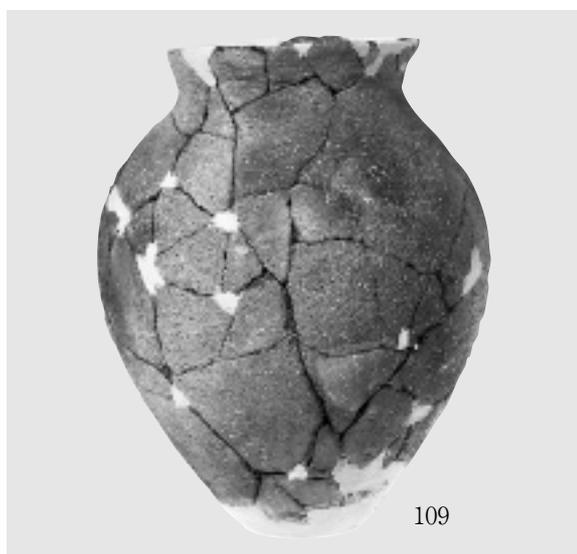
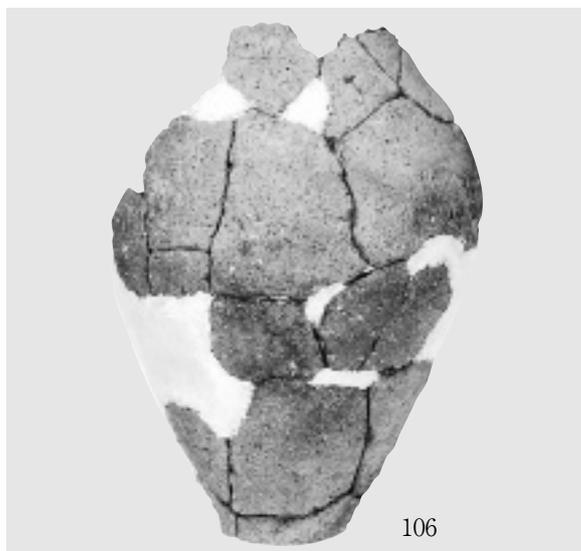
SD1遺物出土状況



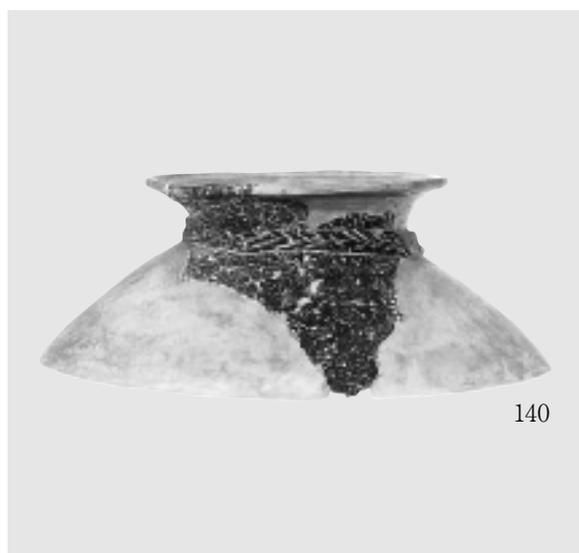
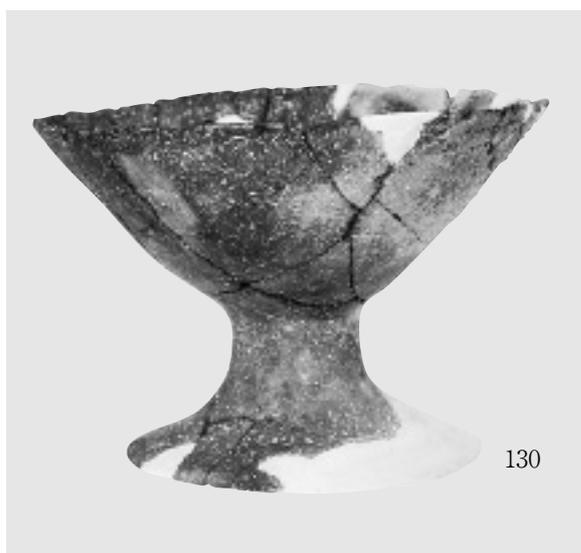
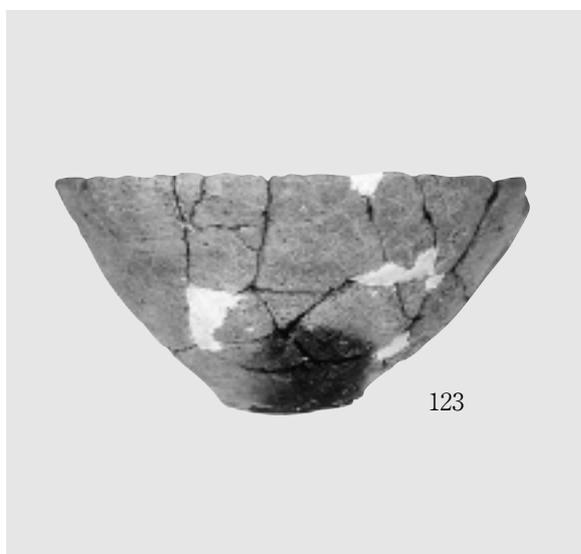
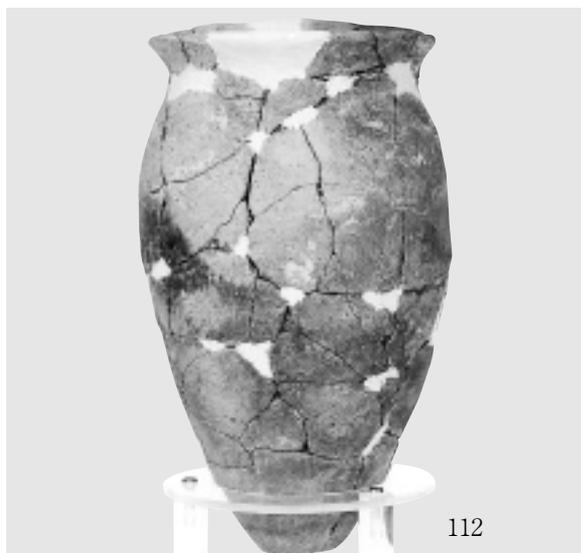
同上



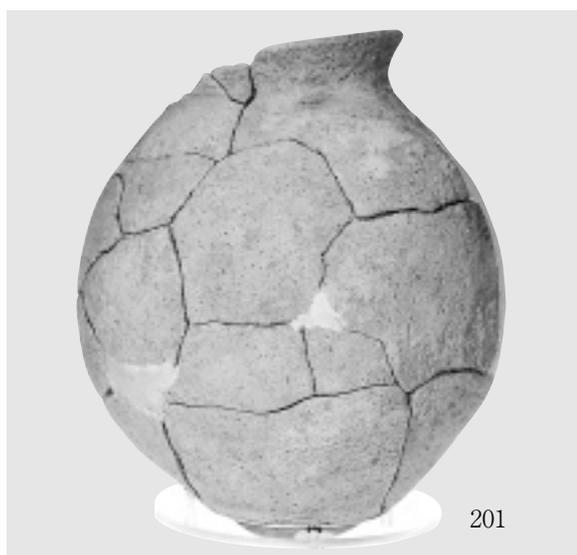
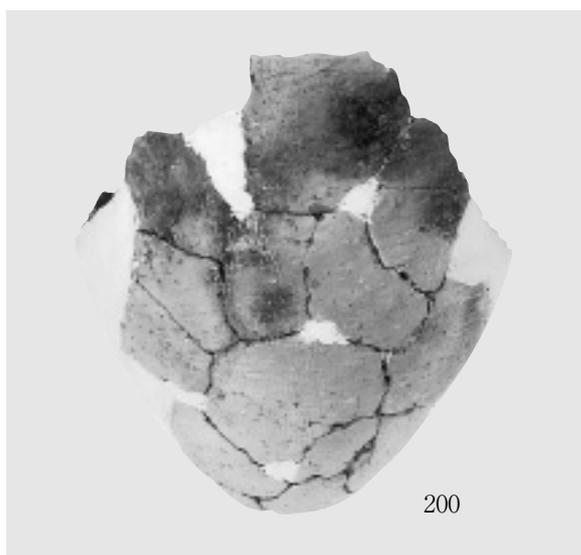
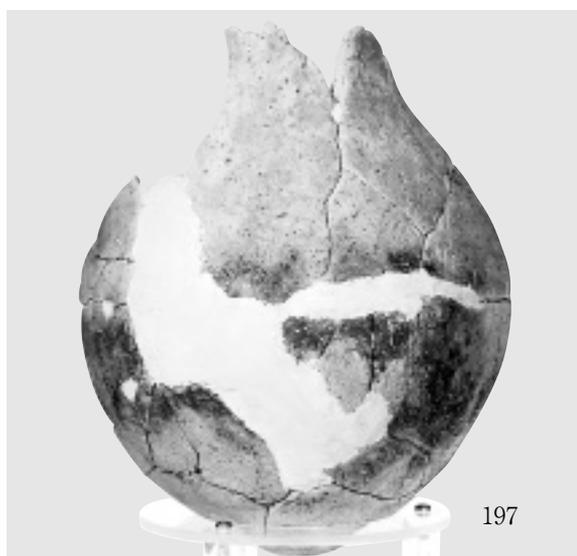
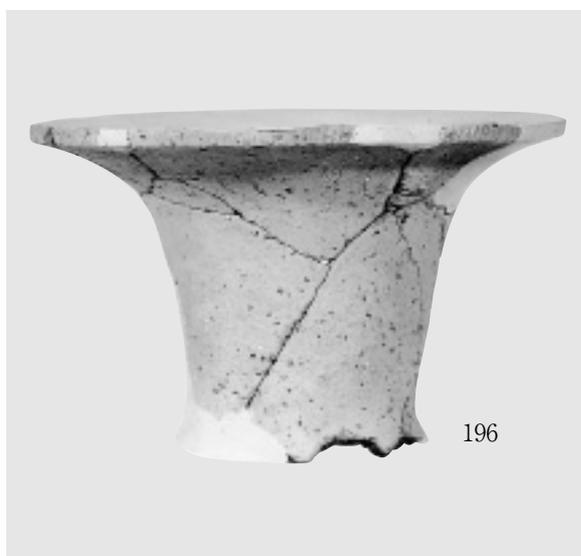
ST2床面(9)、ST4(41·42)、SD3(84·102·103)出土土器



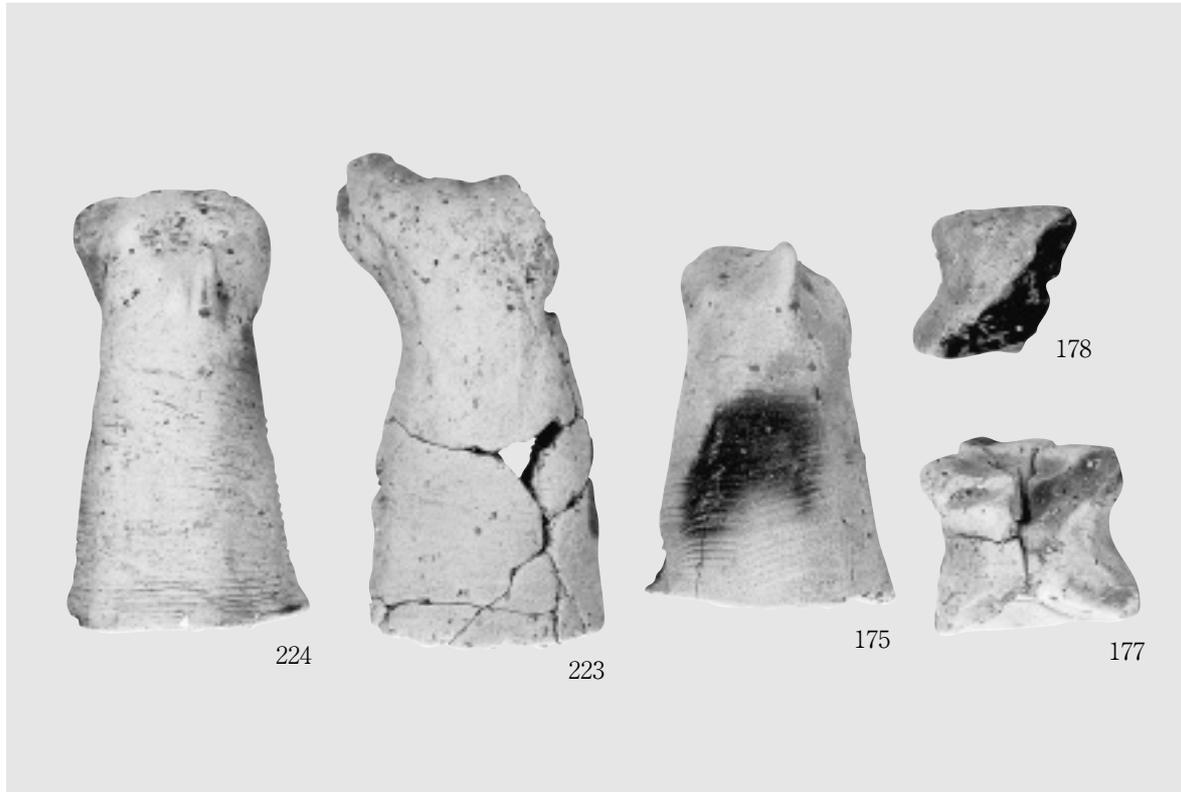
SD3出土土器



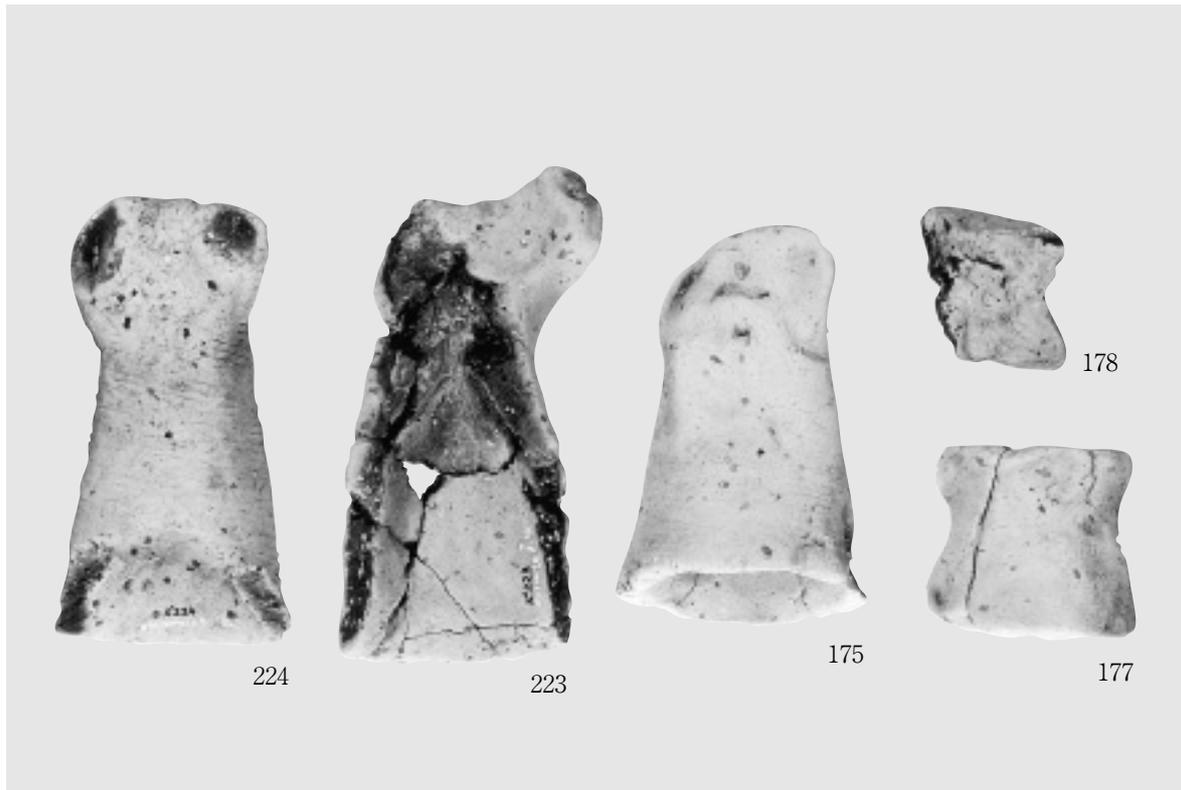
SD3(112·120·123·129·130)、I区土器集中地点(140)出土土器



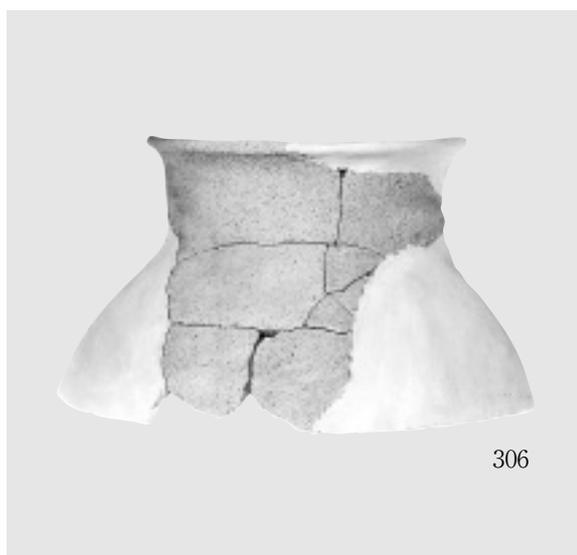
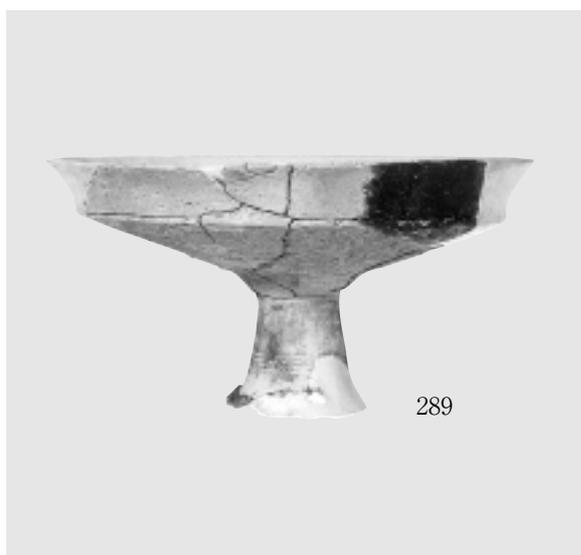
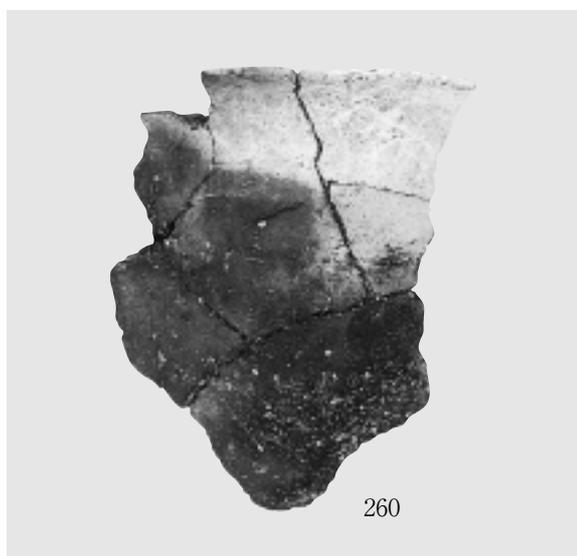
I 区土器集中地点出土土器



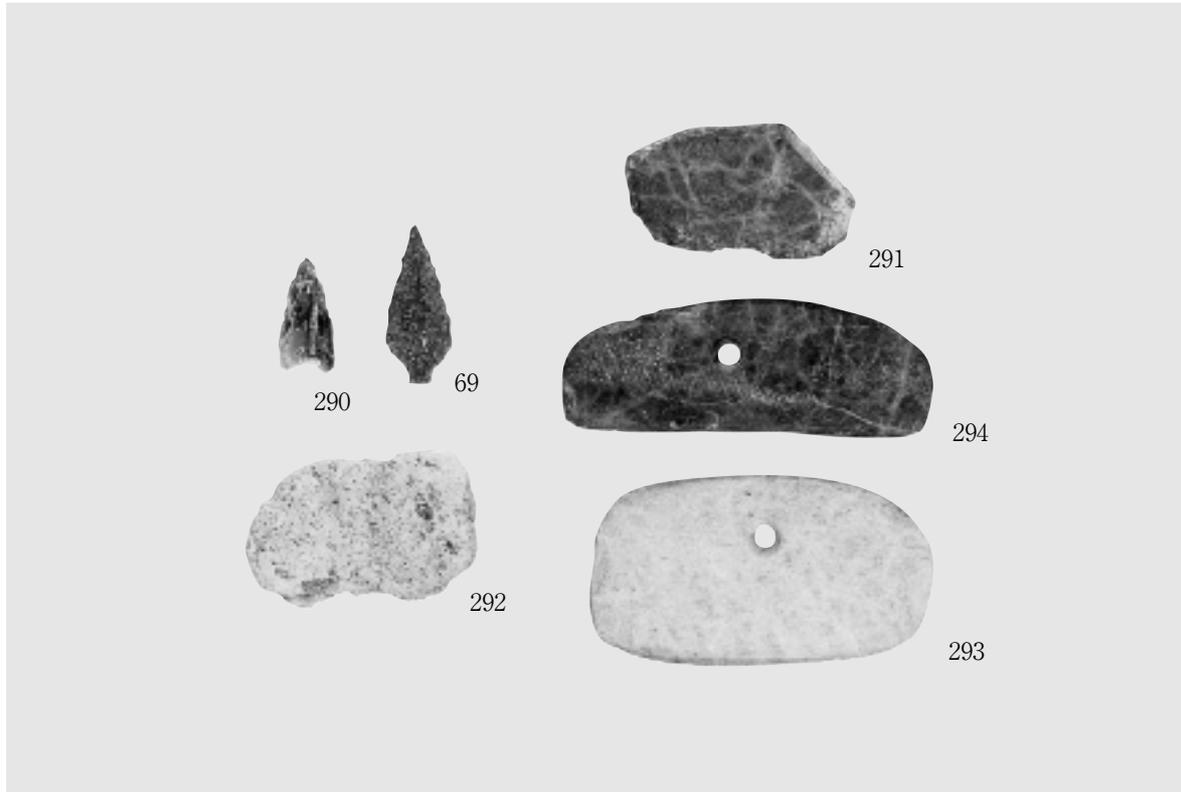
I 区土器集中地点出土土器の支脚(175・224・223)・器台(177・178)



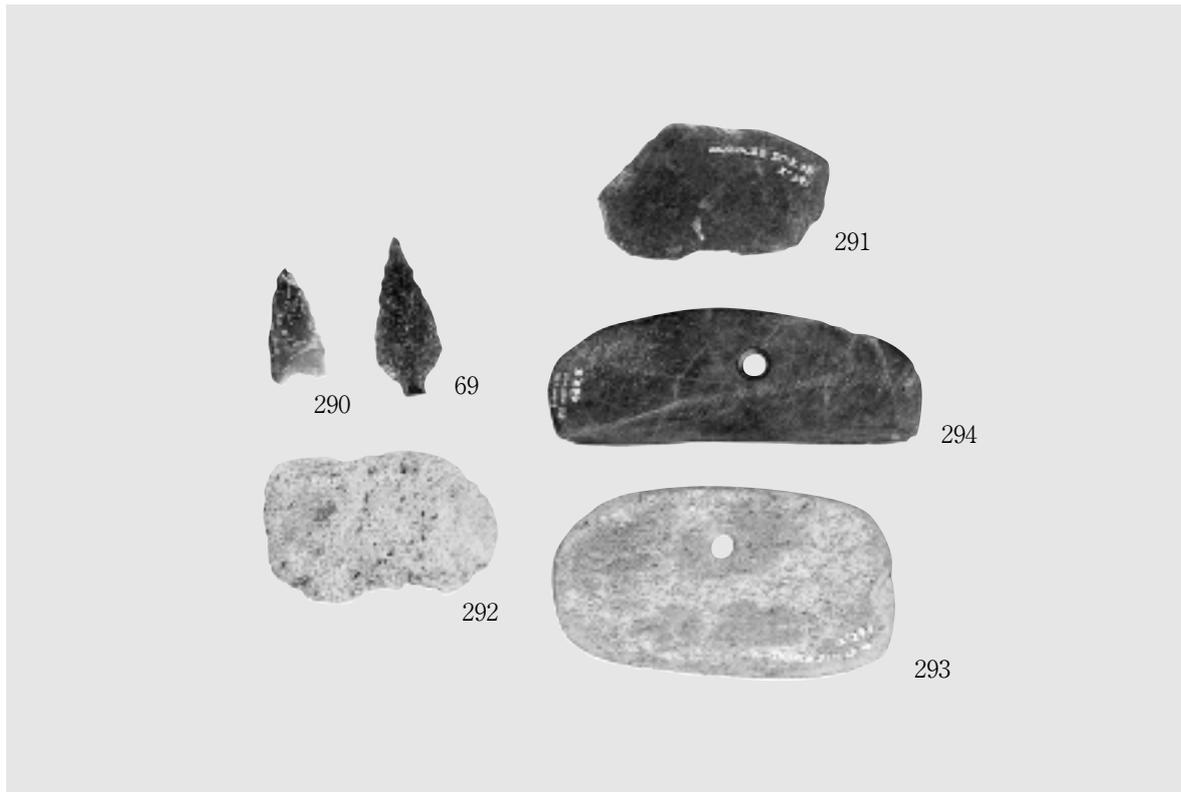
I 区土器集中地点出土土器の支脚(175・224・223)・器台(177・178)



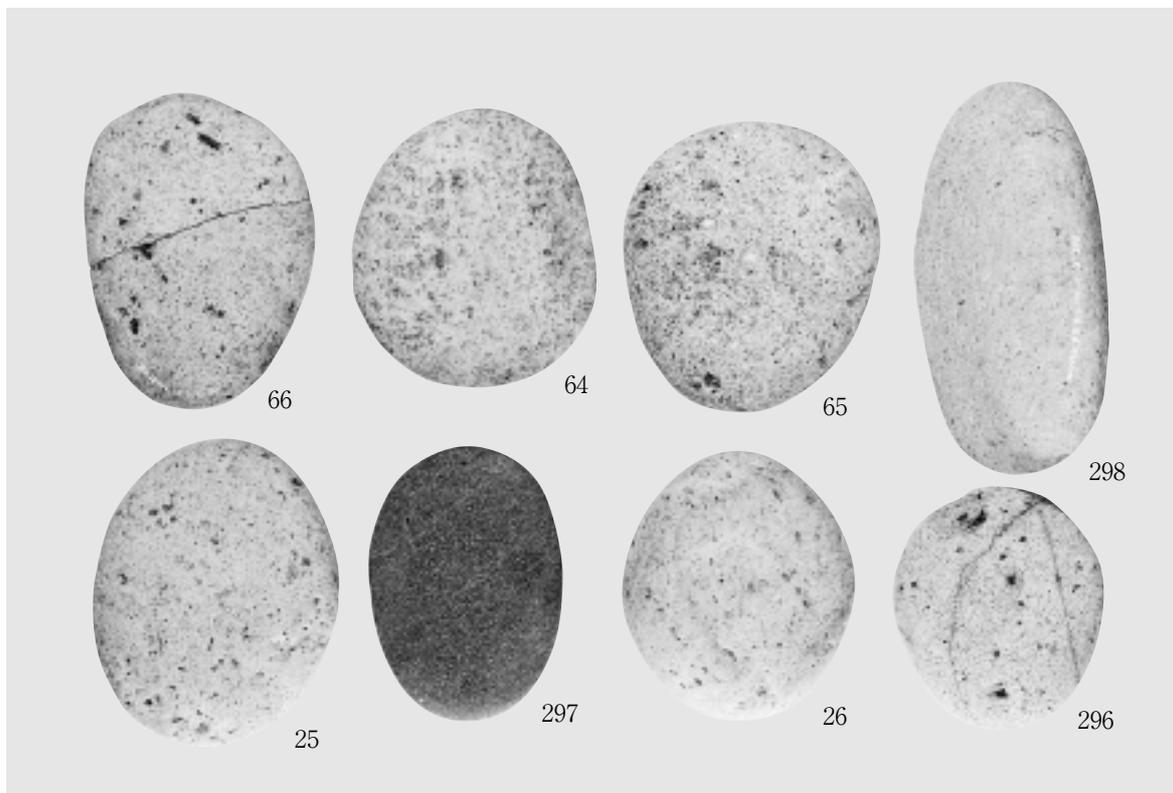
I 区土器集中地点出土の器台(222)、ST1(228・250・260・289)、SD1(306)出土土器



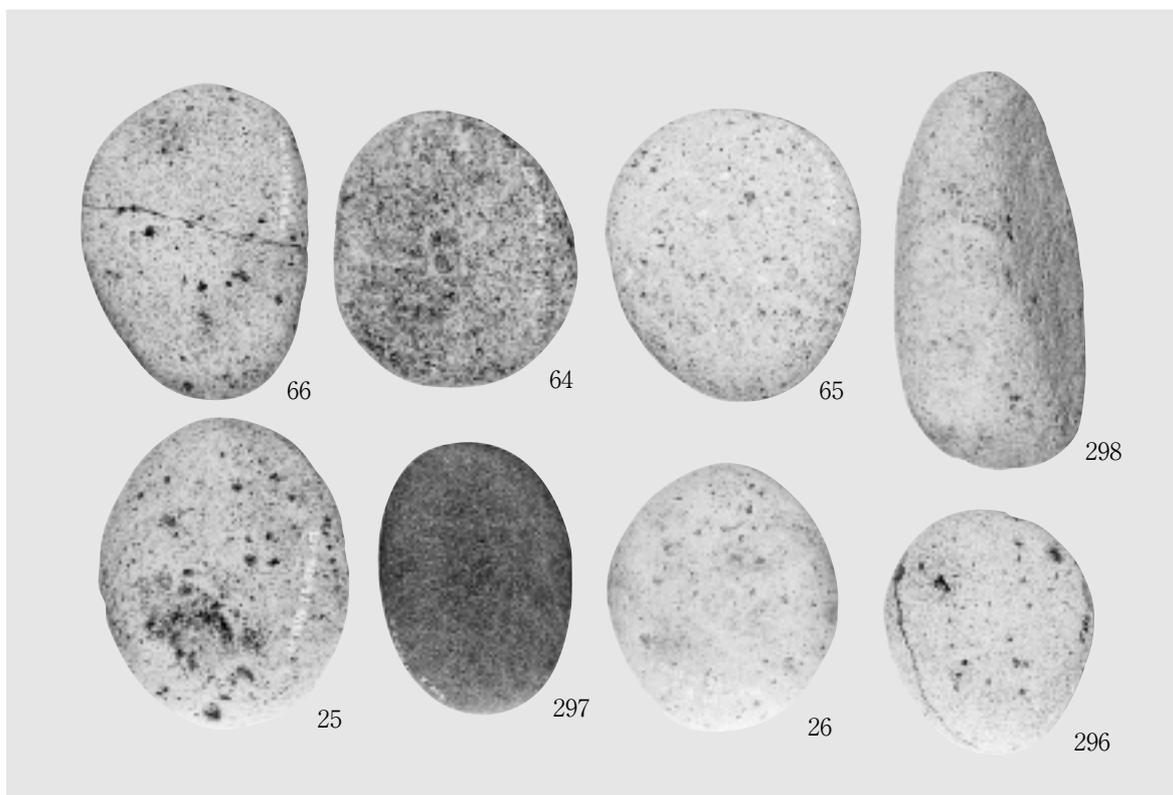
ST4(69)・ST1(290~294)出土石器



同上裏面



ST1(296~298)、ST2(25)、ST3(26)、ST4(64~66)出土叩石



同上裏面

報告書抄録

ふりがな	ひがしえまがりいせき							
書名	東江曲遺跡							
副書名	新川川支川(北山川)災害復旧助成事業に伴う東江曲遺跡発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第79集							
編著者名	出原恵三・小嶋博満							
編集機関	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL.088-864-0671							
発行年月日	2003年2月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしえまがり 東江曲 いせき 遺跡	こうちけん 高知県 あがわぐん 吾川郡 はるのちやう 春野町 ひがしえまがり 東江曲 1794番地	39383	340062	33° 30' 57"	133° 29' 57"	平成13年 7月11日) 平成13年 10月31日	790.54m ²	新川川支川 北山川改修 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東江曲 遺跡	集落跡	弥生時代 後期	竪穴住居跡		弥生土器 土師器		遺跡位置は 世界標準座標 で表記	

東江曲遺跡

2003年2月

発行 (財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社